

平成27年度

参与の会報告書

平成28年2月19日（金）

独立行政法人国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校

目 次

| | | |
|----|------------------------|----|
| 1. | 参与の会参与名簿 | 1 |
| 2. | 参与の会規則 | 2 |
| 3. | 参与の会日程表 | 3 |
| 4. | 出席者名簿 | 4 |
| 5. | 参与の会議事 | 5 |
| 6. | 事前質問事項に対する回答 | 29 |
| 7. | 平成27年度自己点検評価書 (添付資料) | |

1. 参与の会参与名簿

| 氏名 | 役職名 | 備考 |
|------|------------------|-------|
| 呉屋守章 | 沖縄県工業連合会会長 | 第1号委員 |
| 上江洲隆 | 沖縄県中学校長会会長 | 第2号委員 |
| 金城盛順 | 沖縄県金型技術研究センター長 | 第2号委員 |
| 有住康則 | 琉球大学工学部長 | 第3号委員 |
| 糸村昌祐 | 前沖縄工業高等専門学校長 | 第3号委員 |
| 金城哲成 | 名護市商工会会長 | 第4号委員 |
| 牧野守邦 | 内閣府沖縄総合事務局経済産業部長 | 第5号委員 |
| 下地明和 | 沖縄県商工労働部長 | 第5号委員 |

2. 参与の会規則

沖縄工業高等専門学校参与の会規則

平成17年11月1日
規則第12号

平成19年3月30日
規則第3号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号）第7条の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校参与の会（以下「参与の会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 参与の会は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）の管理運営、教育研究活動等の状況について評価、助言又は勧告を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 参与の会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について外部評価を実施するものとする。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画等に関する事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の管理運営に関する事項

(組織)

第4条 参与の会は、高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有し、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の参与をもって組織する。

- (1) 経済・産業界の関係者
- (2) 技術者教育関係機関の職員又は経験者
- (3) 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の教員又は経験者
- (4) 本校の所在する地域の関係者
- (5) その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者

(任期)

第5条 参与の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第6条 参与の会に会長を置き、校長が指名する。

2 会長に事故等があるときは、校長が指名する参与がその職務を代行する。

(運営)

第7条 参与の会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。

2 会長が必要と認めたときは、参与以外の者を会議に出席させ、意見を聴取することができる。

(事務)

第8条 参与の会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、参与の会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年11月1日から施行する。

附 則（平19. 3. 30規則第3号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

3. 参与の会日程表

| | | |
|-------------------|---------------|-------------|
| I. 日 時 | 平成28年2月19日(金) | 14:00~17:00 |
| II. 場 所 | 沖縄工業高等専門学校 | メディア棟2階 会議室 |
| III. 会 次 第 | | 予定時刻 |
| (1) 開 会 | | 14:00 |
| (2) 校長挨拶 | | |
| (3) 参与紹介及び本校出席者紹介 | | |
| (4) 会長選出 | | |
| (5) 高専を取巻く状況 | | 14:20 |
| 休 憩 | | 14:40 |
| (6) 事前質問事項回答 | | 14:50 |
| (7) 意見交換 | | 15:30 |
| (8) 閉 会 | | 17:00 |

配布資料

- ① 沖縄工業高等専門学校参与の会冊子
 1. 日程表・・・・・・・・・・・・・・ 1
 2. 出席者名簿・・・・・・・・・・・・・・ 2
 3. 座席表・・・・・・・・・・・・・・ 3
 4. 参与の会規則・・・・・・・・・・・・・・ 4

- ② 平成27年度自己点検評価書
- ③ 事前質問に対する回答
- ④ 沖縄工業高等専門学校 2015 学校要覧
- ⑤ 学生生活の手引き 平成27年度
- ⑥ 中学生向けパンフレット2015

4. 出席者名簿

○ 参与出席者

| 氏 名 | 役 職 名 | 備 考 |
|---------|------------------|-------|
| 呉 屋 守 章 | 沖縄県工業連合会会長 | 第1号委員 |
| 上 江 洲 隆 | 沖縄県中学校長会会長 | 第2号委員 |
| 金 城 盛 順 | 沖縄県金型技術研究センター長 | |
| 有 住 康 則 | 琉球大学工学部長 | 第3号委員 |
| 糸 村 昌 祐 | 元沖縄工業高等専門学校長 | |
| 金 城 哲 成 | 名護市商工会会長 | 第4号委員 |
| 牧 野 守 邦 | 内閣府沖縄総合事務局経済産業部長 | 第5号委員 |

○ 沖縄工業高等専門学校出席者

| 氏 名 | 役 職 名 |
|---------|-------------|
| 安 藤 安 則 | 校長 |
| 杉 本 和 英 | 副校長（教務主事） |
| 成 田 誠 | 寮務主事 |
| 池 松 真 也 | 副校長（研究担当） |
| 伊 東 昌 章 | 副校長（産学連携担当） |
| 姉 崎 隆 | 評価対応委員会委員長 |
| 仲 地 善 則 | 事務部長 |
| 仲宗根 勉 | 総務課長 |
| 野 口 修 | 学生課長 |

5. 参与の会議事

(1) 開 会 (仲宗根総務課長)

仲宗根総務課長から平成27年度沖縄工業高等専門学校参与の会の開会を宣言した。

(2) 校長挨拶 (安藤校長)

校長の安藤です。今日はお忙しい中、沖縄高専のためにお集まり頂き教職員一同感謝申し上げます。沖縄高専は12年目となりますが、地域に貢献しうる人材育成と共に教職員も地域に貢献することが第一だと考えています。そのためには、教育・研究という観点から、参与の方々、学外の方々の客観的なレビューを受けて、なお一層発展出来るように私どもは展開していきたいと思っております。

本日は、長時間にわたりますが、いろいろなことをご審議頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

(3) 参与紹介及び本校出席者紹介 (仲宗根総務課長)

仲宗根総務課長から参与及び本校の出席者紹介を行った。

(4) 会長選出

参与の会規則第6条に則り、安藤校長が琉球大学工学部長有住教授を会長に指名した。

○有住会長挨拶

ただいま選出いただきました琉球大学の有住でございます。よろしくお願い致します。

それでは、さっそく議題に入らせていただきたいと思います。

まず最初に安藤校長に「高専を取巻く状況」について、お話願います。安藤校長よろしくお願い致します。

(5) 高専を取り巻く状況

○安藤校長

沖縄高専を含めた高専全体の動きを最初にお話しします。その後、沖縄高専の課題も含めて、アクティビティについて報告させて頂きます。高専の第一期校は昭和37年に13校出来ました。九州では佐世保高専が第一期校です。現在は、ほぼ各県に高専がありまして、全国に51高専があります。沖縄高専は初代校長である糸

村先生が設置されたのが12年前で、来年度は13年目に入ります。

全国の高専には学生が約5万人、教員が約5千人となっており、国立大学の5大学のサイズとなっています。それぞれの高専がそろそろ50周年を迎えて、いろんな意味で改革の話が進んでいます。一番今高専全体にとって頭が痛い問題を申し上げますと、国立大学も同じ問題だと思いますが、毎年人件費以外の運営費交付金が3%カットされます。今回の人事院勧告で人件費が多少上がるということで、

全体的に予算が下がるのに人件費が上がるということは、使える実務の予算が制限されます。高専の学校運営には大変厳しい状況であります。現在行われているのは、北海道から沖縄まで51高専を5つのブロックに分けて、今後高専をどのように効率的に運営するか、あるいはどのような協力してやって行けば良いかということ各ブロックごとで検討することを昨年から進めてきています。来年度の予算については、国立大学法人については、ほぼ、前の年と変わらないと聞いております。高専機構もトータルで740億円ほどで、1億円だけプラスにたったぐらいです。その意味では、運営費交付金カットに少しばかりブレーキがかかりました。安心してはいけませんが、次年度だけの状況をみればそう言う状況であります。国立大学がこういう状態ですから、なおさら、高専機構としては、5年後、もうちょっと先にどれだけ高専を効率的に運営できるかという非常に大きな課題であります。そのため、より一層の地域貢献、産業界、地方自治体等と良く相談しながら各高専で生き残り作戦を行っているところであります。全体の流れとしましては以上であります。

これから沖縄高専についてお話しさせていただきます。私は昨年度4月に赴任しまして、それまでは、島根大学で8年間教授を勤めており、その前はIHI石川島播磨重工業に勤めておりました。そういう経歴でございまして、沖縄高専に赴任の際に沖縄高専の重点方針として3つ掲げました。第1として教育・研究のグローバルスタンダード化、第2として卒業・修了の出口管理の充実、第3としてリスク対応力の強化、この3つを掲げて推進して参りました。教育・研究のグローバルスタンダード化という観点からは、アクティブラーニングを進めております。また、教員のキャリアパスとして専攻科特例認定で学位指導ができる教員を推進しようとしており、教育・研究のグローバルスタンダード化、かつ、学生のインターシップの推進を行っています。

卒業・修了の出口管理の充実につきましては、本来高専として考えてきました専門性に優れて世の中に貢献できるような人材を育成することとしてきましたが、27年度から開始した航空技術者プログラムは、伊丹で行っている西日本全体の整備事業を那覇に移すことで、沖縄高専から二桁単位の航空技術者の育成をお願いしたいということからスタートしています。その他に、沖縄県の21世紀ビジョンに基づきまして、再生医療プログラムで年間3億円、3年間のプロジェクトを受託しまして、再生医療のための細胞を大量に発生させる技術、それを飛行機等を用いて輸送させる技術等のプログラムであり、これに臨床培養士コースを起てる計画であります。これに関しましては、日本再生医療学会のほうから初めての学校カリキュラムということで、臨床培養士育成プログラムをやってもらいたいということです。そういった新しい流れを創ってきております。また、サイバーアタック等でコンピュータの乗っ取りがあり、それを防ぐための人材は非常に枯渇しておりまして、これに対して、高専機構全体で4つのモデル校でスタートさせる計画があり、その内の1校が沖縄高専であります。これによってより尖った、かつICTの能力を超えた学生を育成していこうということです。これらのことを主な出口管理としています。

リスク対応力の強化につきましては、隣が、米軍基地であり、何時事故が起こるか分かりませんが、こういう教育環境の基でのケーススタディー、学生の心と体のケア等、如何に健全に育成するかを進めてきました。

これらの事項の成果を申し上げますと、教育の成果でございますが、学生が中心で行っているICT委員会の活動内容が総務省が主催する「ビジネスモデル発表会」において、大学院生、大学生を押さえて本校の1年生3名の女子学生が総務大臣賞を受賞しました。ICT教育の成果が現れていると思います。また、沖縄力発見ツアーのなかでICT関係ということで全国の企業の部長、取締役等が沖縄高専を訪問された際に本学のICT関係のアクティビティということでドローンとかプログラミングコンテスト、ロボティクスについて、学生を中心にプレゼンテーションをしてもらいました。これが非常に好評でして、その成果が総務大臣賞に繋がったと思います。

ICT以外にも伊藤園俳句大賞の受賞や論文賞受賞。体育系では九州沖縄地区バスケット女子で準優勝しました。学生達はいろいろな分野で活躍しております。

教員については、1日の勤務時間の半分を教育に充て、その教育の為に研究に取り組んで頂き専攻科の指導教員となるべく評価認定を得ることも目標としています。

本校の教員の74%が学位授与機構で評価認定されていますが、なお一層の教員の認定評価を頂こうかと思っています。

次に研究プロジェクトでございますが、航空技術者プログラム、情報セキュリティー、再生医療プロジェクト、それ以外に桑、月桃など沖縄県産の植物を使った健康食品の開発・事業化等の展開を行っております。特に航空技術者プログラムに関しましては、本科5年の卒業時には、那覇MRO A技術者整備士としての就職がございますが、専攻科では航空工学の専門的分野に入りまして整備士だけでなく三菱、IHI等の飛行機、ロケットのエンジニア、また、九州大学航空宇宙専攻と連携しておりますので、大学院修士課程としての進学シナリオの流れも創ってきております。以上研究事業プロジェクトに関しましては、地域に根ざし、地域のニーズに応じて進めて参りました。産学連携についてお話致しますと産学連携担当の伊東副校長を中心に、毎月、技術相談会としまして、地域の企業の方々との連携等の打ち合わせ会を行いまして、出来るだけ、本校の持っている研究結果を展開できるようにしたい思い進めております。その成果としまして、全国国立高専51校ある内の外部資金ファンド獲得額が本校が1位となりまして、2位との差が5割位あります。教職員一丸となった成果が表れていることと思われまます。なお、最近の動きとしましては、コザ信用金庫と「産学連携に係る協力推進に関する覚書」の締結、日本トランスオーシャン航空株式会社と航空技術者プログラムに関する連携を行いました。

JTAの737にダッシュ800型のジェットエンジンを搭載するにあたり、ダッシュ400型の現役のジェットエンジンを航空技術者プログラムの一環として沖縄高専に寄贈する計画があります。実物のジェットエンジンを観て、触れることが重要なことと思います。このようなことを基にさらなる連携を進めて行きたいと思っております。

最後になりますが、平成30年を目指して、学科改組を計画しています。先ほど有住先生にお伺いしたところ、琉球大学では29年度からの学科改組を進めていると聞いておりますのでご指導頂けたらと存じます。今、考えておりますのは、開設から12年経っておりますが、これだけ世の中が少子高齢化、更にグローバル化という観点から開設当時から違ってくるトレンドとなって来ております。その当時ベスト

と思われた4学科よりは、一層、沖縄県、日本とアジアを結ぶこの地域に立つ高等教育機関としての役割は変わって来ているのではないかと考えまして、そのコンセプトから1学科4コースになるのではないかという思いはあるのですが、この件につきましては、3月までにまとめまして、4月以降参与の会の皆様にいろいろ御意見を伺いながら、高専機構、文科省との調整し改組をより確かなものにしたと思っています。高専全体が変わることに対して東京工大の学長を中心として高専の充実を考える会を継続して行っていますが、3月に答申がまとまる予定です。これを基に高専自体がどういう方向に行くのか大きな意味の答申が得られると思います。

(6) 事前質問事項等回答

○有住委員長

本会を開催するにあたり、参与の皆様から事前に質問事項をいただいております意見交換の前に、学校側からの説明をお願いします。姉崎評価対応委員長よろしくをお願いします。

○姉崎評価対応委員会委員長

質問、回答の組み合わせで順次説明させていただきます。

質問事項1、『一般科目の教授数が増えない理由は、財政上あるいは昇任判定で業績不足ですか？』

回答、『各高専の教授定員は決められており、それを超えて昇任させることはできません。現在本校の各学科の教授定員枠は満たしている状態であります。』

質問事項2、『推薦入試倍率が1倍の場合、受験生は全員合格となるのですか？他高専では、受験倍率が1倍を切る深刻な状況もあるやに仄聞しています。』

回答、『推薦入試の趣旨を鑑みれば、合格基準に達している場合は基本的に全員合格となるものと思われまます。』

質問事項3、『一部の高専間で導入されている複数校志願受験制度（15頁）について説明いただきたい。ネットでは、各高専の合格偏差値も掲載されているが、沖縄高専で複数校志願受験が採用される場合のメリット、デメリットは？』

回答、『メリットとしては、今以上に本土の中学生に本校を選択肢に加えてもらうことにより、入学者確保に繋がる可能性があります。デメリットとしては、本校を第一志望としている受験生の合否に影響を与える可能性があります。』

質問事項4、『9頁の表：学修総まとめ科目担当教員数がいきなり揭示され、対する説明も無い。昨年度の自己点検評価書との相違は、新たに指導補助教員として、助教3名が加わった（審査を受けた）だけのようにも見える。教授、准教授の中で、退職・新採用等により、実際の担当者には昨年と今年で異動がありますか？』

回答、『本年度の専攻科学修総まとめ科目担当教員は、昨年度2名の退職に伴い、新採用教授1名、准教授昇任1名を補充し、指導補助教員として助教3名を新たに加えました。』

質問事項5、『平成27年は専攻科設置後初めての「教育の実施状況等の審査」が行われた年だと思われませんが、この5年間で、専攻科担当教員の異動と指導教員の判定結果（人数等）は？』

回答、『平成26年度に「認定専攻科における教育の実施状況等審査」があり審査結果「適」と認められました。各年度の専攻科担当教員数は次のとおりです。

本年度の特例適用専攻科の指導教員数は学修総まとめ科目担当教員数(P9)です。』

専攻科担当教員数

| 年度 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教(指導補助) | 合計 |
|----|----|-----|----|----------|----|
| 22 | 20 | 19 | 1 | 0 | 40 |
| 23 | 22 | 17 | 1 | 0 | 40 |
| 24 | 20 | 16 | 1 | 0 | 37 |
| 25 | 20 | 17 | 1 | 0 | 38 |
| 26 | 19 | 19 | 1 | 0 | 39 |
| 27 | 20 | 20 | 1 | 3 | 44 |

質問事項6、『過去、5期生までで、専攻科を修了したものの、学士号取得の最終試験が不合格あるいは、取得試験を受験しなかった学生は居ますか？各期毎の入学数、修了者数、学位取得者数、進学者数（大学院等へ）、就職者数をまとめた表を示していただくと一目瞭然です。』

回答、『専攻科各期毎の入学数修了者数、進学者数および就職者数を揭示しました。』

| 専攻科修了状況等 | | | | | | |
|---|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|
| | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
| 入学者数 (前年度) | 28 | 37 | 25 | 24 | 34 | 32 |
| 修了者数 | 27 (27) | 32 (31) | 25 (24) | 23 (23) | 34 (33) | 27 (申請中) |
| 進学者数 | 12 | 14 | 9 | 9 | 10 | 8 |
| 就職者数 | 14 | 17 | 15 | 14 | 22 | 17 |
| (注)()は学士取得者数 平成27年度については学位授与機構へ申請中である。 | | | | | | |

質問事項7、『特例適用認定専攻科修了による学士（工学）取得は、今年3月の修了生からと思いますが、専攻科6期入学生は全員学士号取得見込みですか？』

回答、『休学者を除く全員27名が学士取得見込です。』

質問事項8、『本年度の専攻科課程の実入学者が定員割れした理由は何と考えられますか。』

回答、『設置時より本校の定員は他高専の1.5倍と多かったが、一部のコースの入学者数は伸びず、他コースの入学者数でカバーしている面がありました。本年度は、そのコースの受検者数が落ち込んだため、定員を充足することができませんでした。』

質問事項9、『15歳人口の減少や財政面での予算減、あるいは工業高校や専門学校の高度化など、高専の将来にとって厳しい状況にあるように思えます。将来の高専像について、高専機構本部はどのように考えているのか、本部での校長会議あるいは九州沖縄地区校長会議等での状況をお話しいただきたい。』

回答、『文科省の方では高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議を開催し、今後の高専教育（公立、私立を含め）をどうするかについて検討しており、3月いっぱい結論がでる予定です。機構本部では、全国を5つのブロックに分けて協働できることについて話し合いを行っています。第5ブロック（九州沖縄地区）では今年度の後学期から専攻科の授業（品質・安全マネジメント特論）について本校と鹿児島高専、大分高専とテレビ会議システムを利用して授業を行いました。』

○安藤校長

高専機構全体は、数年先を見据えた時に危機的状況にあるという認識の基にこの3月に高専の充実を考える会の答申が出ます。これを踏まえて機構全体での方向性に對

応しながら九州沖縄ブロックの中では先ほどの回答にありましてとおり講義の共有、研究のベクトル化及び事務の効率化等の検討を行っております。

○姉崎評価対応委員会委員長

質問事項10、『高専機構第3期中期目標に向け、27年度から国内外の長期インターンシップ（3ヶ月以上）や短期留学・海外プログラム派遣に対応できるカリキュラム改善が行われたと伺っていますが、長期インターンシップ等に関する実績は無いのでしょうか。』

回答、『・生物資源工学コース（専攻科2年生1名） 日本学生支援機構が実施するトビタテJAPANプログラムにてシンガポールで8月から10月までの間インターンシップを行いました。

・電子通信システムコース（専攻科1年生1名） 富士通九州システムズに9月から12月までの間長期インターンシップを行いました。

・生物資源工学コース（専攻科1年生1名） 長岡技術科学大学に8月から9月の間長期インターンシップを行いました。』

質問事項11、『産業界から、応用力につながるソフトウェア工学の基礎力を充実させることは大切だと言われているがどのような状況でしょうか。』

回答、『ソフトウェアを主掌するメディア情報工学科の例で記します。

基礎力涵養のため、アルゴリズムとデータ構造、形式言語理論、グラフ理論やオートマトン等の離散数学の学修。オブジェクト指向言語学修を通じたソフト部品化やソフト継承の理解。種々のプログラミング言語学修を通じたソフトツールや開発環境の理解。ソフトウェアエンジニアリング手法の基礎知識の学修。以上を通じ基礎力の充実を図っています。』

質問事項12、『退学者及び休学者の現状、休学者のフォローアップについて伺います。』

回答、『専門性の不一致ならび学業不振に関しては、進路変更も含め、本人・保護者と担任間にて情報交換・共有を図っています。病気・体調不良、心的外傷に関しては、本人・保護者のみならず、医療期間とも連携して回復に向け見守りを続けています。』

退学者、休学者の人数は次に掲示している状況です。

退学者発生年度推移

| | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 (平成28年1月末現在) |
|-------|--------|--------|--------|------------------------|
| 1年 | 0 | 4 | 5 | 1 |
| 2年 | 0 | 5 | 6 | 6 |
| 3年 | 7 | 7 | 5 | 2 |
| 4年 | 0 | 2 | 3 | 1 |
| 5年 | 1 | 2 | 2 | 0 |
| 専攻科1年 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 専攻科2年 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 合計 | 9 | 21 | 22 | 11 |

休学者推移(発生年度)

| | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 (平成28年1月末現在) |
|-------|--------|--------|--------|------------------------|
| 1年 | 0 | 3 | 2 | 1 |
| 2年 | 0 | 0 | 1 | 5 |
| 3年 | 7 | 2 | 4 | 11 |
| 4年 | 3 | 5 | 4 | 4 |
| 5年 | 1 | 3 | 1 | 4 |
| 専攻科1年 | 0 | 0 | 3 | 1 |
| 専攻科2年 | 0 | 3 | 0 | 2 |
| 合計 | 11 | 16 | 15 | 28 |

質問事項13、『外国語（英語）教育に力を入れているようですが、英語での問いに対して直接英語で考えて答えるように仕向けるような訓練をされているのでしょうか。』

回答、『「English CommunicationI」の授業科目（資料1）において、学生は様々なトピックについて英語で考え、英語で感想や意見を表現することを行っています。

また、他授業でも、エッセイライティングやプレゼンテーションなど、英語で考えて意見を発信する課題を多く行っています。』

○安藤校長

この質問に対して追加して申し上げますと、1月に全国高専英語プレゼンテーションコンテストがありまして、沖縄高専は優秀賞を受賞しました。英語教育の中でコミュニケーション能力に力を入れた成果だと思いますが、英語を流暢にしゃべれるのが英語教育ではなく、コンテンツ自分の考えていることメッセージを伝えることが出来

る事、かつ、専門性に裏付けられた情報発信が英語教育には重要だと考えております。

○姉崎評価対応委員会委員長

質問事項14、『航空技術者プログラムの設立は関心が高く期待しています。一期生16名の現状と同プログラムの課題及び対策を伺います。』

回答、『現状、4月から航空プログラムが設置され、現在16名の学生が履修しています。ANAから教授1名を派遣してもらっています。その教授によると1年から3年までに学んだ専門科目の知識を前提として航空整備の基礎から追加して行く予定であったが、学生にとっては初めて聞く内容が多かったため言葉の解説から始めたということです。学生は、夏休みにインターンシップをANAで行った際に前期の授業で学んだことを実機で確認できたようです。後期は、航空力学の参考書を使用し、基礎的な部分を紹介していきました。

課題、那覇空港にできる予定であった航空機整備会社「MRO JAPAN」で実機実習を行う予定であったが、格納庫がまだできていないため県外の整備施設に行つてインターンシップを行っています。

対策、「MRO JAPAN」の格納庫ができるまでは、大阪の伊丹空港の「MRO JAPAN」で4年生のインターンシップを行い、5年生の実機実習は那覇空港のJTAで行う予定となっています。』

○安藤校長

ANA、JTAのエアラインの協力を得て航空技術者プログラムをより進めていこうと考えていますし、さらに、三菱、IHI等の重工企業の協力を得まして、エンジニアの特別講義、集中講義等を行いながら専攻科卒業後には、エアライン、重工企業の就職を目指す。さらに航空技術者プログラムの延長上にあります航空工学は九州大学との航空宇宙専攻と連携して行いますので、修士課程の段階では九州大学院への進学という構想であります。

○姉崎評価対応委員会委員長

質問事項15、『航空技術者プログラムに関して、今後、国交省の「航空従事者養成施設」や「航空機整備訓練過程」の指定を受ける予定はありますか』

回答、『現時点「航空従事者養成施設」や「航空機整備訓練課程」の指定を受ける予定はありません。』

質問事項16、『就職状況について、高専生を求める県内企業の声もある中、県外

就職者が大半を占めるなど技術的専門性を有する若手人材の県外流出が惜しまれます。県内産業界の課題としては、県外に比べ、県内企業の求人活動が遅いことや、受け皿不足等が挙げられます。一方で、沖縄高専としても、県内企業のインターンシップに参加した学生が県内企業に就職しなかった理由等を把握し産業界にも伝えるようにすれば、現状の改善に繋がるのではないのでしょうか。』

回答、『教育カリキュラムに必修として位置付けられる本校でのインターンシップでは、学生の職業観を深め、企業で求められる人材像や技術を理解することを目的とし、県内外の多くの企業にご理解・ご協力をいただきながら実施しています。学生の志向性と企業の求めるインターンシップとをマッチングさせる機会や企業技術者自身で学生に発信していただく機会を設け、学生が広く業界や職種に目が向くようにしており、また、学科ごとのインターンシップ報告会はクラス全体にインターンシップ受け入れ企業の様子を伝える機会になっております。就職については県外就職した学生の県内企業に就職しなかった理由や、逆に県内就職した学生の就職を決めた理由等を把握するよう努め、引き続き県内企業様との情報交換を進めてまいります。』

質問事項 17、『就職希望者の学生が地元企業へ目を向けるための学校の工夫(教員向け・学生向け)を伺います。』

回答、『主な行事として、県内企業合同説明会の開催、県内企業との定期懇談会(学生、教員)、県内企業の人事採用担当者セミナーおよび情報交換会への教員の参加、県内企業合同入社式および懇親会への教員の参加、授業における県内企業の見学等を行っています。』

質問事項 18、『就職者の「離職率」は把握しているか伺います。県内では新規学卒3年間の離職率(高校H22年3月卒)沖縄58.2%、(大学H22年月卒)沖縄50.1%となっており離職率の改善が課題となっています。』

回答、『離職の状況については、卒業生本人やその友人からの情報、あるいは就職先企業との面談等での情報交換により頂いている状況です。』

質問事項 19、『企業の場合、入社すると資格を取らされることが多いと思いますが、高専では在学中に得られる資格と卒業したら得られる資格はあるか伺います。』

回答、『「English Skills」(資料2)、「実用英語(TOEIC)」(資料3)の授業科目においてTOEIC受験に対応できる知識を養う授業を行っています。

また、資格試験取得に関しては特別学修一般、特別学修専門(資料4)として単位

を認めることがあります。卒業要件単位には含めないものとしています。

沖縄高専卒業と同時に得られる資格は特にありません。』

質問事項 20、『産学官連携の現状と課題及び対策を伺います。』

回答、『沖縄工業高等専門学校産学連携協力会（現在の会員数は、企業・団体会員 111、個人会員 24）を設置しています。地域連携推進センターを窓口とし、産学連携協力会の支援、協力のもと活動しています。地域連携コーディネーターを配置し、定期の技術相談はもとより随時の相談についても企業訪問等を実施し、本校教員とのマッチングを行っています。技術相談からいかに共同研究、受託研究へと繋げていけるかが課題としてあげられます。センター長、地域連携コーディネーターによる企業訪問を実施し、潜在的な企業ニーズの把握に努め、企業と沖縄高専との距離感を縮める取り組みを検討しています。』

質問事項 21、『外部資金(64ページ)の用途および目的について伺います。また、どのくらいの規模の金額があれば、高専の学校運営に十分なのか伺います。』

回答、『外部資金の用途については、それぞれ研究題目を設定し、機械装置の開発や情報処理能力の改善、高速化の技術開発、また生物資源等の有用性の向上や成分の最適な抽出等、相手先と協議しながら課題解決を目指した研究にかかる経費として使用しています。また、外部資金獲得額は、平成 26 年度において全国の国立高専 51 校中トップであり、このことは沖縄高専の産学官連携が堅調に推移していることを示すもので、この状況を維持していくことが重要であります。本年度の受入実績として、資料 5 にそれぞれの項目の内容等を掲示しています。』

○安藤校長

高専の学校運営にどのくらいの予算が必要なのかという質問ですが、教職員数が 135 名在職しており、人経費、運営費交付金、外部資金等諸々含めまして、15 億程度必要かと思われます。

○姉崎評価対応委員会委員長

質問事項 22、『共同研究、受託研究の内容を伺います。』

回答、『共同研究（公益法人等 3 件、大学等 5 件、民間企業等 15 件）受託研究（国 3 件、沖縄県 3 件、公益法人等 2 件、大学等 1 件、民間企業等 7 件）資料 5 にそれぞれの項目の内容等を掲示しています。』

質問事項 23、『生物資源工学科が名護市と連携している 6 次産業化について、今

年度の実績等を御教示願いたい。』

回答、『名護市との連携について展開はまだですが、本部町伊豆味の共同開発者とライフスタイルイノベーション創出事業(沖縄県)として地域天然資源である琉球藍を、新たに食品や機能性食品として利用するための技術開発ならびにマーケティング調査を、実施しています。』

質問事項24、『昨年質問事項のNo15(本自己点検評価書において、自ら定めた目標の達成度を評価すべきこと等)に関して、「自己点検評価書作成項目について検討を行います」との回答がありましたが、今回の自己点検評価書作成に当たって、どのように検討がなされたのか御教示願いたい。』

回答、『本年度の自己点検評価書の作成については、「独立行政法人評価・学位授与機構」が定める高等専門学校評価基準の内容に沿って作成しました。高等専門学校評価基準は、教育活動を中心として高等専門学校の教育研究活動等の総合的な状況を評価するために、(基準1高等専門学校の目的、基準2教員組織、基準3教員及び教育支援者等、基準4学生の受入、基準5教育内容及び方法、基準6教育の成果、基準7学生支援等、基準8施設・整備、基準9教育の質の向上及び改善のためのシステム、基準10財務、基準11管理運営)の11の基準で構成されております。それぞれの基準の項目に沿って、現状、取組、自己評価を掲載しました。本校は平成29年度中に高等専門学校機関別認証評価を受審する予定であり、それに向けて、記述・内容等構成を整理する必要性を鑑みて作成しました。

今年度目標達成を評価する点では、年度途中であるため、本校の年度計画の進捗状況や課題を資料6に掲示しています。』

意見25、『大項目に「連携・交流・広報(仮称)」を設け、地域貢献、産学連携、広報活動、後援会、産学連携協力会等をまとめたほうが、県民、産業界等、部外者にもわかりやすのではないのでしょうか。目次が大雑把過ぎるように思えます。章だけでなく、節や項も記載しては如何か。高等専門学校設置基準や学校教育法に則して設置されているのだから、自己評価で「合致している」と書くまでもないように思います。

「Ⅲ教員及び教育支援者等」では教育支援者等について述べられていない。自己評価は第Ⅸ章の教育の質の向上及び改善のためのシステムと一部ダブっている。

「Ⅸ教育の質の向上及び改善のためのシステム」は、教育の質の向上及び改善のためのシステムが整備されているとのことだが、実データは示されておらず、第三者から

は検証できない。学生の課外活動や各種コンテストの受賞状況等を見ると、活躍の一端が伺える。沖縄高専のHP「学校の活動」で報告されている教員の活動（第19回工学教育賞受賞、乳酸菌特許取得、学会賞受賞等）について、記載しても良いのではないのでしょうか。』

回答、『自己点検評価書作成項目・内容等の検討を行います。』

意見26、『アンケート結果：39頁機械システム工学科の学生は英語嫌が多い？専攻科生：社会の基礎知識が3以下と言う結果は、種々の理由が考えられます。アンケートは集計も大変でしょうが、学生がどのように評価しているかを知る貴重なデータです。役立てて下さい。』

回答、『各アンケート調査結果を分析して、今後の教育・研究等に反映させます。』

以上をもちまして、簡単ではございますが、回答とさせていただきます。この後の意見交換の参考にしていただければと思います。

(7)意見交換

○有住会長

ありがとうございました。

それでは、意見交換に入らせていただきます。

今まで説明いただきました事項につきまして、参与の皆様からご質問、ご意見をいただきたいと思っております。それを受けまして、学校側からご回答いただきたいと思っております。時間の都合上、お一人様5分程度、ご質問、ご意見をいただきまして、学校側から5分程度で回答をいただくということで、よろしく願いいたします。

名簿の順に従いまして、呉屋参与からご質問、ご意見をいただけますでしょうか。

○呉屋参与

日本国内での英語教育に疑問を持ってしまして、英語を日本語に訳し、日本語を英語に訳すことで英語を理解している。英語教育の中でそれぞれの語学を変換させず、英語で聞いたことをそのまま英語で理解する訓練を実施してもらいたい。高齢化、少子化という現状がありますが、そのことに吞まれないよう沖縄高専らしい教育のあり方を行ってほしいと思います。また、沖縄高専卒業者の優秀な人材が県外への就職に流出するのは、県内企業の受け皿が無いのも原因ですが、沖縄県にとっては痛手となります。沖縄県21世紀ビジョン、アジアに向けてのいろいろな構想等がありますので、沖縄工業連合会としても協力して行っていく考えでございますので、沖縄高専でしかできない教育がで

きるよう希望します。

○安藤校長

呉屋会長には日頃から、本校に対しての御協力、御理解ありがとうございます。

英語教育について申し上げますと社会のニーズに合うようにこれから変えていこう思っています。例えば、熊本大学の工学部では、3年生から4年生に進学する際にTOEICのスコアが450点以上取らないと進級を認めないということを来年度から始めるそうです。今の企業は、入社試験を受ける段階で、すでに500点以上取得していないと受け付けないといところがほとんどです。沖縄高専の今のペースの英語教育では450点のレベルには至ってません。英語担当教員と具体的に卒業時にどのようなレベルに達しているのか、学校としての目標値を出口管理という意味でセットしようとする動きであります。また、留学生についての受入側、出口側としては英語による専門教育が必要となります。英語のみでの授業はどのようなものがあるか調査は済んでいる状態です。いわゆるグローバルスタンダードを目指して取り組んでいます。

○上江洲参与

沖縄高専のコンセプトであるグローバルスタンダード化、出口管理、リスク対応力、今の時代に合っていると思います。英語立県沖縄戦略事業として、高校生を海外留学として70名派遣していますが、そこで感じるのは、日本がなぜ、英語があまり使わなくなったかということ、英語を使う必要がなかったためです。明治時代に福沢諭吉を始めとして翻訳があり、アジアの中でも特質しているのが日本語だけで専門的な教育ができる国となってしまったためであります。そこで、どうやってグローバル人材を生み出していくかが課題となっております。それで、海外との交流としてシンガポール、上海、オーストラリア、アメリカ、カナダと県の教育長が直接出向いて交流協定書を結んで高校生が交流するシステムを構築しました。沖縄の高校とニューヨークの高校とネットで提携した授業、小学校でもアジアの学校でスカイプを利用して交流授業を行っております。

ネットでの交流も今は非常に求められます。国においても3つの改革を求めており、地域貢献、ICT、専門性を求めております。アクティブラーニングについては、次の世代の教育の目玉になっており、出口管理には、質の高い教員の育成が課題となりますので、アクティブラーニングと教員の育成の2つの点についてお聞かせ願います。

○杉本副校長

アクティブラーニングにつきましては、昨年の3月ぐらいから教員向けに意識改革を行うための「アクティブラーニングとは」というところから初めまして、教員と学生とで模擬授業を数回行いました。これまでの一方向の講義スタイルではない学生の参加型で期待される効果、また、すでに実施されている高専での効果、スコアがどのくらいアップしたのか、学生が講義に対して望むスタイルの変化とかの報告をして貰いながら、まずは教員の意識改革、導入可能な科目から徐々に展開させていき、FD、SDの一環として教職員一体となって教育活動の環境作りから学生に対して支援する位置づけで教育活動をしていく計画です。アクティブラーニング用のホワイトボードを講義室だけではなく廊下等の自由に学習できるスペースに設置する準備、ITボードについても複数台導入する等環境整備にも力を入れようとしているところです。アクティブラーニングが上手く流れていけば、教員はファシリテーター側で学生は自ら学んでいきますので、そういった意味では教員の負担は減っていくのではと思いますが、事前の講義の準備等の負担は多くなると思いますので、まずは、意識を変える事、学生は自らしっかりと学習してきて、講義というよりは、グループで知識、スキル等を習得する環境を作っていく、講義室のレイアウトも含めて変えていくような動きを次年度に向けて働きかけています。

○金城（盛） 参与

地域に貢献する人材育成は、実現するのになかなかご苦労されているとは思いますが。私は、ものづくり産業振興をベースとして人材育成、研究開発の活動をしている立場からみると、例えば従来、沖縄にはものづくり産業はなかなか根付かない。沖縄県内にはものづくり産業の基盤がないため、学生を受入できていない。そういう産業構図を変えて行かなければならない。その環境を変えていくのが大きな問題だと思います。航空産業のMRO事業が大きなチャンスだと思います。伊丹空港に出向いて感じたのが、MROの部品のほとんどを海外から購入している。なかなか地元で生産できない。MRO事業のあり方が、地域のものづくり産業との連関をイメージしておかないと労働集約型になる恐れがあると思います。ものづくり産業の新しいものとして航空整備事業が沖縄に来るので産学官連携の具多的な例となり得るので、きちっととらえて動いた方が良いと思います。これからのMRO事業も含めた航空プログラムの将来的な流れをお教え願いたい。

また、産学官連携での出口管理で産業界との交流が薄いような気がします。特にわれわれの金型技術研究センターとはあまりないです。我々の方にも課題があると思いますが、サポーティング産業振興エリアがあり県内外の企業が15社ほど増えており、沖縄のものづくり産業をダイナミックに動かそうとしています。県内就職の受け皿として沖縄工業連合会と連携して行っていますが交流が少ないと思います。

○安藤校長

MRO事業についてですが、航空機整備事業がメインの話が動いている状況でありまして、那覇MROには、設立会社としてANAだけでなく三菱とそれ以外も入っております。三菱がやっているMRJの整備も視野に置いています。国産のホンダジェット、MRJとなってきましたと今までのボーイングやエアバスは、基本的には日本が絡むとしても35%位の整備であり、MRJについてもまだまだ問題があると聞いております。私が前の赴任地である島根県においても航空機事業を立ち上げようということで地場産業を目指して日立金属がジェットエンジン研究会を立ち上げております。地方自治体として動いております。MRJに関しては、日本主体であり、産業のすそのの広がりが見込まれます。

地方の県でさえそういう動きをしているのは、航空機産業の先をみているいろいろな県で動いているのは確かです。今回お話のある金型も含めた流れも広がっていくのではないかと、ボーイングやエアバスの請負産業だったのが、今までの産業蓄積を基にホンダジェット、MRJとか日本独自の産業が動き出していると考えております。

○伊東副校長

地域との連携については、産学連携担当の私の方から説明致します。

現在、沖縄工業連合会の会議室を利用して、月一回、二社限定で、第三木曜日に定期技術相談会を開催しています。非常に好評を頂いておりますが、那覇市での実施のため中部地区におきましてまだ、手薄であるというのは感じております。

沖縄工業連合会は、うるま市工業団地の進出企業と県内企業を結び付けるという相談を行い、産業振興公社は、よろず相談という形で、うるま市のサポートセンターで連携を行い、そのなかで、沖縄高専は、技術相談を行うという計画を4月から予定しています。

○糸村参与

一五歳以下の年齢層が減少しているなかで、沖縄高専では、学科改組を予定している

と聞いてますが、受験倍率をある程度確保すること、卒業後の進路等をどのような構想の下、考えているのか御教授願います。

○安藤校長

受験倍率は年々変わってきており、どのような動向をみるのかというのがありますが、重要なのは、沖縄高専がどのような教育をどのような内容で行われているのかを受験生に伝えなければいけないと思います。中学校の校長会、エンジニアリングに興味のある所に沖縄高専の教員を派遣させて頂いて、沖縄高専のPRをより一層行って行きたいと思っております。

航空技術者プログラム、再生医療あるいは情報セキュリティなどを分かりやすくすると共に学生が入学してから、エンジニアが向いているとして入学したが文系が向いているのではないかと、生物資源工学科で入学したが機械系が向いているのではないかとという学生もいると思います。それで、学科改組で1学科4から5コースで計画するのは、進路について転科がしやすくするという考えがあり、また、退学を想定する場合、現在のカリキュラムでは、普通高校に転入するのが難しいです。

1年生の段階から一般教養と共に専門科目も受講しますので普通高校とは単位構造が違うわけです。入学してから2年間は共通教養に重点を置き、柔軟性を持たせた進路計画をもたせることが出来るのではないかと思うのですが、他の高専の動きもありますし、本校の学科改組ワーキンググループにおいても検討しています。30年度の学科改組に向けて高専機構と、文科省と調整していく考えです。

5コースとすることは、沖縄の地の利を生かした情報とビジネスを併せた新しい動きも必要ではないか。エンジニアではなく、ビジネスにおいても起業できるような仕掛けが分かる人材も必要ではないかということも検討しています。12年前の創設時には考えられなかった、日本を取り巻く少子高齢化、グローバル化という流れの中で対応していくには、エンジニアの育成のみだけではなく、ビジネスを巻き込んだ融合的な流れを作りたいと考えております。今いる教員だけの延長上にある学科ではなく、新たに教員を採用する必要があるし、今の教員にはベースを残しつつ方向性を変えることも有るかもしれません。コース化することで学科を超えて融合的、流動的に教育を進めることが出来るのではないかと考えています。

○金城（哲） 参与

沖縄高専では、入学後、授業について行くのが大変難しいと聞いております。

その中で、退学、休学となるとは思いますが、基礎的な学力不足なのか、レベルが高いのかお聞きしたいと思います。

○杉本副校長

退学、休学者については、今年度は増えています。この件につきましては、真摯に受け止め、原因、フォローアップということで理由を分析中です。専門性の不一致、学力不振、授業についていけないので進路変更したい。確かに高専のカリキュラムは難しいです。入学当初から、一般教養教育に加えくさび型教育により専門教育も入ってきます。それですから、ある程度の質の保証が出来ているのと、社会からも信頼されている学生を輩出できていると思います。

ミスマッチの部分に関しましては、我々の広報活動を強化して、例えば中学校訪問の際に高専ではどのようなカリキュラムで、どのような人材育成を行うのかいうことをPRして、沖縄高専を知って貰うことだと思います。成績がよいから沖縄高専に入学するのが一番危険で、入れるから入るのではなく、何を目指すかということを考えて頂ける情報を我々が発信しなければいけないと考えています。学校としましては、広報委員会において広報の強化を推進することでミスマッチを減らしていくこととしています。

成績不振の学生に対しましては、補講を行うことでケアしていますが、学生のモチベーション、成績がどうしても上がらないというのも現実としてあることが、頭が痛いところです。

○金城（哲） 参与

名護市の小規模企業の各商工会において、支援型の事業を行う計画があります。

経済産業省から経営改善支援計画を支援するという制度がありまして、名護市商工会、宜野座村商工会、八重瀬町商工会が認定を受けました。その認定を受けた計画に基づいて5年間の事業を展開していく事としています。その事業を推進するに当たり、各機関と連携しながら遂行することとなりますので、産学連携による地域活性化として指導と助言のをお願い致します。

○牧野参与

まず最初に沖縄高専は人材の育成についてはレベルが高いと聞いておりますし、ユニークな体制、内容を持っていると思います。学生については、学生寮についても上手く軌道していると思います。学生のやる気の向上に力を入れた取組だと思います。

地域貢献の観点からは産業界との連携という関係がいくつかあると思います。

ソフトウェア工学の関係ですが、IT企業のほとんどが下請けです。それらの企業はマージンが取れないので、きちんとした処遇ができないため、大学、高専を卒業した人材を確保できないという現状があります。従って、彼らが独自の技術提案が出来るようにならないとせつかくの人材の受け皿ができない。地域の貢献というのは、地域の実状にあわせてどういう人材を生み出して行くかということがあると思います。

航空機技術士については、地域の実状を先取りしてやっておられていて、ITの中小企業が伸びていく目があるとすると、本土の大手企業と互角にやるにはほとんど不可能であり、分野がある程度限定されると思います。その分野で可能性が高いのはセキュリティーの分野とビッグデータを活用した新しいビジネスに繋げていくような分野だろうと思います。セキュリティーについては、2つの分野があって、1つは、コンピュータそのもののセキュリティー、もう一つは、IOTのセキュリティーの分野に目があると思います。現にCCDSと言ってまして重要生活機器連携セキュリティー協議会と組織ですが、大手の企業と組んで沖縄でいろんな事をやろうという組織ですが、大きな企業から観て沖縄のIT人材をどういうふうにするのかと言ったときに、残念ながら、応用力がない。理由はソフトウェア工学の基礎教育を体系的に教えていない。その教育を行える専門の教員がないという指摘を受けています。

例えば単発であれやっています。これやっています。でもよく見るとプログラミングの応用が多く並んでいます。というカリキュラムにみえてしまうので、そうではなく、基礎版のところを体系的に理解して貰うほうが応用力がつくので、技術開発に使えるということの指摘がきています。そこに力を入れていった方が良いと思います。

その辺のお考えをお聞きしたいと思います。

それから、航空機技術者の関係につきましては、地元のニーズに先取りしてきちんと対応してますが、沖縄高専のホームページに本校在学中に航空整備士の資格を取得することはできませんけれども、就職後に資格取得にむけてがんばりましょうということが掲載されています。どれぐらいハードルが高いか分かりませんが、航空機技術者養成施設、航空機整備訓練課程の指定を受けると資格を取得するための経験年数が短縮されるため資格取得に有利な条件になるということですので、今は無理かもしれませんが、将来的な考えをお聞きしたい。

第3点目として、産学官連携と地域貢献の関係からすると、沖縄には産学官連携推進協議会と組織がありますが、呉屋工業連合会長、有住工学部長、伊東副校長も参加した

ことはないと思います。これはまだ組織的な対応ができるような関係になっていないからでありまして、金城金型技術研究センター長も入れていろんな地域のニーズが分かって産・学・官でそれぞれができることをお互い出し合いながら連携してゆくというふうに考えます。

その辺のお考えについてお聞きしたい。

第4点目として県内の企業との関係において、いちばん情報のやりとりがやりやすいのはインターンシップで学生が県内企業をどうみたのか。学生の中からみて、こういう企業には就職してみたい、就職してみたくないという声は、企業側にもフィードバックをかけた方が良いでしょう。そうすれば双方向でより良い結果に導けるような気がします。

その辺のお考えについてお聞きしたい。

第5点目として自己評価として自己点検評価書を作り、参与の方からの意見を反映してより良いものにもって行きたいということなのですが、評価書そのものの作り方が定性的になっていて自己評価の部分が外からみるとなぜその評価になったのかわからない。結果だけ記載している。本来なら、例えば回答の資料7ページのシラバスのように目標の達成度がどのようにできたかが評価になるので、それぞれの項目になにを目指して達成しなければならぬとか、それがどれくらい達成できたのかを示して外から意見を貰った方がより具体的な改善策に結びつくと思います。例えば長期のインターンシップについての質問はうちから出した質問ですが、自己点検評価書の54ページにインターンシップを掲載しているが、どれが長期インターンシップなのか分からない。作成について工夫が必要でないでしょうか。

最後に、外部資金については、非常に良く調達されていて素晴らしいことだと思います。その内訳をみると、共同研究がメインではなくて、受託研究がメインです。この中で筆頭ですが、受託研究のうち「細胞塊の大量生成技術の開発・評価、並びに、再生実証研究等を用いた臨床用細胞技術者の育成」の受託元はどこでしょうか。国、沖縄県、民間企業のどれにあたるのでしょうか。

○安藤校長

IOTを含めた体系的な教育についてはメディア情報工学科姉崎先生から説明をお願いします。

○姉崎評価対応委員会委員長

セキュリティとビッグデータは技術革新が現実には起こっています。それで、学生に教

える内容もそれにあわせて変えないといけないと実感していますが、我々のカリキュラムは30年前で国立大学が情報工学科を創った時のものをそのまま継承しています。ただ、どこもそこを変えているところはないと思います。

○牧野参与

京大の特任教授による発言内容なので、教育者の目からみても変えるべき要素があるようなので、関係者で検討していただければ良いと思います。

○杉本副校長

最新技術に関しましては、IT応用という科目でセキュリティとビッグデータも含めてIT関係全般の最新トピック等で最新情報を取り上げた科目を実施していますが体系的ということではないです。

○牧野参与

私どもの指摘したかったことは、最先端、最新技術を教育してくださいというのではなく、応用力が発揮できるためには、基礎力がなければだめでセキュリティ分野にはハード、ソフト両方、アーキテクチャルも含めて理論的なものも含めて初めて応用ができるので、プログラミング言語のスキルだけでできてそれはプログラマーにしかならない。そうではなくて、ソフトウェアのエンジニアを育成してほしいという企業側の要望があります。

○杉本副校長

計算機工学とか組込型も含めて情報通信工学科では、ハード、ソフトをバランス良く教えてはいますけどどれだけ基礎力がついていて対外的な評価を受けていないのでそれが資格取得率となってしまっているのかどうなのかというところです。

○牧野参与

全体をコーディネートする人がいないと、ハードは、ハードの人、ソフトはソフトの人、それで全体的にやっているとなっているので、その部分の改善が必要だと思います。

○安藤校長

学科改組も含めて、カリキュラムの見直しを行っていますのでそういう方向でいこうと思います。

航空技術者プログラムに関してですが、現段階では航空機技術者養成施設、航空機整備訓練課程のところまでは、レンジが広がっていきないうちはコースを創って技術者育

成が中心となっておりますが、5年先、10年先はそういうことも視野に入れて対応できればと考えております。

○伊東副校長

沖縄県での産学連携の組織的な取組には、非常に重要だと感じておりますので、積極的に参加していきたいと考えております。一方で沖縄高専を中心とした産学連携の組織というのが回答の22番に掲載している沖縄工業高等専門学校産学連携協力会で会員数111でありましてこちらのほうの関係を満にしていこうと考えています。次年度具体的に考えているのは、技術相談としての形で会員企業と繋がりがありますが、まだまだ薄いと感じておりますので、会員企業へ出向いていきまして、どういった活用法を求めているのか、どのようなニーズがあるのかとかを把握して、産学連携協力会を上手く活用して頂くという取組を行っていきたくと考えております。

インターシップについては、県内県外の率が50パーセントで各企業にお世話になっております。それらのインターンシップの状況につきましては、企業側にアンケートを行い評価を頂いております。学生側のアンケートを企業側にフィードバックしているかということにつきましては行っておりません。

○牧野参与

企業側も良い人材がほしいのとれないのが大半なので双方で良い関係を築いた方がいいと思います。

○安藤校長

その件に関しましては、出来るだけ努力したいと思っております。

○杉本副校長

お礼状と併せてインターンシップの感想を送付してありますが、評価とまでとはなっていません。

○牧野参与

企業側でほしい情報は就職の対象としてみた場合どういうふうにみられたのかということですが。

○安藤校長

わかりました。できるだけ努力します。

自己点検評価書につきましては、定性的となっております、我々も反省すべきところがありますので出来るところから努力していくと考えています。

「細胞塊の大量生成技術の開発・評価、並びに、再生実証研究等を用いた臨床用細胞技術者の育成」の受託元はどこでしょうか。の質問ですが、受託元は沖縄県となっております。

○有住委員長

大学もそうなのですが、独自の目標を掲げて、それを向けて達成することがいちばん重要だと思います。沖縄の工学系の教育機関として琉球大学と一緒に努力していきたいと思います。

それでは、よろしいでしょうか。

長時間、どうもありがとうございました。

最後でございますが、今回の参与の会については報告書を作成し、これを公表することにしております。つきましては、作成は学校側で行い、私がそれを確認いたします。場合によっては、参与の皆様にお伺いするかもしれませんが、その際はよろしくお願いたします。

本日は、皆様のご協力により、円滑に会を進めることができました。改めてお礼を申し上げます。

それでは、これを持ちまして、平成27年度沖縄工業高等専門学校参与の会を閉会いたします。引き続き、総務課長から連絡がございますので、そのままお待ちください。

○仲宗根総務課長

長時間、本当にありがとうございました。

最後に、本校長の安藤校長よりお礼の挨拶がございます。

○安藤校長

本日は、2時間半の長時間にわたり、参与の皆様にご協力いただきましてありがとうございます。

本日、多面的にご指導いただいたところは、次年度に生かしてより一層沖縄高専として特徴のある発展ができるように教職員一丸となって進めたいと思っておりますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

(7) 閉 会

○仲宗根総務課長

これを持ちまして、本日の会議日程はすべて終了いたしました。長い時間お疲れ様でした。本日は、どうもありがとうございました。

6. 事前質問事項に対する回答

| No | 区分 | 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----|---|----------|----------|----|--|--|--|----|----|-----|----|----------|----|----|----|----|---|---|----|----|----|----|---|---|----|----|----|----|---|---|----|----|----|----|---|---|----|----|----|----|---|---|----|----|----|----|---|---|
| 1 | 質問 | 一般科目の教授数が増えない理由は、財政上あるいは昇任判定で業績不足ですか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | 各高専の教授定員は決められており、それを超えて昇任させることはできません。現在本校の各学科の教授定員枠は満たしている状態です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 質問 | 推薦入試倍率が1倍の場合、受験生は全員合格となるのですか？他高専では、受験倍率が1倍を切る深刻な状況もあるやに仄聞しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | 推薦入試の趣旨を鑑みれば、合格基準に達している場合は基本的に全員合格となるものと思われます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 質問 | 一部の高専間で導入されている複数校志願受験制度（15頁）について説明いただきたい。ネットでは、各高専の合格偏差値も掲載されているが、沖縄高専で複数校志願受験が採用される場合のメリット、デメリットは？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | メリットとしては、今以上に本土の中学生に本校を選択肢に加えてもらうことにより、入学者確保に繋がる可能性があります。 デメリットとしては、本校を第一志望としている受験生の可否に影響を与える可能性があります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 質問 | 9頁の表：学修総まとめ科目担当教員数がいきなり揭示され、対する説明も無い。昨年度の自己点検評価書との相違は、新たに指導補助教員として、助教3名が加わった（審査を受けた）だけのように見える。教授、准教授の中で、退職・新採用等により、実際の担当者には昨年と今年で異動がありますか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | 本年度の専攻科学修総まとめ科目担当教員は、昨年度2名の退職に伴い、新採用教授1名、准教授昇任1名を補充し、指導補助教員として助教3名を新たに加えました。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 質問 | 平成27年は専攻科設置後初めての「教育の実施状況等の審査」が行われた年だと思われませんが、この5年間の、専攻科担当教員の異動と指導教員の判定結果（人数等）は？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | 平成26年度に「認定専攻科における教育の実施状況等審査」があり審査結果「適」と認められました。各年度の専攻科担当教員数は次のとおりです。本年度の特例適用専攻科の指導教員数は学修総まとめ科目担当教員数(P9)です。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="6">専攻科担当教員数</th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>教授</th> <th>准教授</th> <th>講師</th> <th>助教(指導補助)</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>20</td> <td>16</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> | 専攻科担当教員数 | | | | | | 年度 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教(指導補助) | 合計 | 22 | 20 | 19 | 1 | 0 | 40 | 23 | 22 | 17 | 1 | 0 | 40 | 24 | 20 | 16 | 1 | 0 | 37 | 25 | 20 | 17 | 1 | 0 | 38 | 26 | 19 | 19 | 1 | 0 | 39 | 27 | 20 | 20 | 1 | 3 |
| 専攻科担当教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年度 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教(指導補助) | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | 20 | 19 | 1 | 0 | 40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | 22 | 17 | 1 | 0 | 40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 | 20 | 16 | 1 | 0 | 37 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | 20 | 17 | 1 | 0 | 38 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | 19 | 19 | 1 | 0 | 39 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | 20 | 20 | 1 | 3 | 44 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| No | 区分 | 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|------------|--|------------|------------|------------|-------------|--|--|--|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------------|----|----|----|----|----|----|------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------|----|----|---|---|----|---|------|----|----|----|----|----|
| 6 | 質問 | 過去、5期生までで、専攻科を修了したものの、学士号取得の最終試験が不合格あるいは、取得試験を受験しなかった学生は居ますか？各期毎の入学人数、修了者数、学位取得者数、進学者数（大学院等へ）、就職者数をまとめた表を示していただくと一目瞭然です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | <p>専攻科各期毎の入学人数修了者数、進学者数および就職者数を掲示しました。</p> <table border="1" data-bbox="352 461 1394 837"> <thead> <tr> <th colspan="7">専攻科修了状況等</th> </tr> <tr> <th></th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学人数 (前年度)</td> <td>28</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>24</td> <td>34</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>修了者数</td> <td>27 (27)</td> <td>32 (31)</td> <td>25 (24)</td> <td>23 (23)</td> <td>34 (33)</td> <td>27 (申請中)</td> </tr> <tr> <td>進学者数</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>就職者数</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)()は学士取得者数 平成27年度については学位授与機構へ申請中である。</p> | 専攻科修了状況等 | | | | | | | | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 入学人数 (前年度) | 28 | 37 | 25 | 24 | 34 | 32 | 修了者数 | 27 (27) | 32 (31) | 25 (24) | 23 (23) | 34 (33) | 27 (申請中) | 進学者数 | 12 | 14 | 9 | 9 | 10 | 8 | 就職者数 | 14 | 17 | 15 | 14 | 22 |
| 専攻科修了状況等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 入学人数 (前年度) | 28 | 37 | 25 | 24 | 34 | 32 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修了者数 | 27 (27) | 32 (31) | 25 (24) | 23 (23) | 34 (33) | 27 (申請中) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 進学者数 | 12 | 14 | 9 | 9 | 10 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職者数 | 14 | 17 | 15 | 14 | 22 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 質問 | 特例適用認定専攻科修了による学士（工学）取得は、今年3月の修了生からと思いますが、専攻科6期入学生は全員学士号取得見込みですか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | 休学者を除く全員27名が学士取得見込みです。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 質問 | 本年度の専攻科課程の実入学人数が定員割れした理由は何と考えられますか？ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | 設置時より本校の定員は他高専の1.5倍と多かったが、一部のコースの入学人数は伸びず、他コースの入学人数でカバーしている面がありました。本年度は、そのコースの受検人数が落ち込んだため、定員を充足することができませんでした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 質問 | 15歳人口の減少や財政面での予算減、あるいは工業高校や専門学校の高度化など、高専の将来にとって厳しい状況にあるように思えます。将来の高専像について、高専機構本部はどのように考えているのか、本部での校長会議あるいは九州沖縄地区校長会議等での状況をお話しいただきたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | 文科省の方では高等専門学校の充実に関する調査研究協力者会議を開催し、今後の高専教育（公立、私立を含め）をどうするかについて検討しており、3月いっぱい結論がでる予定です。機構本部では、全国を5つのブロックに分けて協働できることについて話し合いを行っています。第5ブロック（九州沖縄地区）では今年度の後学期から専攻科の授業（品質・安全マネジメント特論）について本校と鹿児島高専、大分高専とテレビ会議システムを利用して授業を行いました。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 質問 | 高専機構第3期中期目標に向け、27年度から国内外の長期インターンシップ（3ヶ月以上）や短期留学・海外プログラム派遣に対応できるカリキュラム改善が行われたと伺っていますが、長期インターンシップ等に関する実績は無いのでしょうか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物資源工学コース（専攻科2年生1名） 日本学生支援機構が実施するトビタテJAPANプログラムにてシンガポールで8月から10月までの間インターンシップを行いました。 ・電子通信システムコース（専攻科1年生1名） 富士通九州システムズに9月から12月までの間長期インターンシップを行いました。 ・生物資源工学コース（専攻科1年生1名） 長岡技術科学大学に8月から9月の間長期インターンシップを行いました。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| No | 区分 | 内 容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|--|--------|------------------------|--------|--------|------------------------|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|-------|---|---|---|---|-------|---|---|---|---|----|---|----|----|----|--|--------|--------|--------|------------------------|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|----|---|---|---|----|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|-------|---|---|---|---|-------|---|---|---|---|----|----|----|----|
| 11 | 質問 | 産業界から、応用力につながるソフトウェア工学の基礎力を充実させることは大切だと言われているがどのような状況でしょうか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | ソフトウェアを主宰するメディア情報工学科の例で記します。 基礎力涵養のため、アルゴリズムとデータ構造、形式言語理論、グラフ理論やオートマトン等の離散数学の学修。 オブジェクト指向言語学修を通じたソフト部品化やソフト継承の理解。 種々のプログラミング言語学修を通じたソフトツールや開発環境の理解。 ソフトウェアエンジニアリング手法の基礎知識の学修。 以上を通じ基礎力の充実を図っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 質問 | 退学者及び休学者の現状、休学者のフォローアップについて伺います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | <p>専門性の不一致ならび学業不振に関しては、進路変更も含め、本人・保護者と担任間にて情報交換・共有を図っています。病気・体調不良に関しては、心的外傷に関しては、本人・保護者のみならず、医療期間とも連携して回復に向け見守りを続けています。 退学者、休学者の人数は次に掲示している状況です。</p> <p style="text-align: center;">退学者発生年度推移</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度 (平成28年1月末現在)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1年</td><td>0</td><td>4</td><td>5</td><td>1</td></tr> <tr><td>2年</td><td>0</td><td>5</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>3年</td><td>7</td><td>7</td><td>5</td><td>2</td></tr> <tr><td>4年</td><td>0</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>5年</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>専攻科1年</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>専攻科2年</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr><td>合計</td><td>9</td><td>21</td><td>22</td><td>11</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">休学者推移(発生年度)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度 (平成28年1月末現在)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1年</td><td>0</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td></tr> <tr><td>2年</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>5</td></tr> <tr><td>3年</td><td>7</td><td>2</td><td>4</td><td>11</td></tr> <tr><td>4年</td><td>3</td><td>5</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>5年</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>4</td></tr> <tr><td>専攻科1年</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>専攻科2年</td><td>0</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td></tr> <tr><td>合計</td><td>11</td><td>16</td><td>15</td><td>28</td></tr> </tbody> </table> | | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 (平成28年1月末現在) | 1年 | 0 | 4 | 5 | 1 | 2年 | 0 | 5 | 6 | 6 | 3年 | 7 | 7 | 5 | 2 | 4年 | 0 | 2 | 3 | 1 | 5年 | 1 | 2 | 2 | 0 | 専攻科1年 | 0 | 0 | 1 | 0 | 専攻科2年 | 1 | 1 | 0 | 1 | 合計 | 9 | 21 | 22 | 11 | | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 (平成28年1月末現在) | 1年 | 0 | 3 | 2 | 1 | 2年 | 0 | 0 | 1 | 5 | 3年 | 7 | 2 | 4 | 11 | 4年 | 3 | 5 | 4 | 4 | 5年 | 1 | 3 | 1 | 4 | 専攻科1年 | 0 | 0 | 3 | 1 | 専攻科2年 | 0 | 3 | 0 | 2 | 合計 | 11 | 16 | 15 |
| | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 (平成28年1月末現在) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年 | 0 | 4 | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 0 | 5 | 6 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年 | 7 | 7 | 5 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4年 | 0 | 2 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5年 | 1 | 2 | 2 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専攻科1年 | 0 | 0 | 1 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専攻科2年 | 1 | 1 | 0 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 9 | 21 | 22 | 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 (平成28年1月末現在) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年 | 0 | 3 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 0 | 0 | 1 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年 | 7 | 2 | 4 | 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4年 | 3 | 5 | 4 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5年 | 1 | 3 | 1 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専攻科1年 | 0 | 0 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専攻科2年 | 0 | 3 | 0 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 11 | 16 | 15 | 28 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 質問 | 外国語（英語）教育に力を入れているようですが、英語での問いに対して直接英語で考えて答えるように仕向けるような訓練をされているのでしょうか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 回答 | 「English CommunicationI」の授業科目（資料1）において、学生は様々なトピックについて英語で考え、英語で感想や意見を表現することを行っています。また、他授業でも、エッセイライティングやプレゼンテーションなど、英語で考えて意見を発信する課題を多く行っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| No | 区分 | 内 容 |
|----|----|---|
| 14 | 質問 | 航空技術者プログラムの設立は関心が高く期待しています。一期生16名の現状と同プログラムの課題及び対策を伺います。 |
| | 回答 | <p>・現状 4月から航空プログラムが設置され、現在16名の学生が履修しています。ANAから教授1名を派遣してもらっています。その教授によると1年から3年までに学んだ専門科目の知識を前提として航空整備の基礎から追加して行く予定であったが、学生にとっては初めて聞く内容が多かったため言葉の解説から始めたとのことです。学生は、夏休みにインターンシップをANAで行った際に前期の授業で学んだことを実機で確認できたようです。後期は、航空力学の参考書を使用し、基礎的な部分を紹介していきました。</p> <p>・課題 那覇空港にできる予定であった航空機整備会社「MRO Japan」で実機実習を行う予定であったが、格納庫がまだできていないため県外の整備施設に行きインターンシップを行っています。</p> <p>・対策 「MRO Japan」の格納庫ができるまでは、大阪の伊丹空港の「MRO Japan」で4年生のインターンシップを行い、5年生の実機実習是那覇空港のJTAで行う予定となっています。</p> |
| 15 | 質問 | 航空技術者プログラムに関して、今後、国交省の「航空従事者養成施設」や「航空機整備訓練過程」の指定を受ける予定はありますか |
| | 回答 | 現時点「航空従事者養成施設」や「航空機整備訓練課程」の指定を受ける予定はありません。 |
| 16 | 質問 | 就職状況について、高専生を求める県内企業の声もある中、県外就職者が大半を占めるなど技術的専門性を有する若手人材の県外流出が惜しまれます。県内産業界の課題としては、県外に比べ、県内企業の求人活動が遅いことや、受け皿不足等が挙げられます。一方で、沖縄高専としても、県内企業のインターンシップに参加した学生が県内企業に就職しなかった理由等を把握し産業界にも伝えるようにすれば、現状の改善に繋がるのではないのでしょうか。 |
| | 回答 | 教育カリキュラムに必修として位置付けられる本校でのインターンシップでは、学生の職業観を深め、企業で求められる人材像や技術を理解することを目的とし、県内外の多くの企業にご理解・ご協力をいただきながら実施しています。学生の志向性と企業の求めるインターンシップとをマッチングさせる機会や企業技術者自身で学生に発信していただく機会を設け、学生が広く業界や職種に目が向くようにしており、また、学科ごとのインターンシップ報告会はクラス全体にインターンシップ受け入れ企業の様子を伝える機会になっております。就職については県外就職した学生の県内企業に就職しなかった理由や、逆に県内就職した学生の就職を決めた理由等を把握するよう努め、引き続き県内企業様との情報交換を進めてまいります。 |
| 17 | 質問 | 就職希望者の学生が地元企業へ目を向けるための学校の工夫(教員向け・学生向け)を伺います。 |
| | 回答 | 主な行事として、県内企業合同説明会の開催、県内企業との定期懇談会(学生、教員)、県内企業の人事採用担当者セミナーおよび情報交換会への教員の参加、県内企業合同入社式および懇親会への教員の参加、授業における県内企業の見学等を行っています。 |
| 18 | 質問 | 就職者の「離職率」は把握しているか伺います。 県内では新規学卒3年間の離職率(高校H22年3月卒): 沖縄58.2%、(大学H22年月卒): 沖縄50.1%となっており離職率の改善が課題となっています。 |
| | 回答 | 離職の状況については、卒業生本人やその友人からの情報、あるいは就職先企業との面談等での情報交換により頂いている状況です。 |

| No | 区分 | 内 容 |
|----|----|---|
| 19 | 質問 | 企業の場合、入社すると資格を取らされることが多いと思いますが、高専では在学中に得られる資格と卒業したら得られる資格はあるか伺います。 |
| | 回答 | 「English Skills」(資料2)、「実用英語(TOEIC)」(資料3)の授業科目においてTOEIC受験に対応できる知識を養う授業を行っています。 また、資格試験取得に関しては特別学修一般、特別学修専門(資料4)として単位を認めることがありますが、卒業要件単位には含めないものとしています。 沖縄高専卒業と同時に得られる資格は特にありません。 |
| 20 | 質問 | 産学官連携の現状と課題及び対策を伺います。 |
| | 回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄工業高等専門学校産学連携協会の(現在の会員数は、企業・団体会員111、個人会員24)を設置しています。 ・地域連携推進センターを窓口とし、産学連携協会の支援、協力のもと活動しています。地域連携コーディネーターを配置し、定期の技術相談はもとより随時の相談についても企業訪問等を実施し、本校教員とのマッチングを行っています。 ・技術相談からいかに共同研究、受託研究へと繋げていけるかが課題としてあげられます。 ・センター長、地域連携コーディネーターによる企業訪問を実施し、潜在的な企業ニーズの把握に努め、企業と沖縄高専との距離感を縮める取り組みを検討しています。 |
| 21 | 質問 | 外部資金(64ページ)の用途および目的について伺います。また、どのくらいの規模の金額があれば、高専の学校運営に十分なのか伺います。 |
| | 回答 | 外部資金の用途については、それぞれ研究題目を設定し、機械装置の開発や情報処理能力の改善、高速化の技術開発、また生物資源等の有用性の向上や成分の最適な抽出等、相手先と協議しながら課題解決を目指した研究にかかる経費として使用しています。また、外部資金獲得額は、平成26年度において全国の国立高専51校中トップであり、このことは沖縄高専の産学官連携が堅調に推移していることを示すもので、この状況を維持していくことが重要であります。本年度の受入実績として、資料5にそれぞれの項目の内容等を掲示しています。 |
| 22 | 質問 | 共同研究、受託研究の内容を伺います。 |
| | 回答 | <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究 (公益法人等 3件、大学等 5件、民間企業等 15件) ・受託研究 (国 3件、沖縄県 3件、公益法人等 2件、大学等 1件、民間企業等 7件) 資料5にそれぞれの項目の内容等を掲示しています。 |
| 23 | 質問 | 生物資源工学科が名護市と連携している6次産業化について、今年度の実績等を御教示願いたい。 |
| | 回答 | 名護市との連携について展開はまだですが、本部町伊豆味の共同開発者とライフスタイルイノベーション創出事業(沖縄県)として地域天然資源である琉球藍を、新たに食品や機能性食品として利用するための技術開発ならびにマーケティング調査を、実施しています。 |

| No | 区分 | 内 容 |
|----|----|---|
| 24 | 質問 | 昨年質問事項のNo15（本自己点検評価書において、自ら定めた目標の達成度を評価すべきこと等）に関して、「自己点検評価書作成項目について検討を行います」との回答がありましたが、今回の自己点検評価書作成に当たって、どのように検討がなされたのか御教示願いたい。 |
| | 回答 | 本年度の自己点検評価書の作成については、「独立行政法人評価・学位授与機構」が定める高等専門学校評価基準の内容に沿って作成しました。高等専門学校評価基準は、教育活動を中心として高等専門学校の教育研究活動等の総合的な状況を評価するために、（基準1高等専門学校の目的、基準2教員組織、基準3教員及び教育支援者等、基準4学生の受入、基準5教育内容及び方法、基準6教育の成果、基準7学生支援等、基準8施設・整備、基準9教育の質の向上及び改善のためのシステム、基準10財務、基準11管理運営）の11の基準で構成されております。それぞれの基準の項目に沿って、現状、取組、自己評価を掲載しました。本校は平成29年度中に高等専門学校機関別認証評価を受審する予定であり、それに向けて、記述・内容等構成を整理する必要性を鑑みて作成しました。今年度目標達成を評価する点では、年度途中であるため、本校の年度計画の進捗状況や課題を資料6に掲示しています。 |
| 25 | 意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・大項目に「連携・交流・広報(仮称)」を設け、地域貢献、産学連携、広報活動、後援会、産学連携協力会等をまとめたほうが、県民、産業界等、部外者にもわかりやすいのではないのでしょうか。 ・目次が大雑把過ぎるように思えます。章だけでなく、節や項も記載しては如何か？ ・高等専門学校設置基準や学校教育法に則して設置されているのだから、自己評価で「合致している」と書くまでもないように思います。 ・「Ⅲ 教員及び教育支援者等」では教育支援者等について述べられていない。自己評価は第Ⅹ章の教育の質の向上及び改善のためのシステムと一部ダブっている。 ・「Ⅹ 教育の質の向上及び改善のためのシステム」は、教育の質の向上及び改善のためのシステムが整備されているとのことだが、実データは示されておらず、第三者からは検証できない。学生の課外活動や各種コンテストの受賞状況等を見ると、活躍の一端が伺える。沖縄高専のHP「学校の活動」で報告されている教員の活動（第19回工学教育賞受賞、乳酸菌特許取得、学会賞受賞等）について、記載しても良いのではないのでしょうか？ |
| | 回答 | 自己点検評価書作成項目・内容等の検討を行います。 |
| 26 | 意見 | アンケート結果：39頁機械システム工学科の学生は英語嫌が多い？専攻科生：社会の基礎知識が3以下と言う結果は、種々の理由が考えられます。アンケートは集計も大変でしょうが、学生がどのように評価しているかを知る貴重なデータです。役立て下さい。 |
| | 回答 | 各アンケート調査結果を分析して、今後の教育・研究等に反映させます。 |

平成27年度
自己点検評価書

平成28年2月

独立行政法人国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

目 次

| | | |
|------|--------------------|----|
| I | 目的及び教育目標 | 1 |
| II | 教育組織 | 4 |
| III | 教員及び教育支援者等 | 7 |
| IV | 学生の受入 | 11 |
| V | 教育内容及び方法 | 21 |
| VI | 教育の成果 | 31 |
| VII | 学生支援等 | 42 |
| VIII | 施設・整備 | 55 |
| IX | 教育の質の向上及び改善のためシステム | 58 |
| X | 外部資金受入状況 | 62 |
| XI | 管理運営 | 66 |

I 目的及び教育目標

I 目的及び教育目標

1. 現状

◇沖縄工業高等専門学校理念

本校では学則第1条において本科（準学士課程）、専攻科（学士課程）共通の理念を次のように定めている。

「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与することを理念とする。」

◇本科の目的

学則第1条で定められた理念を達成するため、本科の目的を学則第1条の2において次のように定めている。

「本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」

◇本科の教育目標

学則で定められた理念・目的を達成するため、「沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標に関する規程」において、各学科共通教育目標、各学科の人材養成上の目的及び教育目標を次のように定めている。

各学科共通の教育目標

- (1) 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
- (2) 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
- (3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
- (4) 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

機械システム工学科

(1) 人材養成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点での「モノづくり」を支える実践力の高い技術者を育成する。

(2) 学生に修得させるべき能力（教育目標）

- ① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
- ② 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
- ③ 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
- ④ 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

情報通信システム工学科

(1) 人材養成上の目的

環境と技術の調和と社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を修得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 学生に修得させるべき能力（教育目標）

- ① 情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
- ② コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
- ③ 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要な通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
- ④ 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

メディア情報工学科

(1) 人材養成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 学生に修得させるべき能力（教育目標）

- ① 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
- ② コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
- ③ モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
- ④ 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

生物資源工学科

(1) 人材養成上の目的

環境に配慮し、生物資源の利用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、産業界の要請に対応できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 学生に修得させるべき能力（教育目標）

- ① 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
- ② 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
- ③ 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
- ④ 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

◇専攻科の目的

学則第1条で定められた理念を達成するため、学士課程の目的は学則第59条において次のように定めている。

「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成することを目的とする。」

◇専攻科の教育目標

- (1) 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
- (2) 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
- (3) 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
- (4) 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する

◇専攻科の養成しようとする技術者像

- (1) 実践性と創造性を兼ね備えた技術者
- (2) 社会や環境、人類の福祉などを地球的視点から考えられる技術者
- (3) グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
- (4) コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
- (5) 新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
- (6) 地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

2. 取組

学則に定めた目的を果たすために沖縄工業高等専門学校に置く学科の人材養成上の目的及び教育目標に関する規程に各学科共通の教育目標と学科毎の人材養成上の目的ならびに学生に習得させるべき能力を定めている。

専攻科においては、専攻科教育理念、養成しようとする技術者像、創造システム工学専攻の教育方針、各コースの教育方針を定めている。

3. 自己評価

本校では、高等専門学校としての使命を果たすため、理念、目的を明確に定めている。

本科（準学士課程）においては学科共通の教育目標を定めているほか、学科毎に人材養成上の目的ならびに学生に習得させるべき能力を定めている。専攻科（学士課程）においても教育理念、教育方針等を明確にするとともに、教育目標を定めている。

これらの目的、教育目標及び教育方針等は学生に配布している学生生活の手引きに明記している。また、県内の中学校、公立の図書館等に配布している学校要覧及びホームページに掲示しており、社会に対して広く公表している。

II 教育組織

II 教育組織

1. 現状

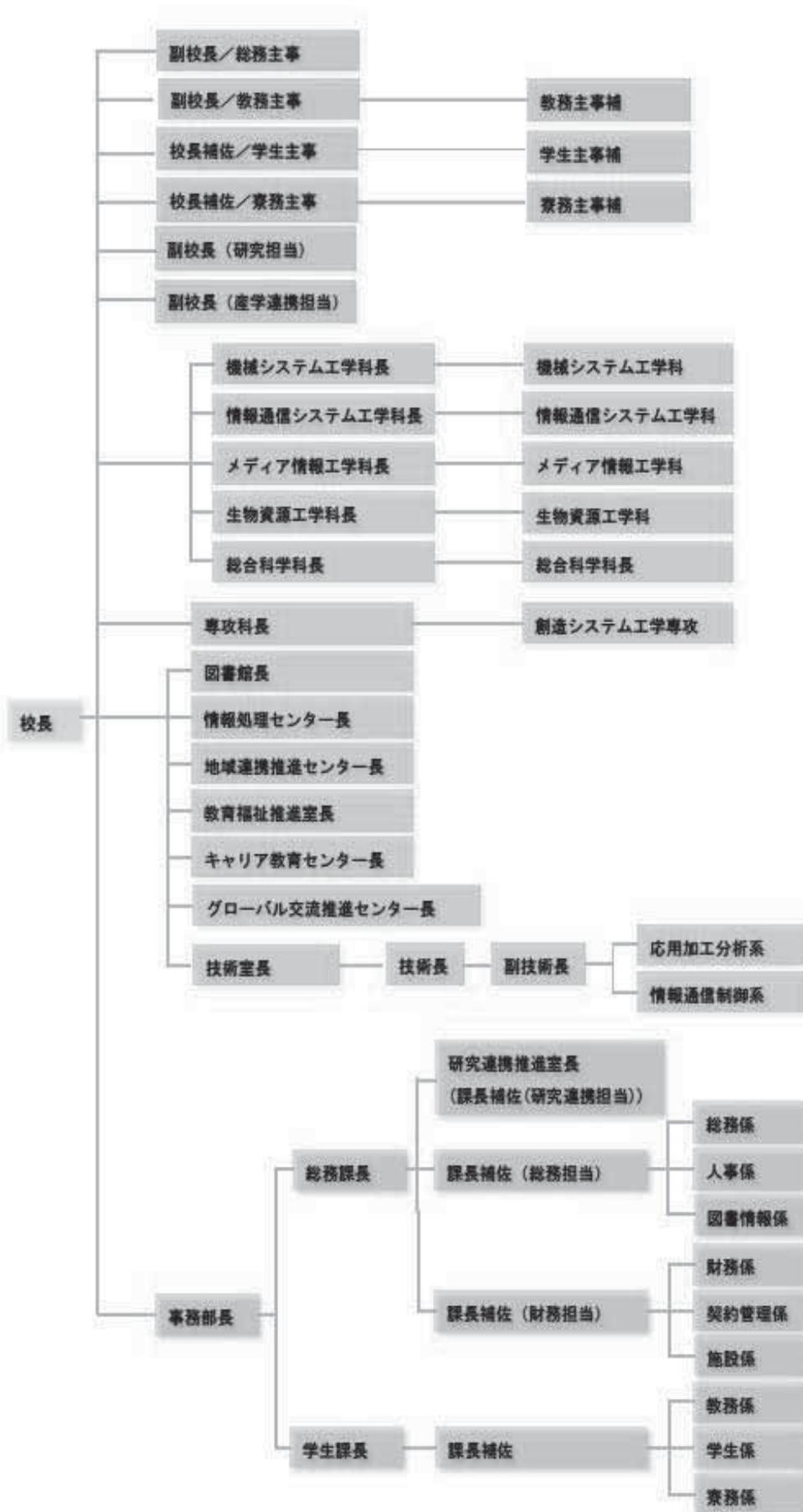
本校は教育目的を達成するため、学校教育法第116条，高等専門学校設置基準第4条，第5条に準拠し，準学士課程として機械システム工学科，情報通信システム工学科，メディア情報工学科，生物資源工学科の4学科（各学科定員40名）を設置している。その教育目標に沿って育成しようとする技術者像を学科ごとに定めて教育を実践している。また、一科目を教育する総合科学科を設置して，専門学科と連携しながら専門と一般のバランスの良い教育を実施している。

| 学 科 | 学 級 数 | 入 学 定 員 | 収 容 定 員 |
|-----------------------|-------|---------|---------|
| 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 | 1 | 40 人 | 200 人 |
| 情 報 通 信 シ ス テ ム 工 学 科 | 1 | 40 人 | 200 人 |
| メ デ ィ ア 情 報 工 学 科 | 1 | 40 人 | 200 人 |
| 生 物 資 源 工 学 科 | 1 | 40 人 | 200 人 |
| 計 | 4 | 160 人 | 800 人 |

本校専攻科では学校教育法第119条に準拠して，創造システム工学専攻(入学定員24人)にひとつの専攻科を設置している。産業界での複合専門分野における課題をシステムの，かつ創造的に解決する能力が求められることを鑑み，ひとつの複合分野として専攻科を設置しているが，準学士課程の関連科目と学位取得専門区分に対応するように，機械システム工学コース，電子通信システム工学コース，情報工学コース，生物資源工学コースの4コースから構成されている。専攻科の理念，目的，育成しようとする技術者像を定め，それにそった教育目標，教育方針を定めるとともにコース毎に目標とする技術者像を掲げ，教育を実践している。

| 専 攻 | 入 学 定 員 |
|---------------------|---------|
| 創 造 シ ス テ ム 工 学 専 攻 | 24 人 |

組織図



2. 取組

本校における教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制として、運営企画会議が設置されている。運営企画会議は本校の運営全体を審議する機関であり、教育課程全体を企画調整するための検討も重要な部分を占めており、各種の事項が審議・報告されている。

また、組織及び運営に関し必要な事項を定めるため、25の各委員会等が設置されている。

教育課程を有効に展開するために重点的に検討・運営を行う組織は、教務委員会が中心となっており、準学士課程・専攻科課程の両課程について検討が行われていて、教育活動に関わる事項の審議を行っている。

会議・委員会

| | |
|----------------------|----------------------|
| ◆ 運営企画会議 | ◆ 学科長会議 |
| ◆ 教員会議 | ◆ 総務委員会 |
| ◆ 図書・広報委員会 | ◆ 教務委員会 |
| ◆ FD委員会 | ◆ 入学者選抜委員会 |
| ◆ 学生委員会 | ◆ 学生寮委員会 |
| ◆ 安全衛生委員会 | ◆ 専攻科運営委員会 |
| ◆ 航空技術者育成専門部会 | ◆ 評価対応委員会 |
| ◆ グローバル交流推進センター運営委員会 | ◆ 技術室運営委員会 |
| ◆ 情報処理センター運営委員会 | ◆ 地域連携推進センター運営委員会 |
| ◆ 知的財産委員会 | ◆ 教育福祉推進室運営委員会 |
| ◆ キャリア教育センター運営委員会 | ◆ 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会 |
| ◆ 動物実験委員会 | ◆ 男女共同参画推進委員会 |
| ◆ キャンパス・ハラスメント防止委員会 | ◆ 職員レクリエーション委員会 |

3. 自己評価

本学の準学士課程における4つの専門学科は高等専門学校設置基準に適合したものであり、各学科が育成しようとする人物像は学校の掲げる教育の目的と適合し、目的を達成するうえで適切なものになっている。

本学の専攻科は学校教育法の規定に適合したものであり、創造システム工学専攻の育成しようとする技術者像、各準学士に対応するコース毎に定める育成しようとする技術者像、いずれも学校の掲げる教育の目的と適合性が取れている。

教育課程全体を企画調整するために運営企画会議が設置されている。また、準学士課程・専攻科課程の具体的な検討・運営体制として教務委員会が設置されている。これらの委員会は総合科学科およびすべての専門学科から選出された委員などから構成されており、教育課程に関わる様々な事項について活動を行っている。

したがって、教育課程の企画調整および有効な実施に必要な検討・運営体制が整備され、教育活動などにかかる重要事項を審議するなどの必要な活動が行われている。

ただし、時代に適応した教育組織運営には、審議事項等の見直しや、委員会等の統廃合等の改善する必要性がある。

Ⅲ 教員及び教育支援者等

Ⅲ 教員及び教育支援者等

1. 現状

本校の理念，目的，教育目標を設定し，担当教員はこれを達成すべく各科目を担当している。

◇総合科学科

一般科目を担当する総合科学科の専任教員は，高等専門学校設置基準の18名（入学定員4学級編成）を満たす18名により構成されており，5年一貫の教育課程の中で社会人として必要な知識や教養を身につける教育を行っている。

また，専門科目と緊密に連携し，社会の急速な変化に対応できる技術者として各学科に共通な学問の基礎を養う。そのため，高校と大学間の授業内容の重複を避け，5年間を通しての効果的なカリキュラムを編成している。国際化社会に対応するため外国語教育を重視し，特に英語では確固たる基礎力を養うためきわめて易しい絵本から読み始めるという基本原則に基づき多読・多聴の授業を行っている。国語教育においては，論理的に文章を分析し，自らの考えを表現できる力を養うとともに，国際的に活躍する技術者に必要なコミュニケーション能力を育成している。専門科目につながる自然科学や数学の授業は，理論のみを追求するだけでなく，基礎理論を工学的に発展させることのできる応用力も育成している。

| 総合科学科（一般科目）教員構成 | | | | | | | | |
|-----------------|----|-----|------|----|------|------|-----------------|----|
| | 必修 | | | | | | 選択 | 合計 |
| | 国語 | 外国語 | 社会科学 | 数学 | 自然科学 | 健康科学 | 音楽 美術 その他 | |
| 教授 | 1 | 1 | | 2 | | | | 4 |
| 准教授 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | | | 8 |
| 講師 | | 3 | | 1 | | 2 | | 6 |
| 助教 | | | | | | | | 0 |
| 計 | 2 | 6 | 2 | 5 | 1 | 2 | 0 | 18 |
| 非常勤講師 | 1 | 2 | | | | 1 | 5 | 9 |
| 合計 | 3 | 8 | 2 | 5 | 1 | 3 | 5 | 28 |

◇機械システム工学科

本学科では、ものづくりを支え、創造力の高い実践的技術者の育成を目指している。

本学科の教育課程は、従来からある機械工学の各分野を、材料と加工を中心とした材料システム群、設計と力学を中心とした設計システム群、制御とメカトロニクスを中心としたシステム制御群に再構成し、ものの設計・生産・開発・創造に必要な知識と技術を統合した教育及び機器設計・工作実習・工学実験などの自己学習を重視した教育を行っている。

◇情報通信システム工学科

本学科では、以下の情報化社会を支えている様々な技術分野について学ぶ。

- (1) コンピュータアーキテクチャ (2) プログラミング (3) 集積回路 (4) 信号処理
- (5) 光・無線通信技術 (6) ネットワーク (7) オペレーティングシステム (8) アルゴリズムとデータ構造 (9) 組込みシステム

具体的には、コンピュータを構成する集積回路などのハードウェア、コンピュータの動作や機器制御のためのソフトウェア開発のためのプログラミングについて学ぶ。また光・無線・移動体通信に代表されるような通信・ネットワーク関連技術についても学ぶ。これらはコンピュータだけではなく、身の回りの電子製品、電化製品、情報機器の主要な技術であり、人々の生活を豊かにするとともに、これらを組み合わせることにより、各種機器への応用やロボット制御などのシステム構築も可能となる。

◇メディア情報工学科

本学科では、マルチメディア関連産業を支える技術者の育成をはかるため、以下の教育を行う。

- (1) アルゴリズム、データ構造、プログラミング並びに構成や動作原理などマルチメディア情報を処理するコンピュータシステムに関する教育。
- (2) 世界規模で動作するインターネットの仕組みやセキュリティ及びブロードバンドでユビキタスな通信技術に関する教育。
- (3) 情報を音声、画像、CGなど種々のメディアで表現し、コンピュータを用いてデジタル加工するコンテンツ制作教育

◇生物資源工学科

本学科では、沖縄県の亜熱帯性資源をはじめとした生物資源の実践的利用、かつ環境に配慮した資源再利用に対応できる人材の育成を目指している。そこで、以下の教育課程により教育・研究を行っている。

専門分野の授業科目は (1) 生物化学工学群、(2) 環境・微生物学群、(3) 食品化学工学群の3群を軸に編成されている。

- (1) 生物化学工学群では、生物・化学系の授業科目により生命科学の基礎を充実する。さらにバイオテクノロジー系の授業科目により生物機能を物質生産に応用する実践的な能力を養う。
- (2) 環境・微生物学群では、微生物に関する知識の基礎と応用を学ぶ。その上で、技術者として環境に対してどのように配慮し、どのように行動するのか、基礎と実践的な手法を習得する。

(3) 食品化学工学群では、食品成分について、その化学的性質・生理活性・分析手法の基礎と応用を学ぶ。また、食品成分の知識を踏まえて、新規な食品の開発と産業規模における食品製造の実践的能力を養う。

| 各学科教員構成 | | | | | | | |
|-------------|----|-----|----|----|------|------|----|
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 特任教授 | 特命教授 | 計 |
| 機械システム工学科 | 7 | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 13 |
| 情報通信システム工学科 | 3 | 4 | 0 | 1 | 1 | 0 | 9 |
| メディア情報工学科 | 3 | 6 | 1 | 0 | 1 | 0 | 11 |
| 生物資源工学科 | 7 | 5 | 0 | 1 | 0 | 1 | 14 |
| 計 | 20 | 20 | 1 | 3 | 2 | 1 | 47 |

◇専攻科

沖縄高専の専攻科は本科の5年間の専門基礎教育課程の上に、更に2年間の専門技術教育をおこなう教育課程である。機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースで構成され、それぞれ特色のある教育課程を編成している。実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性を持つ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指し、専攻科名を「創造システム工学専攻」としている。専攻科を修了した学生は、学士(工学)の学位が授与される。

| | 学修総まとめ科目担当教員数 |
|-----|---------------|
| 教授 | 15 |
| 准教授 | 17 |
| 講師 | 0 |
| 助教 | 3(3) |
| 計 | 35(3) |

注：() は指導補助教員で内数

2. 取組

一般科目を担当する総合科学科の専任教員は、18名で高等専門学校設置基準第6条第2項第4号の18名を満たす教員配置より構成されている。

専門科目担当の専任教員は45名で、高等専門学校設置基準第6条第3項の29名を満たす教員配置より構成されている。また、教授及び准教授は40名であり、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数の合計63名に対して2分の1を上回っており高等専門学校設置基準第8条を満たした教員配置により構成されている。

3. 自己評価

本校の教員配置は、設置基準と合致しており、本校の理念、目的、教育目標を達成する上で適切な構成となっている。特に、本校の目的に掲げる「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」に対して、修士または博士の学位を取得した教員および企業経験者を各学科に配置している。

また、全教員の教育活動において、教員評価を定期的に行っている。教員評価は（1）総合評価（2）教員顕彰（3）教育研究経費配分（4）昇任判定（教授、准教授、講師への昇任）（5）運営管理貢献度評価（6）課外活動貢献度評価（7）その他校長が必要に応じて実施する事項に利用しており、効果的に運用されている。

IV 学生の受入

IV 学生の受入

1. 現状

◇本科入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

（1）全学科共通の入学者受け入れ方針

- ・理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
- ・責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーションが取れる人
- ・規則正しい生活と、自発的勉強のできる人

（2）各学科独自の入学者受け入れ方針

機械システム工学科

- ・自動車、飛行機、ロボットなどの機械に興味のある人
- ・自ら考え、自ら工夫し新しいものを創造する意欲のある人
- ・ものづくりを通して社会に貢献したい人

情報通信システム工学科

- ・コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
- ・携帯電話・スマートフォン、タブレット PC などの新しい電気製品や電子工作に興味のある人
- ・情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

メディア情報工学科

- ・コンピュータの新しい技術に興味を持っている人
- ・コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
- ・コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

生物資源工学科

- ・生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
- ・自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意志のある人
- ・バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

◇募集人員

| 学科名 | 入学定員 | 備考 |
|-------------|------|--|
| 機械システム工学科 | 40名 | ※1 推薦による選抜の募集人員は、入学定員の40%（メディア情報工学科は30%）程度。 ※2 専門実習による選抜（メディア情報工学科のみ）の募集人員は、入学定員の15%程度。 ※3 帰国子女特別選抜による募集人員は若干名。（定員外） |
| 情報通信システム工学科 | 40名 | |
| メディア情報工学科 | 40名 | |
| 生物資源工学科 | 40名 | |
| 計 | 160名 | |

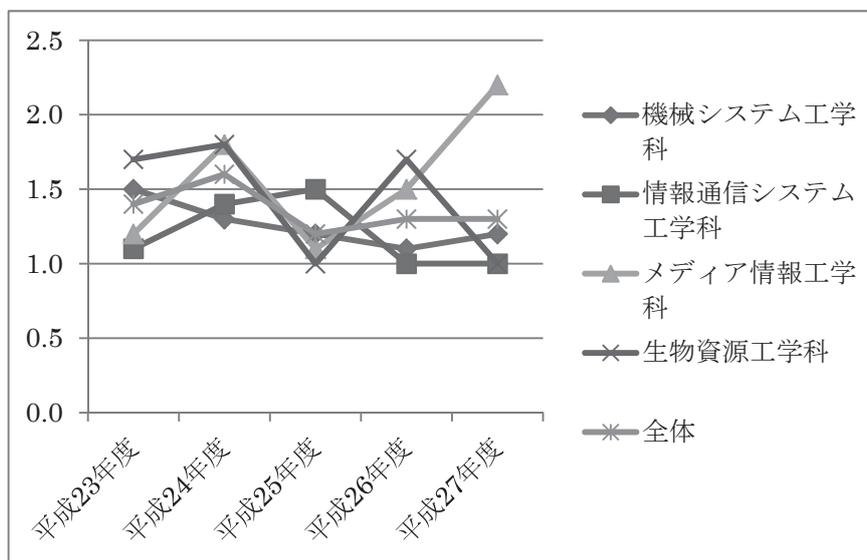
◇選抜方法

入学者の選抜は、推薦による選抜、専門実習による選抜、学力検査による選抜及び帰国子女特別選抜の4つの方法で行う。

◇入試競争倍率

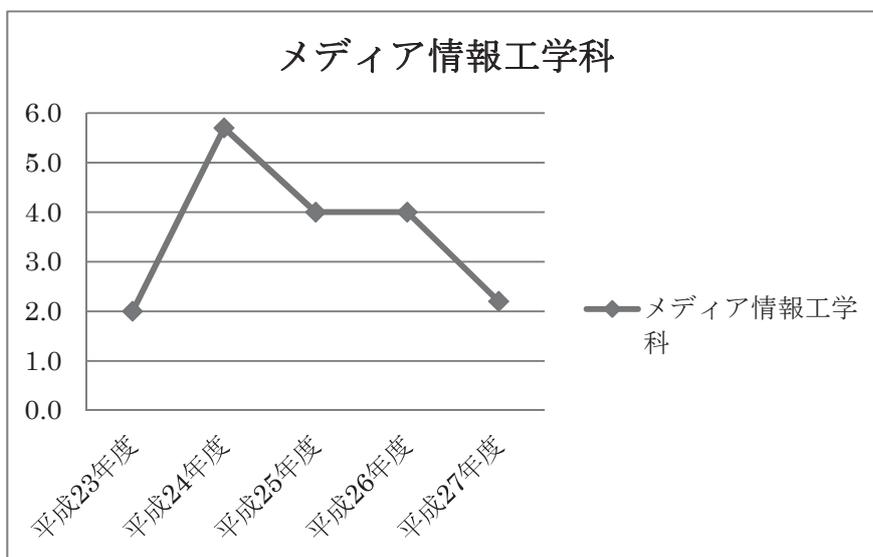
(1) 推薦

| | 平成 23 年 度 | 平成 24 年 度 | 平成 25 年 度 | 平成 26 年 度 | 平成 27 年 度 |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 機械システム工学科 | 1.5 | 1.3 | 1.2 | 1.1 | 1.2 |
| 情報通信システム工学科 | 1.1 | 1.4 | 1.5 | 1.0 | 1.0 |
| メディア情報工学科 | 1.2 | 1.8 | 1.1 | 1.5 | 2.2 |
| 生物資源工学科 | 1.7 | 1.8 | 1.0 | 1.7 | 1.0 |
| 全体 | 1.4 | 1.6 | 1.2 | 1.3 | 1.3 |



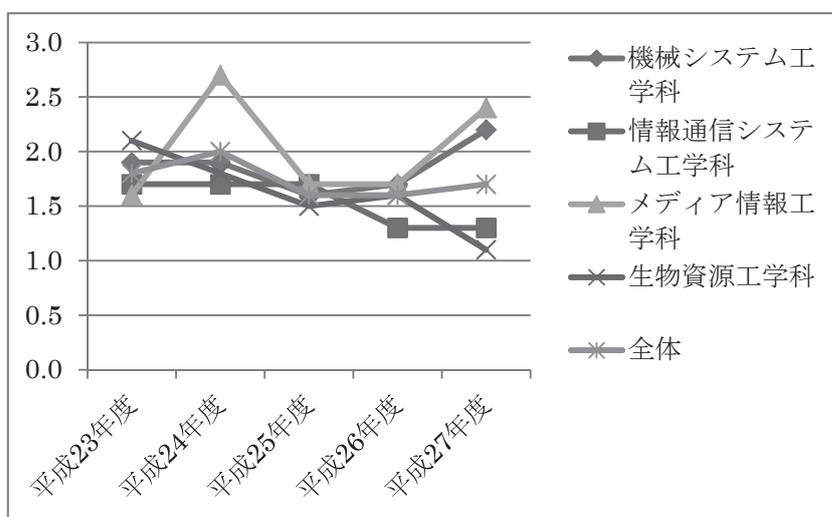
(2) 専門実習

| | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 |
|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| メディア情報工学科 | 2.0 | 5.7 | 4.0 | 4.0 | 2.2 |



(3) 学力

| 学力 | 平成 23 年 度 | 平成 24 年 度 | 平成 25 年 度 | 平成 26 年 度 | 平成 27 年 度 |
|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 機械システム工学科 | 1.9 | 1.9 | 1.6 | 1.7 | 2.2 |
| 情報通信システム工学科 | 1.7 | 1.7 | 1.7 | 1.3 | 1.3 |
| メディア情報工学科 | 1.6 | 2.7 | 1.7 | 1.7 | 2.4 |
| 生物資源工学科 | 2.1 | 1.8 | 1.5 | 1.6 | 1.1 |
| 全体 | 1.8 | 2.0 | 1.6 | 1.6 | 1.7 |



◇専攻科入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

- ・技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
- ・専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
- ・基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
- ・新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
- ・複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人

◇募集人員

| | |
|------------|-----|
| 専攻 | 定員 |
| 創造システム工学専攻 | 24名 |

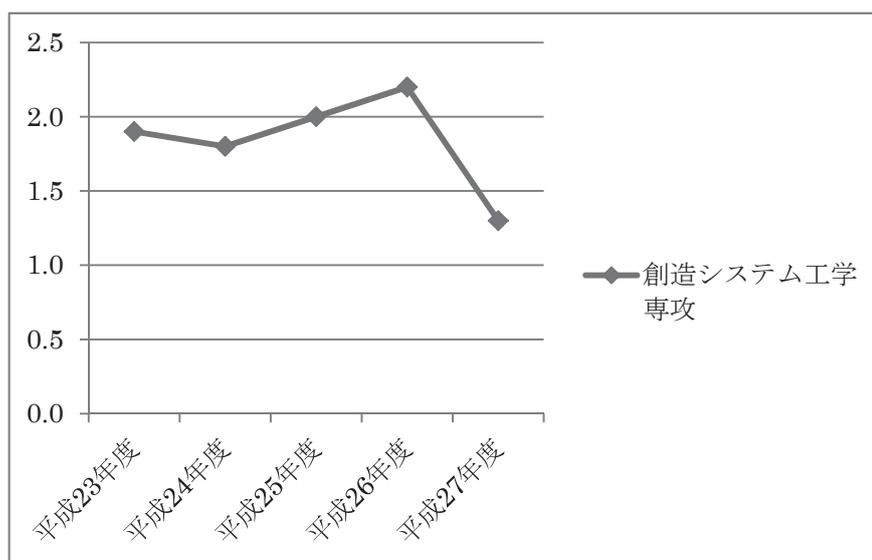
（コース名：機械システム工学、電子通信システム工学、情報工学、生物資源工学）

◇選抜方法

入学者の選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜の2つの方法で行う。

◇専攻科入試競争倍率

| | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 創造システム工学専攻 | 1.9 | 1.8 | 2.0 | 2.2 | 1.3 |



2. 取組

◇マークシート方式の導入

本年度から国立高等専門学校 of 学力検査はマークシート方式による回答方法を導入する。記述式の解答方法からマークシート方式による解答方法に変更することで適正かつ俊足に採点業務を行い、すでに一部の高専間で導入されている複数校志望受検制度の拡充と、将来的に最寄り地受検などを含めた入試改革を視野にしている。

中学生の皆さんへ

国立高等専門学校の入試にマークシート方式による解答方法を導入します。

国立高等専門学校の入試（入学者選抜学力検査）が、平成28年度入試（平成28年2月実施）から全ての教科でマークシート方式による解答方法になります。

マークシートって難しくないですか？
全国学力・学習状況調査をはじめ、英検・漢検など、中学生の皆さんも、一度は見たことがある方法です。決して特別な技術が必要な試験ではありません。

試験問題の難易度は変わりますか？
マークシート方式になっても試験の難易度は変わりません。中学校までの学習内容に応じた試験問題です。

特別な筆記用具が必要ですか？
皆さんが普段から使っている鉛筆（HB）で大丈夫です。シャープペンシルは、メモ書きや計算のために使うことはできますが、解答用紙はHBの黒鉛筆で塗りつぶしてください。消しゴムも、普段から使用しているもので大丈夫です。

試験時間は変更されますか？
（長くなるor短くなる）
1教科につき50分の試験時間は変更はありません。



鉛筆は何本、用意すればいいですか？
鉛筆削りを持参することが認められており、試験と試験の間などに鉛筆を削ることもできますが、予備を含めて複数本持参するようにしてください。

事前にマークシート方式の解答用紙を閲覧することはできますか？
高専機構のホームページに過去問題をマークシート方式の解答方法に変更した場合のサンプルを掲載をする予定です。



高専機構のホームページにも注意事項などを随時掲載しますので、各自でマークシートへの準備をお願いします。

高専機構ホームページ <http://www.kosen-k.go.jp/marksheet.html>

マークシート方式導入に関する想定問答集（受検生向け）

| | |
|---|--|
| 問 | マークシートって難しくないですか？ |
| 答 | マークシート方式による解答方法は、全国学力・学習状況調査や、英検（4級・5級）、漢検（3級・4級）などでも採用されているため、一度は目にしたことがある方法です。決して特別な技術が必要な試験ではありません。 |
| 問 | 解答方法がマークシート方式に変更されることに伴い、問題の難易度も変更になりますか？ |
| 答 | マークシート方式だからといって、前年度までの問題と比較して難易度が大きく変わることはありません。中学校までの学習内容に応じた試験問題です。 |
| 問 | マークシート方式を導入することで試験時間の延長や実施教科に変更はありますか？ |
| 答 | 特に試験時間や実施教科の変更はありません。 |
| 問 | HBの黒鉛筆を持参することが求められていますが、何本必要ですか？ |
| 答 | 小型の鉛筆削りを持参することができます。試験と試験の間などに鉛筆を削り直すこともできますが、予備も含めて複数本を持参してください。 |
| 問 | HBの鉛筆以外の筆記用具を使用しても大丈夫ですか？ |
| 答 | HやFの鉛筆だと、薄くなってしまったり、消した跡にくぼみが残ってしまう場合があります。またBの鉛筆だと、消しゴムで消しても薄く残ってしまったり、手などでこすれてしまう可能性があります。 シャープペンシルは、解答が正しく読み取ることができない場合がありますのでHBの黒鉛筆を使用してください。 |
| 問 | 消しゴムや鉛筆はマークシート専用でなければダメですか？ |
| 答 | 特に消しゴムや鉛筆がマークシート専用である必要はありません。使い慣れたものを用意してください。 |
| 問 | 鉛筆削りを持参することはできますか？また、鉛筆を削るための小刀（カッターナイフ、肥後守等）はどうですか？ |
| 答 | 小型の鉛筆削りを持参することは、問題ありません。小刀を持参することは、危険ですので控えてください。 |
| 問 | 願書についてもOCR用紙やWEBによる出願に変更されるのですか？ |
| 答 | 入学願書については、調査書を在籍する中学校の先生方が記載する必要があり、OCR用紙やWEBによる出願は想定していません。従来どおりの用紙ですので、詳しくは志望する高専の募集要項で確認してください。 |
| 問 | 事前にマークシート方式の解答用紙（サンプル）を見ることはできますか？ |
| 答 | 高専機構のホームページに、過去問題をマークシート方式の解答方法に変更した場合のサンプルを掲載する予定です。そちらからイメージを確認してください。 |

◇受検者増への取組

(1) 学校説明会等を行い、沖縄本島、離島（宮古・八重山地区）の広い範囲で広報活動を行った。また、知名度を上げるために、沖縄都市モノレールの車内ポスター広告を実施した。

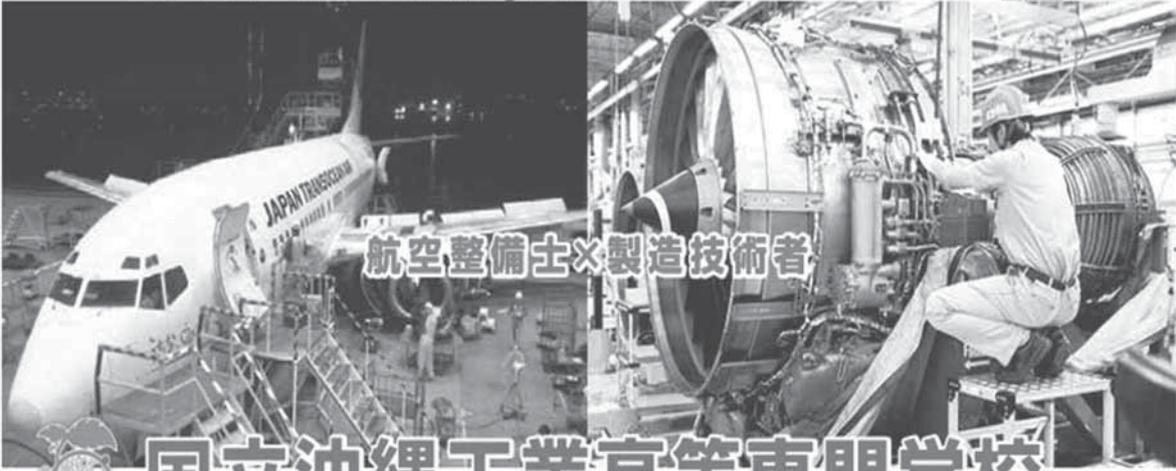
離島の宮古・八重山地区にて学校説明会と併せて出前授業を実施した。

平成27年度学校説明会等参加状況

| 開催日 | 会場 | 中学校数 | 参加者 | | | | 参加者計 |
|---------|------------------------------------|------|-----|-------|----|-----|------|
| | | | 中学生 | 保護者/他 | 教員 | その他 | |
| 6/27(土) | オープンキャンパス (沖縄高専) | | 56 | 65 | | 6 | 127 |
| 7/18(土) | 沖縄県立博物館・美術館 | 18 | 37 | 40 | | 5 | 82 |
| 8/13(木) | 中学校等教員対象説明会 (沖縄高専) | 19 | | | 23 | | 23 |
| 8/17(月) | 石垣市総合体育館 わくわくチャレンジ 実験教室と同時開催 | 3 | 6 | 7 | | 5 | 18 |
| 8/19(水) | 中学校等教員対象説明会 (沖縄高専) | 6 | | | 9 | | 9 |
| 8/20(木) | 宮古合同庁舎 わくわくチャレンジ 実験教室と同時開催 | 4 | 7 | 1 | | 4 | 12 |
| 10/3(土) | 進学相談会(沖縄高専) | 46 | 81 | | | | 81 |
| 11/7(土) | 高専祭の入試説明会 (沖縄高専) | | | | | | 0 |
| 計 | | 96 | 187 | 113 | 32 | 20 | 352 |

沖縄都市モノレール車内広告ポスター

日本トランスオーシャン航空株式会社 様 ご提供  IHI 様 ご提供



航空整備士×製造技術者

国立沖縄工業高等専門学校

【対象学科】
情報通信システム工学科
機械システム工学科
メディア情報工学科

平成27年度 航空技術者プログラム新規開設!!

★最新の情報は、ホームページで!
<http://www.okinawa-ct.ac.jp/> 沖縄高専 検索 ☎0980-55-4028
〒905-2192 名護市辺野古905番地(学生課教務係)

(2) 宮古・八重山地区における実験教室&学校説明会の開催

八重山地区 8月17日(月) 石垣市総合体育館 研修室

宮古地区 8月20日(金) 宮古合同庁舎 講堂

目的：複数のブースで科学や技術に関する実験や展示を行うことで、八重山地区、宮古地区の子どもや大人に対して科学や技術への興味関心を喚起する。また、同日同所で学校説明会を開催することで、学生獲得や沖縄高専の認知度向上を目指す。

開催時間：10時～19時(9時間)

(学校説明会時間：11時から12時、17時から18時)

主催：沖縄工業高等専門学校 地域連携推進センター

詳細：当日は、「深海のお話と水圧実験」、「地球温暖化実験」、「地球を救え！エネルギーバスターズ!」、「なぞって拡大図をえがこう」、「車型ロボットを動かそう」の5テーマのブースに分かれて実験教室を行った。
両日で391人の来場者を記録した(八重山地区:198名、宮古地区:193名)。

アンケート結果では、「科学っておもしろい」や「科学に興味を湧いたのでいろいろな科学のものをやりたい」、「親子でも楽しめるイベントでした」等多くの感想が得られた。



深海のお話と水圧実験



地球温暖化実験



車型ロボットを動かそう



なぞって拡大図をえがこう

図1. わくわく実験教室の様子



図2. 学校説明会(八重山)の様子



図3. 学校説明会(宮古)の様子

3. 自己評価

本校の入学者受入は、準学士課程については入学者受入方針に従って選抜をしている。学力試験および調査書に基づいた学力選抜、面接および調査書に基づいた推薦選抜、調査書と専門実習の試験および面接に基づいた専門実習選抜を行っている。編入学生選抜では、入学者受入方針に従って学力試験や口頭試問および面接により選抜を行っている。専攻科の入学選抜では、入学者受入方針に従って選抜をしている。学力試験および面接に基づいた学力選抜、面接および調査書に基づいた推薦選抜を行っている。

以上のことから、本校では入学者受入方針に沿った学生の受入方法が採用され、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

実入学者数と定員との関係は、準学士課程は適正であるが、本年度の専攻科課程において入学定員24名のところ実入学者は17名であったので、今後の検討課題と考えられる。入学者数の適正人数を検討する必要がある。

IV 学生の受入

V 教育内容及び方法

1. 現状

教育課程は全学科で低学年に一般科目を多く配置し、学年が進むにつれて専門科目の比重が高まるくさび型の配置で編成されている。各学科の教育課程は低学年に一般科目と専門基礎科目を多く配置し、高学年に専門科目を多く配置している。

必修科目と選択科目については、低学年では一般科目の選択科目が配置され、高学年では専門科目と一般科目について選択科目が配置されている。

別表第1
一般科目

| 授業科目 | 単位数 | 区分 | 学年別配当 | | | | | | | | | | 備考 | | |
|--------------------------|------------------|---------------------------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------------|-------------------------------|------|
| | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | | | | |
| | | | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | | | |
| 国語 | 国語 I | 2 | 講義 | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| | 国語 II | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 国語 III | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | 文学概論 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | 科学技術文章 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | 英語 | English Comprehension I | 2 | 演習 | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| | | English Comprehension II | 2 | 演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | | English Comprehension III | 2 | 演習 | | | | | 2 | 通 | | | | | |
| | | English Comprehension IV | 2 | 演習 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 |
| | | English Communication I | 1 | 演習 | 1 | 半 | | | | | | | | | |
| English Communication II | | 1 | 演習 | | | 1 | 半 | | | | | | | | |
| English Skills I | | 2 | 演習 | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| English Skills II | | 2 | 演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| English Skills III | | 2 | 演習 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| English Skills IV | | 2 | 演習 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| 必修 | English Skills V | 2 | 演習 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | 科学技術英語 I | 2 | 演習 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | 社会科学 | 歴史学概論 | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | 地理学概論 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | 地域文化論 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | 技術者倫理 | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | 学修単位 | |
| | 数学 | 基礎数学 I | 4 | 講義 | 4 | 通 | | | | | | | | | |
| | | 基礎数学 II | 4 | 講義 | 4 | 通 | | | | | | | | | |
| | | 微積分 I | 4 | 講義 | | | 4 | 通 | | | | | | | |
| | | 微積分 II | 4 | 講義 | | | | | 4 | 通 | | | | | |
| 線形代数 | | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| 確率・統計 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| 自然科学 | 物理 I | 2 | 講義 | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| | 物理 II | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 化学 | 2 | 講義・演習 | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| | 生物と環境 | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | 生物・環境分野 | |
| | 地球科学概論 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| 健康科学 | スポーツ実技 I | 2 | 実技 | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| | スポーツ実技 II | 2 | 実技 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | スポーツ実技 III | 1 | 実技 | | | | | 1 | 半 | | | | | | |
| | 健康科学 | 1 | 演習・講義 | | | | | 1 | 半 | | | | | | |
| 修得単位数計 | 76 | | 21 | | 21 | | 14 | | 16 | | 4 | | | | |
| 選択 | 音楽 | 1 | 演習 | 1 | 半 | | | | | | | | | 40名1クラス開講 | |
| | 美術 | 1 | 演習 | 1 | 半 | | | | | | | | | 40名1クラス開講 | |
| | 沖縄方言 | 1 | 講義 | 1 | 半 | | | | | | | | | 40名1クラス開講 | |
| | デザイン | 1 | 講義 | 1 | 半 | | | | | | | | | 40名1クラス開講 | |
| | 英語演習 | 1 | 演習 | | | | | | | 1 | 半 | | | | |
| | 数学演習 | 1 | 演習 | | | | | | | 1 | 半 | | | | |
| | 生命科学 | 2 | 講義・実験 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | スポーツ実技 IV | 1 | 実技 | | | | | | | 1 | 半 | | | | |
| | スポーツ実技 V | 1 | 実技 | | | | | | | | | 1 | 半 | | |
| | 特許法・法学 | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | 学修単位 | |
| 科学技術英語 II | 2 | 演習 | | | | | | | | | 2 | 半 | 学修単位 ※2クラス開講 | | |
| 択 | 中国語 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | 学修単位 | 2科目のうちいずれか1科目を開講 | |
| | 韓国語 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | 学修単位 | | |
| | 日本語 I | 2 | 講義・演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | ※外国人留学生科目 | |
| | 日本語 II | 2 | 講義・演習 | | | | | 2 | 半 | | | | | ※外国人留学生科目、学修単位 | |
| | 日本事情 I | 2 | 講義・演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | ※外国人留学生科目 | |
| | 日本事情 II | 2 | 講義・演習 | | | | | 2 | 半 | | | | | ※外国人留学生科目、学修単位 | |
| | 開設単位数計 | 18 | | 4 | | 0 | | 5 | | 9 | | | | 本校以外の教育施設に於ける学修単位および資格試験は含まない | |
| | 修得単位数計 | 3 | | 1 | | 0 | | 1 | | 1 | | | | | |
| | 開設単位数合計 | 94 | | 25 | | 21 | | 14 | | 21 | | 13 | | | |
| | 修得単位数合計 | 79 | | 22 | | 21 | | 14 | | 17 | | 5 | | | |

※ 特別学修一般として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

(1)機械システム工学科

| 授 業 科 目 | 単位数 | 区分 | 学 年 別 配 当 | | | | | | | | | | 備考 | | |
|--------------------------------------|-------------|----|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------------------------|--------------------------|
| | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | | | | |
| | | | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | | | |
| 専全 門学 科共 目通 | 沖縄高専セミナー | 2 | 講義 | 2 | 半 | | | | | | | | | | |
| | 情報技術の基礎 | 3 | 講義 | 3 | 通 | | | | | | | | | | |
| | 創造演習 | 2 | 演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| 基 礎 科 目 群 | インターンシップ | 3 | 実習 | | | | | | 3 | 通 | | | | | |
| | 専門基礎工学 | 2 | 講義 | 2 | 半 | | | | | | | | | | |
| | プログラミングⅠ | 2 | 講義・演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 応用数学Ⅰ | 2 | 講義 | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 |
| | 応用数学Ⅱ | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 |
| | 応用物理 | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 機械力学 | 3 | 講義 | | | | | | 3 | 通 | | | | | 学修単位 |
| | 材料加工システムⅠ | 3 | 実習 | 3 | 通 | | | | | | | | | | |
| | 材料加工システムⅡ | 3 | 実習 | | | 3 | 通 | | | | | | | | |
| | 材料加工システムⅢ | 2 | 実習 | | | | | 2 | 半 | | | | | | |
| 材 料 シ ス テ ム 群 | 機械工作法 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | 機械材料 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | CAD・CAMⅠ | 2 | 演習 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | CAD・CAMⅡ | 2 | 演習 | | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 |
| | 材料科学 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 |
| | 設計システムⅠ | 2 | 講義・実習 | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| | 設計システムⅡ | 3 | 講義・実習 | | | 3 | 通 | | | | | | | | |
| | 材料力学設計Ⅰ | 2 | 講義・実習 | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 材料力学設計Ⅱ | 2 | 講義・演習 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | 総合構造設計 | 2 | 講義・演習 | | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 |
| 設 計 シ ス テ ム 群 | 熱工学 | 3 | 講義 | | | | | | 3 | 通 | | | | | 学修単位 |
| | 流体工学 | 2 | 講義 | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 |
| | 熱流体機器 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | 電気・電子工学 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | 制御工学 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 |
| 制 シ 御 シ ス テ ム 群 | メカトロニクス工学 | 3 | 講義・演習 | | | | | | | | 3 | 通 | | 学修単位 | |
| | 計測工学 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | 卒業研究 | 8 | 実習 | | | | | | | | | 8 | 通 | | |
| 共 通 群 | 産業創造セミナー | 1 | 講義・演習 | | | | | 1 | 半 | | | | | | |
| | 機械システム工学実験Ⅰ | 3 | 実験 | | | | | | | 3 | 通 | | | 学修単位 | |
| | 機械システム工学実験Ⅱ | 3 | 実験 | | | | | | | | 3 | 通 | | 学修単位 | |
| | 修得単位計 | 83 | | 12 | | 12 | | 15 | | 24 | | 20 | | | |
| 選 択 群 | 基礎科目群 | 2 | 講義・演習 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | 基礎科目群 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | 材料システム群 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | 設計システム群 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | システム制御群 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| 択 群 | システム制御群 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | システム制御群 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | システム制御群 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | 共通群 | 5 | 演習 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | | *各学年毎に単位取得可 (最大5単位)。 |
| | 指定科目群 | 2 | 講義・演習 | | | | | | | 2 | 通 | | | | 学修単位(航空技術者 コース履修者に限る) |
| 指 定 科 目 群 | 整備基礎Ⅱ | 2 | 講義・演習 | | | | | | | | 2 | 通 | | 学修単位(航空技術者 コース履修者に限る) | |
| | 航空実習 | 3 | 実習 | | | | | | | | 3 | 通 | | 航空技術者コース履修 者に限る | |
| | 開設単位計 | 19 | | 1 | | 1 | | 5 | | 1 | | 11 | | | |
| 修得単位計 | 6 | | 0 | | 0 | | 2 | | 0 | | 4 | | | | |
| 開設単位合計 | 102 | | 13 | | 13 | | 20 | | 25 | | 31 | | | | |
| 修得単位合計 | 89 | | 12 | | 12 | | 17 | | 24 | | 24 | | | | |

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

(2)情報通信システム工学科

| 授業科目 | 単位数 | 区分 | 学年別配当 | | | | | | | | | | 備考 | | | |
|-------------------|---------------|------------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----------------------|------|--|
| | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | | | | | |
| | | | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | | | | |
| 必修科目 共通群 | 沖繩高専セミナー | 2 | 講義 | 2 | 半 | | | | | | | | | | | |
| | 情報技術の基礎 | 3 | 講義 | 3 | 通 | | | | | | | | | | | |
| | 創造演習 | 2 | 演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| | インターンシップ | 3 | 実習 | | | | | | 3 | 通 | | | | | | |
| 必修科目 基礎群 | 離散数学 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | | |
| | 応用数学 | 2 | 講義 | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 | | |
| | 応用物理 | 2 | 講義 | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 | | |
| | 情報通信工学実験基礎 | 2 | 実験 | 2 | 半 | | | | | | | | | | | |
| | 情報通信工学実験Ⅰ | 2 | 実験 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| | 情報通信工学実験Ⅱ | 2 | 実験 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | 情報通信工学実験Ⅲ | 2 | 実験 | | | | | | | 2 | 通 | | | | | |
| | 計算機工学Ⅰ | 2 | 講義 | 2 | 通 | | | | | | | | | | | |
| | 計算機工学Ⅱ | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| | ソフトウェア演習 | 1 | 演習 | 1 | 半 | | | | | | | | | | | |
| | コンピュータアーキテクチャ | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | プログラミング基礎Ⅰ | 2 | 講義 | 2 | 通 | | | | | | | | | | | |
| | プログラミング基礎Ⅱ | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| | 必修科目 情報通信群 | 応用プログラミングⅠ | 4 | 演習 | | | | | | 4 | 通 | | | | 学修単位 | |
| 応用プログラミングⅡ | | 4 | 演習 | | | | | | | | 4 | 通 | | 学修単位 | | |
| データベース | | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | | |
| 電気回路Ⅰ | | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| 電気回路Ⅱ | | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| 電磁気学Ⅰ | | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| ネットワーク概論 | | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| 信号処理 | | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| 情報理論 | | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| 通信工学Ⅰ | | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| 必修科目 回路工学・学集積群 | 半導体工学 | 1 | 講義 | | | | | 1 | 半 | | | | | | | |
| | 電子回路Ⅰ | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | 電子回路Ⅱ | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | 電子回路演習 | 2 | 演習 | | | | | | | 2 | 通 | | | 学修単位 | | |
| | 集積回路工学 | 4 | 講義 | | | | | | | | 4 | 通 | | 学修単位 | | |
| 必修科目 ソフトウェア群 | 計測工学 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | 制御工学Ⅰ | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| | オペレーティングシステム | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| 共通群 | 卒業研究 | 8 | 実験 | | | | | | | | 8 | 通 | | | | |
| 修得単位計 | | | 88 | | 12 | | 12 | | 17 | | 23 | | 24 | | | |
| 選択科目 | 基礎科目群 | 化学Ⅱ | 2 | 講義 | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| | 情報通信工学群 | 電磁気学Ⅱ | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | | |
| | 情報通信工学群 | 情報通信総合演習 | 2 | 演習 | | | | | | | 2 | 通 | | | 学修単位 | |
| | | 電波電送学 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| | ソフトウェア群 | 通信法規 | 1 | 講義 | | | | | | | | 1 | 半 | | 学修単位 | |
| | | IT応用 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| | | 人工知能 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | | 制御工学Ⅱ | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | ソフトウェア群 | 組込システムⅠ | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | | 組込システムⅡ | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | 学修単位 | |
| 共通群 | 産業創造セミナー | 2 | 講義・実習 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | 創造研究* | 5 | 演習 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | * 各学年毎に単位取得可(最大5単位) | | |
| 必修科目 プログラム目指 | 整備基礎Ⅰ | 2 | 講義・演習 | | | | | | | 2 | 学 | | | 学修単位(航空技術者コース履修者に限る) | | |
| | 整備基礎Ⅱ | 2 | 講義・演習 | | | | | | | | 2 | 学 | | 学修単位(航空技術者コース履修者に限る) | | |
| | 航空実習 | 3 | 実習 | | | | | | | | | 3 | 通 | 航空技術者コース履修者に限る | | |
| 開設単位計 | | | 33 | | 1 | | 1 | | 5 | | 13 | | 13 | | | |
| 修得単位計 | | | 1 | | 0 | | 0 | | 0 | | 1 | | 0 | | | |
| 開設単位合計 | | | 121 | | 13 | | 13 | | 22 | | 36 | | 37 | | | |
| 修得単位合計 | | | 89 | | 12 | | 12 | | 17 | | 24 | | 24 | | | |

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

(3)メディア情報工学科

| 授業科目 | 単位数 | 区分 | 学年別配当 | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|---------------|----------------|-------------|-------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|--------------------|----------------------|
| | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | | | | | | |
| | | | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | | | | | |
| 必修科目 | 通専共 沖縄高専セミナー | 2 | 講義 | 2 | 半 | | | | | | | | | | | | |
| | 情報技術の基礎 | 3 | 講義 | 3 | 通 | | | | | | | | | | | | |
| | 創造演習 | 2 | 演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| | インターンシップ | 3 | 実習 | | | | | | 3 | 通 | | | | | | | |
| | 基礎科目群 | 離散数学 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | |
| | 応用数学 | 2 | 講義 | | | | | | 2 | 半 | | | | | | 学修単位 | |
| | 応用物理 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 情報理論 | 2 | 講義 | | | | | | 2 | 半 | | | | | | 学修単位 | |
| | プログラミングⅠ | 3 | 講義 | 3 | 通 | | | | | | | | | | | | |
| | メディア情報工学セミナー | 1 | 講義 | 1 | 半 | | | | | | | | | | | | |
| コンピュータアーキテクチャ | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| 修 | I群 | メディアコンテンツ基礎 | 3 | 講義・演習 | 3 | 通 | | | | | | | | | | | |
| | メディア情報工学実験Ⅰ | 4 | 実験 | | | 4 | 通 | | | | | | | | | | |
| | コンピュータグラフィックスⅠ | 2 | 講義 | | | | | | 2 | 半 | | | | | | 学修単位 | |
| | コンピュータグラフィックスⅡ | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 | |
| | コンピュータグラフィックスⅢ | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 | |
| | メディア情報工学実験Ⅱ | 2 | 実験 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | II群 | プログラミングⅡ | 4 | 講義 | | | 4 | 通 | | | | | | | | | |
| | プログラミングⅢ | 2 | 実験 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | アルゴリズムとデータ構造 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | メディア情報工学実験Ⅳ | 2 | 実験 | | | | | | | 2 | 通 | | | | | | |
| オブジェクト指向言語 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | | |
| OSとコンパイラⅠ | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | | |
| OSとコンパイラⅡ | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| データベース | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| III群 | デジタル回路 | 2 | 講義 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| メディア情報工学実験Ⅲ | 2 | 実験 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | | |
| デジタルシステム設計 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | | |
| IV群 | 通信工学 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| 情報セキュリティⅠ | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | | |
| 情報セキュリティⅡ | 4 | 講義 | | | | | | | | | 4 | 半 | | | 学修単位 | | |
| IV群 | コンピュータネットワークⅠ | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| コンピュータネットワークⅡ | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | | 学修単位 | | |
| 共通群 | 産業創造セミナー | 2 | 講義・演習 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | |
| 卒業研究 | 8 | 実験 | | | | | | | | | | 8 | 通 | | | | |
| | 修得単位計 | 85 | | 12 | | 12 | | 18 | | 21 | | 22 | | | | | |
| 選択科目 | I群 | メディアコンテンツ応用 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | II群 | 組み込みソフトウェア | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | III群 | 制御とロボット | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | IV群 | 信号処理とメディア通信 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | 共通群 | 創造研究* | 5 | 演習 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | | *各学年毎に単位取得可(最大5単位) | |
| | プログラム指定科目 | 整備基礎Ⅰ | 2 | 講義・演習 | | | | | | | 2 | 通 | | | | | 学修単位(航空技術者コース履修者に限る) |
| | | 整備基礎Ⅱ | 2 | 講義・演習 | | | | | | | | | 2 | 通 | | | 学修単位(航空技術者コース履修者に限る) |
| | | 航空実習 | 3 | 実習 | | | | | | | | | 3 | 通 | | | 航空技術者コース履修者に限る |
| | | 開設単位計 | 20 | | 1 | | 1 | | 1 | | 3 | | 14 | | | | |
| | | 修得単位計 | 4 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 4 | | | | |
| | 開設単位合計 | 105 | | 13 | | 13 | | 19 | | 24 | | 36 | | | | | |
| | 修得単位合計 | 89 | | 12 | | 12 | | 18 | | 21 | | 26 | | | | | |

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

※ I群:メディア・コンテンツ群、II群:ソフトウェア群、III群:ハードウェア群、IV群:ネットワーク群

(4)生物資源工学科

| 授業科目 | 単位数 | 区分 | 学年別配当 | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|----------------------|---------------|-----------|-------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|--------------------------|
| | | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 5年 | | | | | | |
| | | | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | 単位 | 期間 | | | | | |
| 専全 門学 科共 目通 | 沖縄高専セミナー | 2 | 講義 | 2 | 半 | | | | | | | | | | | | |
| | 情報技術の基礎 | 3 | 講義 | 3 | 通 | | | | | | | | | | | | |
| | 創造演習 | 2 | 演習 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| | インターシップ | 3 | 実習 | | | | | | 3 | 通 | | | | | | | |
| 基礎 科目 群 | 基礎科学 | 2 | 講義 | 2 | 半 | | | | | | | | | | | | |
| | 応用物理 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 応用数学 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | |
| | 基礎プログラミング | 2 | 講義 | 2 | 通 | | | | | | | | | | | | |
| | 情報技術の応用 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| 必 修 群 | 生物化学工学群 | 有機化学・物理化学 | 4 | 講義・実習・演習 | | | 4 | 通 | | | | | | | | | |
| | 生物分析化学 | 2 | 講義・実習 | | | 2 | 通 | | | | | | | | | | |
| | 生物有機化学 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 生化学 | 3 | 講義 | | | | | 3 | 通 | | | | | | | | |
| | 生化学実験 | 1 | 実験 | | | | | 1 | 通 | | | | | | | | |
| | 遺伝子工学 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | |
| | 遺伝子工学実験 | 2 | 実験 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | |
| | 生物工学 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | |
| | 生物工学実験 | 2 | 実験 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | |
| 修 群 | 環境・微生物群 | 微生物学 | 3 | 講義 | | | 3 | 通 | | | | | | | | | |
| | 微生物学実験 | 1 | 実験 | | | 1 | 通 | | | | | | | | | | |
| | 発酵学 | 2 | 講義・実習 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 環境学 | 1 | 演習 | | | | | 1 | 半 | | | | | | | | |
| | 環境学実験 | 2 | 実験 | | | | | 2 | 半 | | | | | | | | |
| | 環境分析学 | 2 | 講義・演習 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | |
| | 食品化学工学群 | 生物資源利用学Ⅰ | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 |
| | | 生理学 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 |
| | | 生理学実験 | 2 | 実験 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 |
| | | 食品プロセス工学 | 4 | 講義 | | | | | | | | | 4 | 通 | | | 学修単位 |
| 食品製造学 | | 2 | 講義・実験 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| 共通群 | 産業創造セミナー | 2 | 講義・演習 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 | |
| | バイオテクノロジー基礎実験 | 4 | 実験 | 4 | 通 | | | | | | | | | | | | |
| | 化学及び化学実験法 | 2 | 実験 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 化学資格基礎 | 2 | 講義 | | | | | 2 | 通 | | | | | | | | |
| | 卒業研究 | 8 | 実験 | | | | | | | | | 8 | 通 | | | | |
| 修得単位計 | | | 81 | | | 13 | | 12 | | 19 | | 23 | | 14 | | | |
| 選 択 群 | 生物化学工学群 | 分子生物学 | 2 | 講義 | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | 細胞工学 | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 | |
| | 環境・微生物群 | 環境保全学 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 |
| | | 植物生理学 | 2 | 講義 | | | | | | | 2 | 半 | | | | | 学修単位 |
| | | 資源リサイクル学 | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 |
| | 食品化学工学群 | 生物資源利用学Ⅱ | 2 | 講義・実験 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 |
| | | タンパク質工学 | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 |
| | 共通群 | 産業化学 | 2 | 講義 | | | | | | | | | 2 | 半 | | | 学修単位 |
| | | 創造研究* | 5 | 演習 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | 1 | 通 | | | * 各学年毎に単位取得可 (最大5単位)。 |
| | 開設単位計 | | | 21 | | | 1 | | 1 | | 1 | | 5 | | 13 | | |
| 修得単位計 | | | 8 | | | 0 | | 0 | | 0 | | 2 | | 6 | | | |
| 開設単位合計 | | | 102 | | | 14 | | 13 | | 20 | | 28 | | 27 | | | |
| 修得単位合計 | | | 89 | | | 13 | | 12 | | 19 | | 25 | | 20 | | | |

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

2. 取組

◇ 授業の内容

本科教育目標のいずれかの項目に沿うものとなっており、シラバスにその科目が対応する目標の番号や関連する他の科目が記載することとしている。

| | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--|---|---|---|----------------------------------|-------------|---------|
| 科目名 | 材料力学設計I | | | 英文表記 | Strength of Materials with Engineering Design I | | 2015/2/27 | |
| 科目コード | 2105 | | | | | | | |
| 教員名:比嘉 吉一 技術職員名: | | | | | | | 作成 | |
| 対象学科/専攻コース | | | | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | |
| 機械システム工学科 | | | | 2年 | 必 | 履修 | 2単位 | |
| 授業形態 | 講義 | | | 履修 | 2単位 | | 授業期間 | |
| 授業期間 | 通年 | | | | | | | |
| 科目目標 | 機械工学技術者として必要不可欠な力学的視点を基礎とする方法論と機械・構造物設計における実問題を解決する能力を学習する。2年生では、材料力学の基礎としての応力・ひずみの概念を理解し、実機械部材に作用する外力(引張力, 圧縮力, せん断力, 曲げモーメント, ねじりモーメント)とそのつりあいについての理論を修得する。 | | | | | | | |
| 総合評価 | 前期中間・期末試験および後期中間・期末試験の得点を80%, 各単元ごとに実施する小テストを20%の割合で総合的に評価する。合計点の60%以上取得の時, 単位を認定する。 | | | | | | | |
| 科目目標達成度 | 科目達成度目標 | | 達成度目標の評価方法 | | ルーブリック | | | |
| | | | | | 理想的な到達レベル | 標準的な到達レベル | 最低限必要な到達レベル | セルフチェック |
| | ① | 剛体系・変形体の力学系における「力のつりあい」「力のモーメントのつりあい」について理解できる | 各単元ごとに実施する演習課題, 小テストと4回の定期試験によりその能力を評価する。 | 種々の外力下での自由体図が作成でき, 他人に説明ができる。 | 右の議論の際に必要な不可欠な, 自由体図が作成できる。 | 力のつりあいに加えて, 力のモーメントのつりあい式が理解できる。 | | |
| | ② | 荷重を受ける部材の応力, ひずみ, 変形の評価ができる。 | 各単元ごとに実施する演習課題, 小テストと4回の定期試験によりその能力を評価する。 | 力学的物理量と幾何学的物理量との違いが説明でき, かつこれら物理量の関係式について説明できる。 | 仮想断面上での内力・内モーメントの理解により, 応力・ひずみの評価ができる。 | 仮想断面における内力・内モーメントの概念が概ね理解できる。 | | |
| ③ | ①, ②を通して, 所定の機能を持たせるに必要な実機械部材の設計(寸法・材料選定)ができる。 | 各単元ごとに実施する演習課題, 小テストと4回の定期試験によりその能力を評価する。 | 実機械部材の設計について, 寸法・材料選定ともに理由付けにより説明できる。 | 右に加えて, 材料選定を含めた実機械部材の設計方法について概ね理解できる。 | 引張・圧縮, ねじり, 曲げ変形下での応力計算ができる。 | | | |
| 本科・専攻科教育目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | |
| | ○ | | ◎ | | | | | |
| 評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合 | | | | | | | | |
| | 目標との関連 | 定期試験 | 小テスト | レポート | その他(演習課題発表・実技・成果物等) | 総合評価 | セルフチェック | |
| 評価項目 | | 80 | 20 | 0 | 0 | 100 | | |
| 基礎的理解 | ①② | 60 | 10 | | | 70 | | |
| 応用力(実践・専門・融合) | ③ | 20 | 5 | | | 25 | | |
| 社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL) | | | | | | 0 | | |
| 主体的・継続的学修意欲 | ③ | | 5 | | | 5 | | |
| 授業概要、方針、履修上の注意 | 材料力学は、機械や構造物が安全にかつ経済的に使用されるために必要な強度・構造設計に関する基礎的な学問であり、機械技術者が理解すべき最重要科目である。本授業では、機械工学技術者として必要不可欠な力学的視点を基礎とする方法論と機械・構造物設計における実問題を解決する能力を学修する。講義では数多くの例題を解説し、内容理解と応用力養成の目的から、PBL1形式により多くの問題演習を課す。1年生で履修した物理、基礎数学I, IIの復習はもちろんのこと、2年生で履修する微積分I, 線形代数をしっかりと勉強すること。「総合評価」に記載の通り、理解の定着を図るため毎回、復習のための小テストを実施する。積極的な自学自習、講義参加(ノートを取る)が必要不可欠である。 | | | | | | | |
| 教科書・教材 | 有光 隆 著, 図解でわかる はじめての材料力学, 技術評論社 単元ごとに演習プリントを配布する。 【参考図書】石田良平, 秋田剛 著, ビジュアルアプローチ 材料力学, 森北出版, 井山裕文著, 絵とき材料力学基礎のきそ, 日刊工業新聞社, 斉藤渥, 平井憲雄共著, 詳解材料力学演習(上), (下)など | | | | | | | |

◇航空技術者プログラムの設立

沖縄県は今後、那覇空港内に航空機整備事業を誘致する予定となっており、沖縄県において航空機の整備需要ならびに関連航空機産業における雇用創出の期待が高まっており、本校は沖縄県の更なる経済発展ならびに地域振興に寄与する目的から、航空産業に適う人材育成を行う。

「沖縄の空をそして世界の空を支える航空技術者へ！」というスローガンのもと、航空技術者を育成する4年間（専攻科課程含む）の航空技術者プログラムを設立し、一期生16名で「整備基礎Ⅰ」の新設講義を始めている。また、9月初旬には全日本空輸株式会社（ANA）全面協力のもと講義中心のインターンシップを行い、同月中旬には日本トランスオーシャン航空株式会社（JTA）のご協力のもと実践的教育を中心としたインターンシップを実施した。

2. 本プログラムの概要

本科4年生から専攻科2年生までの特別プログラムであり、二段階の人材育成を目的としている。

① 育成人材像

★ 本科4年生 ~ 5年生

航空機整備の基本知識を備え、自分自身で物事を主体的に考え行動できる人材になることを目的とする。

★ 専攻科1年生 ~ 2年生

品質安全及び技術管理の側面を知識として学び、航空機の製造技術を深く理解し、国際力豊かな製造技術者になることを目的とする。

| | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------------------|---|---|--------------------|---|---|---------------------------------|---------|---------|
| 科目名 | 整備基礎 I | | | | 英文表記 | AIRCRAFT BASIC I | 2015年3月20日 | | | |
| 科目コード | 7001 | | | | | | | | | |
| 教員名: 田口 学 | | | | | | | 作成 | | | |
| 技術職員名: | | | | | | | | | | |
| 対象学科/専攻コース | | | | | 学年 | 必・選 | 履修・学修 | 単位数 | 授業形態 | 授業期間 |
| 全学科 | | | | | 4年 | 選 | 履修 | 2単位 | 講義 | 通年 |
| 科目目標 | 前期については航空機全般に関する基礎的かつ重要な事項の理解を目標とし、後期については航空力学の基本的な考え方の修得を目的とする。 | | | | | | | | | |
| 総合評価 | 前期・後期評価: 定期試験(中間・期末)を80%、レポートを20%として総合的に評価し、60%以上を合格とする。 | | | | | | | | | |
| 科目目標達成度 | 科目達成度目標 | | | | 達成度目標の評価方法 | ルーブリック | | | | |
| | | | | | | 理想的な到達レベル | 標準的な到達レベル | 最低限必要な到達レベル | セルフチェック | |
| | ① | 航空機の整備に必要な基礎事項を説明できる。 | | | 定期試験及びレポートにより評価する。 | テキストを参照することなく、基礎事項や専門用語を相互に関連付けて説明できる。 | テキストを参照することなく基礎事項や専門用語を説明できる。 | テキストを参照しながら基礎事項や専門用語を説明できる。 | | |
| | ② | 航空力学の基礎知識を理解し、航空機の性能や挙動を説明できる。 | | | 定期試験により評価する。 | テキストを参照することなく、テキストに記載されている定理や原理を導出することができる。 | テキストに記載されている定理や原理と飛行機の挙動や性能を結びつけて説明できる。 | テキストを参照しながら、記載されている定理や原理を説明できる。 | | |
| | ③ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 本科・専攻科教育目標 | 1 | 2 | 3 | 4 | | | | | | |
| | ◎ | | ○ | | | | | | | |
| 評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合 | | | | | | | | | | |
| | 目標との関連 | | | | 定期試験 | 小テスト | レポート | その他(演習課題・発表・実技・成果物等) | 総合評価 | セルフチェック |
| 評価項目 | | | | | 80 | 0 | 20 | 0 | 100 | |
| 基礎的理解 | ①② | | | | 80 | | 20 | | 100 | |
| 応用力(実践・専門・融合) | | | | | | | | | 0 | |
| 社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL) | | | | | | | | | 0 | |
| 主体的・継続的学修意欲 | | | | | | | | | 0 | |
| 授業概要、方針、履修上の注意 | オリジナルのテキスト及び市販されている教科書を使用し、航空機全般に関する基礎事項及び航空力学に関する基礎事項の説明を行う。単に定義や数式を暗記するのではなく、各種システムの全体的な仕組みの理解及び航空力学が飛行機の設計・運航にどのように関係しているのかについて、基礎的な事項を理解してもらう。 | | | | | | | | | |
| 教科書・教材 | 航空力学 (日本航空技術協会) オリジナル資料 | | | | | | | | | |

| 授 業 計 画 | | | | | |
|----------------------------------|-------------------|-----|--------------------------------------|-------------------|-----------------|
| 週 | 授 業 項 目 | 時間 | 授 業 内 容 | 自学自習 (予習・復習)内容 | セルフ チェッ ク |
| 1 | 整備概論 | 2 | 航空機整備の目的と方針を説明する。 | | |
| 2 | 運航一般 | 2 | 航空機の一般的な運航方法について説明する。 | | |
| 3 | 航空機全般(1) | 2 | 航空機の種類などの基礎事項について説明する。 | | |
| 4 | 航空機全般(2) | 2 | タイヤ、ブレーキなどの基礎事項について説明する。 | | |
| 5 | 飛行の原理 | 2 | 飛行の原理について説明する。 | | |
| 6 | 航空機の電気 | 2 | 航空機の電気について説明する。 | | |
| 7 | 航空計器 | 2 | 航空計器について説明する。 | | |
| 8 | 前期中間試験(行事予定で週変更可) | 2 | | | |
| 9 | 通信システムと航法装置 | 2 | 航行に必要なシステム及びそれらの装置を説明する。 | | |
| 10 | 騒音、排気、潤滑油、燃料 | 2 | 騒音、排気、潤滑油、燃料について説明する。 | | |
| 11 | エアコン、電気、高圧空気 | 2 | 航空機のエアコン、電気、高圧空気の各システムの基礎事項を説明する。 | | |
| 12 | 機内装備、照明、酸素、水 | 2 | 航空機の機内装備、照明、酸素、水の各システムの基礎事項について説明する。 | | |
| 13 | 操縦系統、油圧、降着装置 | 2 | 航空機の操縦系統、油圧、降着装置の各システムの基礎事項について説明する。 | | |
| 14 | 燃料、防水、防火系統 | 2 | 航空機の燃料、防水、防火の各システムについて基礎事項を説明する。 | | |
| 15 | エンジン、補助動力装置 | 2 | エンジン、補助動力装置について基礎事項を説明する。 | | |
| 期末 | 期末試験 | [2] | | | |
| 16 | 航空力学の基礎 | 2 | 標準大気、ベルヌーイの定理など航空力学の基礎を説明する。 | | |
| 17 | 揚力と抗力(1) | 2 | 揚力の原理について説明する。 | | |
| 18 | 揚力と抗力(2) | 2 | 抗力の原理及び種類について説明する。 | | |
| 19 | 翼と翼型(1) | 2 | 翼と各部の名称及びその特性を説明する。 | | |
| 20 | 翼と翼型(2) | 2 | 翼型、高揚力装置の名称及びその特性を説明する。 | | |
| 21 | 安定性 | 2 | 静安定、動安定の概念について説明する。 | | |
| 22 | 操縦性(1) | 2 | 舵面の操舵力の基礎について説明する。 | | |
| 23 | 後期中間試験(行事予定で週変更可) | 2 | | | |
| 24 | 操縦性(2) | 2 | 縦、横、方向の操縦の基礎について説明する。 | | |
| 25 | 性能(1) | 2 | 速度及び馬力の基礎について説明する。 | | |
| 26 | 性能(2) | 2 | 上昇、旋回、巡航性能の基礎を説明する。 | | |
| 27 | 性能(3) | 2 | 降下、離着陸性能の基礎を説明する。 | | |
| 28 | 高速空気力学(1) | 2 | 高速空気力学の基礎を説明する。 | | |
| 29 | 高速空気力学(2) | 2 | 高速飛行に伴う現象と対策について説明する。 | | |
| 30 | 重量および搭載 | 2 | 航空機の重量および重心位置について説明する。 | | |
| 期末 | 期末試験 | [2] | | | |
| 学習時間合計 | | 60 | 実時間 | 45 | |
| 自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証) | | | | 標準的所用時間(試行) | |
| ① | テキストの該当部分の予習 | | | 各1時間×30回 | |
| ② | | | | | |
| ③ | | | | | |
| 備考欄 | | | | | |
| | | | | | |

◇日本技術者教育プログラム（JABEE）認定

平成23年度に、4つの技術者教育プログラム（機械システム工学プログラム、情報通信システム工学プログラム、メディア情報工学プログラム、生物資源工学プログラム）でJABEE新規審査を受審し、平成24年4月27日に認定された。有効期間は平成22年度～24年度修了生となっていたため、平成25年度に認定継続のため中間審査を受審し、平成28年3月までの認定となった。

JABEEプログラムについては、次年度以降も継続して受審するため、新基準で対応できるよう評価対応委員会で審議している。

基準の構成 旧基準

JABEE

- ✓ 基準2～4の3つの基準がDoを分担
- ✓ 基準2で学習・教育の量を規定

| |
|--|
| 基準1：学習・教育目標の設定と公開 (Plan) |
| 基準2：学習・教育の量 (Do) |
| 基準3：教育手段 (Do) 教育方法、教育組織 入学、学生受け入れ及び移籍の方法 |
| 基準4：教育環境・学生支援 (Do) 施設、設備 財源、学生への支援体制 |
| 基準5：学習・教育目標の達成 (Check) |
| 基準6：教育改善 (Act) 教育点検、継続的改善 |
| 分野別要件 |

© JABEE 2006-2013

基準の構成 新基準

JABEE

- 基準大項目を6項目から4項目へ（「Do」を基準2に集約）
- ✓ 従来から強調してきたアウトカムズ重視の姿勢をより明確化。
- ✓ Plan-Do-Check-Actと基準項目の対応関係をより明確化。
- ✓ 「学習・教育目標」の名称を「学習・教育到達目標」に変更して、「学生に到達させるべきもの」であることを明確化。

| |
|---|
| 基準1：学習・教育到達目標の設定と公開 (Plan) |
| 基準2：教育手段 (Do) 教育課程の設計、学習・教育の実施 教育組織、入学、学生受け入れ及び異動の方法 教育環境・学生支援 |
| 基準3：学習・教育到達目標の達成 (Check) |
| 基準4：教育改善 (Act) 教育点検、継続的改善 |

© JABEE 2006-2013

3. 自己評価

準学士教育課程は本校の目的、本科教育目標が達成されるように授業科目を設定し、学年進行に伴って段階的に履修ができるように適切に配置されている。低学年には主に一般科目や基礎的な専門科目が配置され、高学年では専門科目が多く配置されており、一般科目と専門科目がバランスよく編成されている。

VI 教育の成果

VI 教育の成果

1. 現状

本校学生のキャリア形成と学生及び卒業生の進学・就職活動を支援することを目的としてキャリア教育センターを設置している。

キャリア教育センターは、単に進路決定のための情報提供や支援のみならず、学生自ら自己分析・自己理解を進め、インターンシップなどを通して社会やさまざまな職業を理解していくことで、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養う支援を行っている。

2. 取組

◇キャリア教育センターには、キャリア教育及び進路に関することを支援するため専任のキャリアアドバイザーを常駐させ、学生の進路支援を手厚くしている。

キャリア教育センター運営委員会を設置し、全学年を対象とした体系的なキャリア教育を推進する。

| キャリア教育年間スケジュール | |
|----------------|---|
| 実施時期 | 取り組み内容 |
| 4月-9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・メイクアップセミナー（5年生：4月） ・着こなしセミナー（5年生：4月） ・よろず相談会（1年生：5月） ・着こなしセミナー（4年生：6月） ・ビジネスマナー講習会／メイクアップセミナー（4年生：7月） ・キャリア教育センター長講話（2年生：7月） ・インターンシップ（4年生：8月・9月） ・よろず相談会（1年生：7月） ・就活活動個人／集団面接練習（5年，専攻科生：随時） ・エントリーシート添削（5年，専攻科生：随時） |
| 10月-3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ報告会（4年生：10月） ・キャリア教育講演会「テーマ：インターンシップ及び企業研修を控える皆さんへ」（3年生：10月） ・キャリア教育講演会「テーマ：2017就職活動の備えと対応」（4年生：10月） ・企業勉強会（3年生・4年生・専攻科生：10月） ・キャリア教育講演会「テーマ：企業が求めるスペシャリスト」（2年生：11月） ・キャリア教育講演会「テーマ：自立と自律」（1年生：11月） ・クラス別キャリア教育セミナー「OB・OG講演会」（2年生：12月） ・学内合同及びインターンシップ企業研究会（4年生・5年生・専攻科生：12月） ・研修旅行（3年生：12月） ・よろず相談会（1年生：1月） ・就職・進学セミナー（5年生・専攻科生：2月） ・学内合同及びインターンシップ企業研究会（4年生・5年生・専攻科生：2月） ・OB・OG，技術者によるキャリア教育講演会（全学年及び教職員：随時） ・企業技術者等との懇談会（全学年及び教職員：毎月第4木曜日） |

平成26年3月卒業者の進路状況

【本科】

| | 区分 | 学科 | | | | 合計 |
|------|-------------------------------|---|--|--|---|-------------------------|
| | | 機械システム工学科 | 情報通信システム工学科 | メディア情報工学科 | 生物資源工学科 | |
| | 卒業生数 | 35 | 37 | 39 | 37 | 148 |
| 進学状況 | 進学希望者数 | 16 | 11 | 10 | 28 | 65 |
| | 合格者数 | 16 | 11 | 10 | 28 | 65 |
| | うち専攻科合格者数 | 8 | 7 | 4 | 13 | 32 |
| | うち3年次編入等合格者数 | 7 | 4 | 6 | 13 | 30 |
| | うち専門学校等合格者数 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3 |
| | 進学決定率 (合格者数/進学希望者数) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 進学先※ | 長岡技術科学大学(2) 豊橋技術科学大学 神戸大学 九州工業大学(2) 千葉工業大学 | 宮崎大学 琉球大学(2) 名桜大学 | 東京農工大学 九州大学 宇都宮大学 琉球大学(2) 武蔵野美術大学 | 信州大学 長岡技術科学大学(4) 岡山大学 高知大学 琉球大学(4) 宮崎大学 筑波大学 東京環境工科専門学校 | |
| 就職状況 | 就職希望者数 | 19 | 26 | 29 | 8 | 82 |
| | 就職者数 | 19 | 26 | 29 | 8 | 82 |
| | 就職率 (就職者数/就職希望者数) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 就職先企業名※ (県内) 県内に本社のある企業 | 株式会社ベアック沖縄 沖縄パナソニック特機株式会社 沖縄電力株式会社 ヤンマー沖縄株式会社 拓南製鉄株式会社 沖繩ターミナル株式会社 株式会社西原環境おきなわ | 沖縄電力株式会社 沖縄東芝メディカル株式会社 株式会社沖縄富士通システムエンジニアリング トランスコスモスシーアール・エム沖縄株式会社 | 株式会社SummerTimeStudio 沖縄パナソニック特機株式会社 株式会社パッショーネ 沖縄クロス・ヘッド株式会社(3) NECソフト沖縄株式会社 株式会社ベアック沖縄 株式会社沖縄富士通システムエンジニアリング 株式会社沖縄ゴンゾ | 琉球セメント株式会社 株式会社サウスプロダクト | |
| | | 計 7 名 内定者に占める割合 37% | 計 4 名 内定者に占める割合 15% | 計 10 名 内定者に占める割合 35% | 計 2 名 内定者に占める割合 25% | 計 23 名 内定者に占める割合 28% |
| | 就職先企業名※ (県外) 県外に本社がある企業 | 株式会社カンセン JXエンジニアリング株式会社 盟友技研株式会社(2) 朝日インテック株式会社 山九株式会社 株式会社ハイベック 富士テクノサービス株式会社 株式会社荏原製作所 株式会社九南 株式会社赤井工作所(2) | 株式会社NTTホームテクノ(2) 矢崎総業株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 出光興産株式会社 中部電力株式会社 CTCシステムサービス株式会社 ダイキン工業株式会社(2) 日本信号株式会社 富士電機株式会社 東京ガス株式会社 新日鐵住金株式会社 大阪ガス株式会社 株式会社日立ハイシステム21 株式会社東芝 社会インフラシステム社(2) 東京計装株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティネオメイト セコム株式会社 株式会社東芝(府中事業所)(2) | パナソニックエレクトロニクス株式会社 CTCシステムサービス株式会社 株式会社日立情報通信エンジニアリング NECネットワークスアイ・エンジニアリング株式会社 日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア株式会社 エヌアイシー・ソフト株式会社 株式会社協和エクシオ 株式会社トヨタコミュニケーションシステム(3) 株式会社ドリーム・アーツ 株式会社エス・ティー・シー 大阪ガス株式会社 株式会社第一テクノ 株式会社日立ハイシステム21 出光興産株式会社 Jetrunテクノロジー株式会社 株式会社シーエヌエス 株式会社デジタルデザインサービス | 雷印メグミルク株式会社 大同薬品工業株式会社 旭化成株式会社 日本特殊研砥株式会社 三洋化成工業株式会社 バイオ・サイト・キャピタル株式会社 | |
| | | 計 12 名 内定者に占める割合 63% | 計 22 名 内定者に占める割合 85% | 計 19 名 内定者に占める割合 66% | 計 6 名 内定者に占める割合 75% | 計 59 名 内定者に占める割合 72% |

※同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

※生物資源工学科卒業者のうち留学生1名は帰国

平成26年3月修了者の進路状況

【専攻科】

| | 区分 | コース | | | | 合計 |
|------|-------------------------------|-------------------------|---|-------------------------|---|------------------------|
| | | 機械システム工学コース | 電子通信システム工学コース | 情報工学コース | 生物資源工学コース | |
| | 修了者数 | 3 | 8 | 2 | 10 | 23 |
| 進学状況 | 進学希望者数 | 1 | 6 | 1 | 1 | 9 |
| | 合格者数 | 1 | 6 | 1 | 1 | 9 |
| | うち大学院等進学予定者 | 1 | 6 | 1 | 1 | 9 |
| | 進学決定率 (合格者数/進学希望者数) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 進学先※ | 九州工業大学大学院 | 豊橋技術科学大学大学院(2) 早稲田大学大学院 九州工業大学大学院 九州大学大学院 奈良先端科学技術大学院大学 | 九州工業大学大学院 | 奈良先端科学技術大学院大学 | |
| 就職状況 | 就職希望者数 | 2 | 2 | 1 | 9 | 14 |
| | 就職者数 | 2 | 2 | 1 | 9 | 14 |
| | 就職率 (内定者数/就職希望者数) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| | 就職先企業名※ (県内) 県内に本社のある企業 | | | | オキコ株式会社 沖縄県庁 沖縄県農業協同組合(JAおきなわ) 沖縄ハム総合食品株式会社 オリオンビール株式会社 沖縄森永乳業株式会社 | |
| | | 計 0 名 内定者に占める割合 0% | 計 0 名 内定者に占める割合 0% | 計 0 名 内定者に占める割合 0% | 計 6 名 内定者に占める割合 67% | 計 6 名 内定者に占める割合 43% |
| | 就職先企業名※ (県外) 県外に本社がある企業 | アイシン精機株式会社 株式会社小松製作所 | 株式会社エヌエイテクノロジー 富士電機株式会社 | 株式会社ドヴァ | 沢井製薬株式会社 大同薬品工業株式会社 | |
| | | 計 2 名 内定者に占める割合 100% | 計 2 名 内定者に占める割合 100% | 計 1 名 内定者に占める割合 100% | 計 3 名 内定者に占める割合 33% | 計 8 名 内定者に占める割合 57% |

※同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

【平成27年3月卒業者の進路状況】

【本科】

| | 区分 | 学科 | | | | 合計 |
|------|-------------------------------|--|---|---|--|-------------------------|
| | | 機械システム工学科 | 情報通信システム工学科 | メディア情報工学科 | 生物資源工学科 | |
| | 卒業数 | 32 | 37 | 39 | 35 | 143 |
| 進学状況 | 進学希望者数 | 13 | 13 | 14 | 14 | 54 |
| | 進学者数 | 13 | 12 | 14 | 12 | 51 |
| | うち専攻科進学者数 | 3 | 6 | 2 | 6 | 17 |
| | うち3年次編入等進学者数 | 8 | 5 | 11 | 6 | 30 |
| | うち専門学校進学者数 | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 |
| | 進学決定率 (進学者数/進学希望者数) | 100.0% | 92.3% | 100.0% | 85.7% | 94.4% |
| | 進学先※ | 長岡技術科学大学 豊橋技術科学大学(6) 琉球大学 【その他】 日経ビジネス専門学校 沖縄工業高等専門学校研究生 | 豊橋技術科学大学 千葉大学 筑波大学 琉球大学(2) 【その他】 沖縄職業能力開発大学校 ポリテクカレッジ沖縄 | 九州工業大学 長岡技術科学大学(2) 東京農工大学 電気通信大学 信州大学 筑波大学 琉球大学(4) 【その他】 ヒューマンアカデミー那覇校 | 東京工業大学 香川大学 帯広畜産大学 筑波大学 高知大学 沖縄大学 | |
| 就職状況 | 就職希望者数 | 19 | 22 | 25 | 21 | 87 |
| | 就職者数 | 19 | 22 | 22 | 21 | 84 |
| | 就職率 (就職者数/就職希望者数) | 100.0% | 100.0% | 88.0% | 100.0% | 96.6% |
| | 就職先企業名※ (県内) 県内に本社のある企業 | 株式会社ベアック沖縄 極東建設株式会社 沖縄東芝メディカル株式会社 タイガー産業株式会社 | 沖縄電力株式会社 サン電通エンジニアリング株式会社 株式会社アブリカラボ | 株式会社ビーンズラボ 株式会社ODNソリューション 株式会社国際システム | 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社 瑞穂酒造株式会社 株式会社くしけん(3) 沖縄ハム総合食品株式会社 まさひろ酒造株式会社 株式会社御菓子御殿 沖縄明治乳業株式会社 農業生産法人 本部ウェルネスフーズ株式会社 | |
| | | 計 4 名 就職者に占める割合 21% | 計 3 名 就職者に占める割合 14% | 計 3 名 就職者に占める割合 14% | 計 10 名 就職者に占める割合 48% | 計 20 名 就職者に占める割合 24% |
| | 就職先企業名※ (県外) 県外に本社がある企業 | 山九株式会社 株式会社明電舎 出光興産株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 東京ガス株式会社 ダイキン工業株式会社 大阪ガス株式会社 三菱日立パワーシステムズ株式会社 ムラテックCCS株式会社 株式会社アヤボ 株式会社日立ビルシステム 日本オーテス・エレベータ株式会社 日立建機株式会社 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター サンテック株式会社 | ムラテックCCS株式会社 大阪ガス株式会社 NECネットエスアイエンジニアリング株式会社 中部電力株式会社 サンテック株式会社 株式会社NTTフィールドテクノ エヌアイシー・ソフト株式会社 旭化成株式会社 アイフォーコム株式会社 株式会社NTTファシリティーズ 株式会社ベアック 株式会社日立ハイシステム21 ソーバル株式会社 新日鐵住金株式会社 パナソニックエクスセルテクノロジー株式会社 株式会社東芝(府中事業所) 矢崎総業株式会社 日本電産株式会社 株式会社フォーラムエンジニアリング | 株式会社日立情報通信エンジニアリング 株式会社ドリーム・アーツ 株式会社エヌ・ティ・ビー・シーコミュニケーションズ NTTコムテクノロジー株式会社 株式会社リンク・アットジャパン 株式会社富士通ミツジョンクリティカルシステムズ(2) ニフティ株式会社 株式会社トヨタコミュニケーションシステム 株式会社NS・コンピュータサービス 株式会社NHKメディアテクノロジー アイフォーコム株式会社 株式会社日立ハイシステム21 大阪ガス株式会社 株式会社コロビト サントリープロダクツ株式会社 株式会社ラソナ エヌアイシー・ソフト株式会社 株式会社デザインネットワーク | 旭化成株式会社 第一三共プロファーマ(2) 東レ株式会社 資生堂株式会社 三洋化成工業株式会社(2) 花王株式会社 株式会社 東洋新薬 サントリープロダクツ株式会社 株式会社ジーユー | |
| | | 計 15 名 就職者に占める割合 79% | 計 19 名 就職者に占める割合 86% | 計 19 名 就職者に占める割合 86% | 計 11 名 就職者に占める割合 52% | 計 64 名 就職者に占める割合 76% |

※同一企業に複数名の学生が就職した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

※情報通信システム工学科卒業生のうち、2名は海外留学予定。

【平成27年3月修了者の進路状況】

【専攻科】

| 区分 | コース | | | | 合計 |
|-------------------------------|--|---|--|--|-------------------------|
| | 機械システム工学コース | 電子通信システム工学コース | 情報工学コース | 生物資源工学コース | |
| 修了数 | 8 | 8 | 8 | 10 | 34 |
| 進学希望者数 | 3 | 2 | 2 | 4 | 11 |
| 進学者数 | 3 | 2 | 2 | 4 | 11 |
| うち大学院等進学者数 | 3 | 2 | 2 | 4 | 11 |
| 進学決定率 (進学者数/進学希望者数) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 進学先※ | 筑波大学大学院 長岡技術科学大学大学院 琉球大学大学院 | 九州大学大学院 豊橋技術科学大学大学院 | 九州工業大学大学院 奈良先端科学技術大学院大学 | 東京工業大学大学院 北海道大学大学院 九州大学大学院 神戸大学大学院 | |
| 就職希望者数 | 5 | 6 | 5 | 6 | 22 |
| 就職者数 | 5 | 6 | 5 | 6 | 22 |
| 就職率 (就職者数/就職希望者数) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 就職先企業名※ (県内) 県内に本社のある企業 | 沖縄製粉株式会社 沖縄科学技術大学院大学 株式会社那覇データセンター | 沖縄電力株式会社 沖縄セルラー電話株式会社 株式会社リウコム | 株式会社琉球ネットワークサービス | | |
| | 計 3 名 就職者に占める割合 60% | 計 3 名 就職者に占める割合 50% | 計 1 名 就職者に占める割合 20% | 計 0 名 就職者に占める割合 0% | 計 7 名 就職者に占める割合 32% |
| 就職先企業名※ (県外) 県外に本社がある企業 | 株式会社小松製作所 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター | 富士電機株式会社 CTCシステムマネジメント株式会社 インターフェイス株式会社 | 株式会社両備システムズ 株式会社サイバーエージェント 大阪ガス株式会社 富士ソフト株式会社 | サントリー酒類株式会社 中外製薬株式会社 沢井製薬株式会社 旭化成株式会社(2) 株式会社アイ・エス・ソリューション | |
| | 計 2 名 就職者に占める割合 40% | 計 3 名 就職者に占める割合 50% | 計 4 名 就職者に占める割合 80% | 計 6 名 就職者に占める割合 100% | 計 15 名 就職者に占める割合 68% |

※同一企業に複数名の学生が就職した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

※情報工学コースの修了生のうち、1名は「家事手伝い」

【平成28年3月卒業予定者の進路状況】

【本科】

平成27年12月1日現在

| 区分 | 学科 | | | | 合計 |
|--------------------------------|---|---|---|--|-------------------------|
| | 機械システム工学科 | 情報通信システム工学科 | メディア情報工学科 | 生物資源工学科 | |
| 卒業予定者数 | 34 | 38 | 37 | 36 | 145 |
| 進学希望者数 | 15 | 11 | 7 | 14 | 47 |
| 合格者数※2 | 14(2) | 9(1) | 6 | 12(1) | 41(4) |
| うち専攻科合格者数 | 9 | 8 | 1 | 6 | 24 |
| うち3年次編入等合格者数 | 7 | 2 | 5 | 7 | 21 |
| うち専門学校合格者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 進学決定率 (合格者数/進学希望者数) | 93.3% | 81.8% | 85.7% | 85.7% | 87.2% |
| 進学先※1 | 九州工業大学 豊橋技術科学大学(3) 琉球大学(3) | 長岡技術科学大学 電気通信大学 | 長岡技術科学大学 九州工業大学 東京大学 琉球大学 新潟大学 | 香川大学 琉球大学(2) 熊本大学 長岡技術科学大学 岐阜大学 東京農工大学 | |
| 就職希望者数 | 19 | 27 | 30 | 22 | 98 |
| 内定者数(内々定含む) | 17 | 26 | 26 | 16 | 85 |
| 内定率 (内定者数/就職希望者数) | 89.5% | 96.3% | 86.7% | 72.7% | 86.7% |
| 就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業 | MRO Japan 株式会社 | 株式会社創和ビジネス・マシズ 琉球エアークommputer株式会社 MRO Japan 株式会社 株式会社ベアック沖縄(2) | 株式会社ODNソリューション MRO Japan 株式会社 株式会社琉球ネットワークサービス(4) 沖電グローバルシステムズ株式会社 | 沖縄電力株式会社 | |
| | 計 1 名 内定者に占める割合 6% | 計 5 名 内定者に占める割合 19% | 計 7 名 内定者に占める割合 27% | 計 1 名 内定者に占める割合 6% | 計 14 名 内定者に占める割合 17% |
| 就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業 | 株式会社日立ビルシステム 株式会社荏原製作所(2) ダイキン工業株式会社 株式会社ビームステディンコンサルタント ニプロ株式会社 サントリープロダクツ株式会社 村田機械株式会社 小倉クラッチ株式会社 大阪ガス株式会社 山九株式会社 株式会社Mテック フジケンエンジニアリング株式会社 富士重工業株式会社 株式会社タマディック リョービ株式会社 | サントリープロダクツ株式会社 株式会社東芝 社会インフラシステム社 富士電機株式会社 村田機械株式会社 株式会社NTTフィールドテクノ 株式会社ドリーム・アーツ 株式会社NS・コンピュータサービス ANAベースメンテナンステクノクス株式会社 日本オーテス・エレベータ株式会社 大阪サニタリー株式会社 昭和電工株式会社 株式会社東芝 電力システム社 株式会社ヒップ エスアイエス・テクノサービス株式会社 株式会社すかいらく 株式会社アルメックス PSP株式会社 富士テクノサービス株式会社 矢崎総業株式会社 ダイキン工業株式会社 株式会社NTTファシリティーズ | 株式会社テクノ菱和 株式会社クリエイティブキャスト(2) 日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア株式会社 株式会社ネットワールド パナソニックアドバンステクノロジーズ株式会社 株式会社日立ハイシステム21 キャッツ株式会社 株式会社トヨタコミュニケーションシステム 矢崎総業株式会社 京セラコミュニケーションシステム株式会社 株式会社IMAGIGA 株式会社SOLIS produce ヤフー株式会社 大阪ガス株式会社 株式会社富士通九州システムサービス 日立SC株式会社 株式会社富士通ソリューションクリティカルシステムズ 株式会社ディー・エヌ・エー | 一般社団法人農山漁村文化協会 第一三共プロファーマ株式会社(2) 三洋化成株式会社(4) 雪印メグミルク株式会社 サントリープロダクツ株式会社(2) 旭化成株式会社 テバ製薬株式会社 理研ビタミン株式会社 フジアルテ株式会社 花王株式会社 | |
| | 計 16 名 内定者に占める割合 94% | 計 21 名 内定者に占める割合 81% | 計 19 名 内定者に占める割合 73% | 計 15 名 内定者に占める割合 94% | 計 71 名 内定者に占める割合 84% |

※1.同一企業に複数名の学生が内定(内々定含む)した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

※2.複数校に合格した者がいる場合、その人数を()内に示しています。

【平成28年3月修了予定者の進路状況】

【専攻科】

平成27年12月1日現在

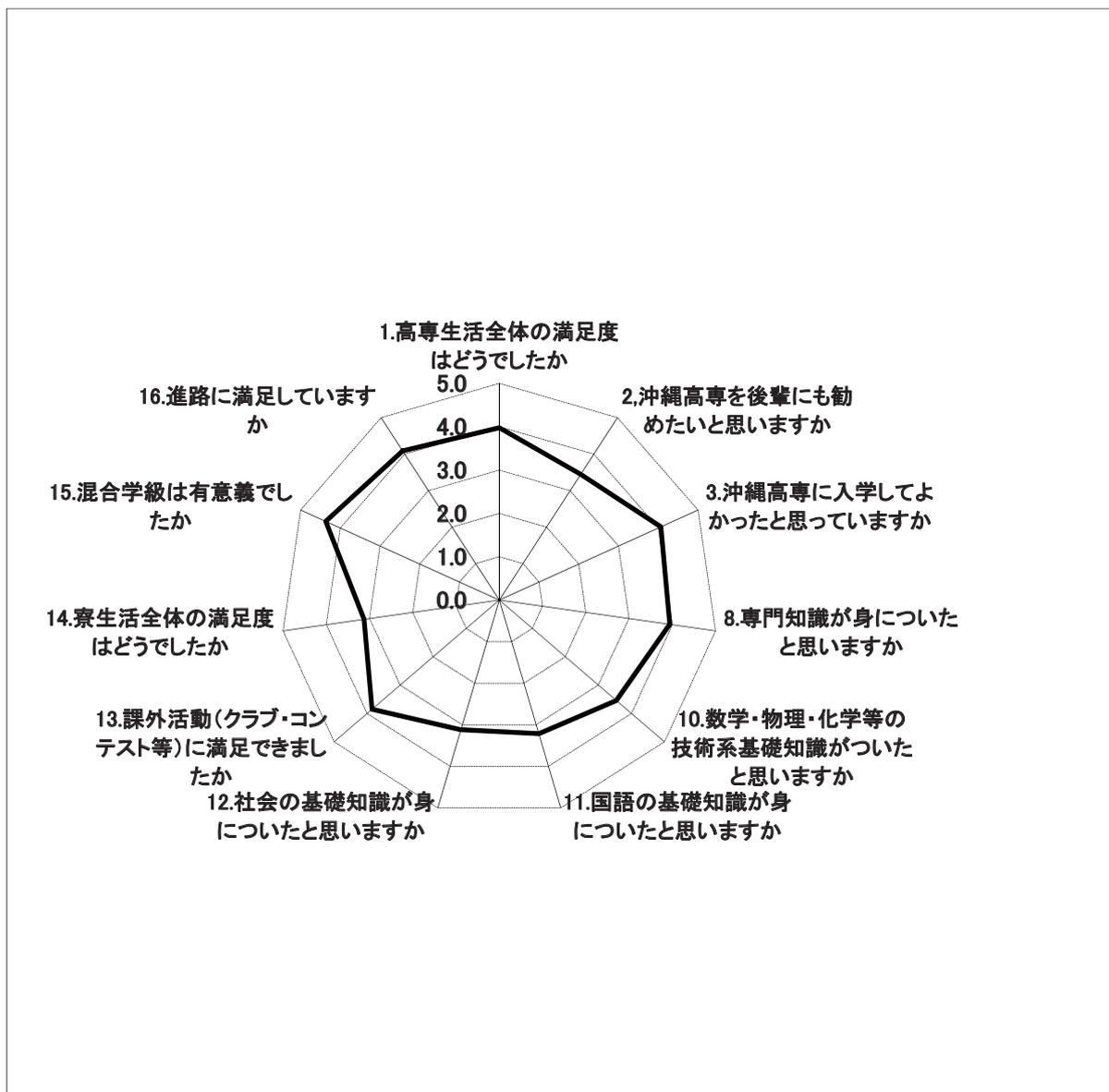
| 区分 | コース | | | | 合計 |
|-------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--|-------------------------|
| | 機械システム工学コース | 電子通信システム工学コース | 情報工学コース | 生物資源工学コース | |
| 修了予定者数 | 6 | 6 | 3 | 12 | 27 |
| 進学希望者数 | 3 | 4 | 0 | 3 | 10 |
| 合格者数 | 2 | 3 | 0 | 3 | 8 |
| うち大学院等進学予定者 | 2 | 3 | 0 | 2 | 7 |
| 進学決定率 (合格者数/進学希望者数) | 66.7% | 75.0% | 0.0% | 100.0% | 80.0% |
| 進学先※ | 長岡技術科学大学院 九州大学大学院 | 九州大学大学院 琉球大学大学院 筑波大学大学院 | | 東京工業大学大学院 総合研究大学院大学 大阪大学(研究生) | |
| 就職希望者数 | 3 | 2 | 3 | 9 | 17 |
| 内定者数(内々定含む) | 3 | 2 | 3 | 8 | 16 |
| 内定率 (内定者数/就職希望者数) | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 88.9% | 94.1% |
| 就職先企業名※ (県内) 県内に本社のある企業 | | | 株式会社琉球ネットワークサービス 株式会社ラジオ沖縄 | オリオンビール株式会社 | |
| | 計 3 名 内定者に占める割合 0% | 計 2 名 内定者に占める割合 0% | 計 2 名 内定者に占める割合 67% | 計 1 名 内定者に占める割合 13% | 計 3 名 内定者に占める割合 19% |
| 就職先企業名※ (県外) 県外に本社がある企業 | 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 富士テクノ株式会社(2) | 富士電機株式会社 富士通株式会社 | GMOペパボ株式会社 | サントリービール株式会社 大阪サントリー株式会社 沢井製薬株式会社(2) 旭化成株式会社 株式会社ジェイック 株式会社ユニクロ | |
| | 計 3 名 内定者に占める割合 100% | 計 2 名 内定者に占める割合 100% | 計 1 名 内定者に占める割合 33% | 計 7 名 内定者に占める割合 88% | 計 13 名 内定者に占める割合 81% |

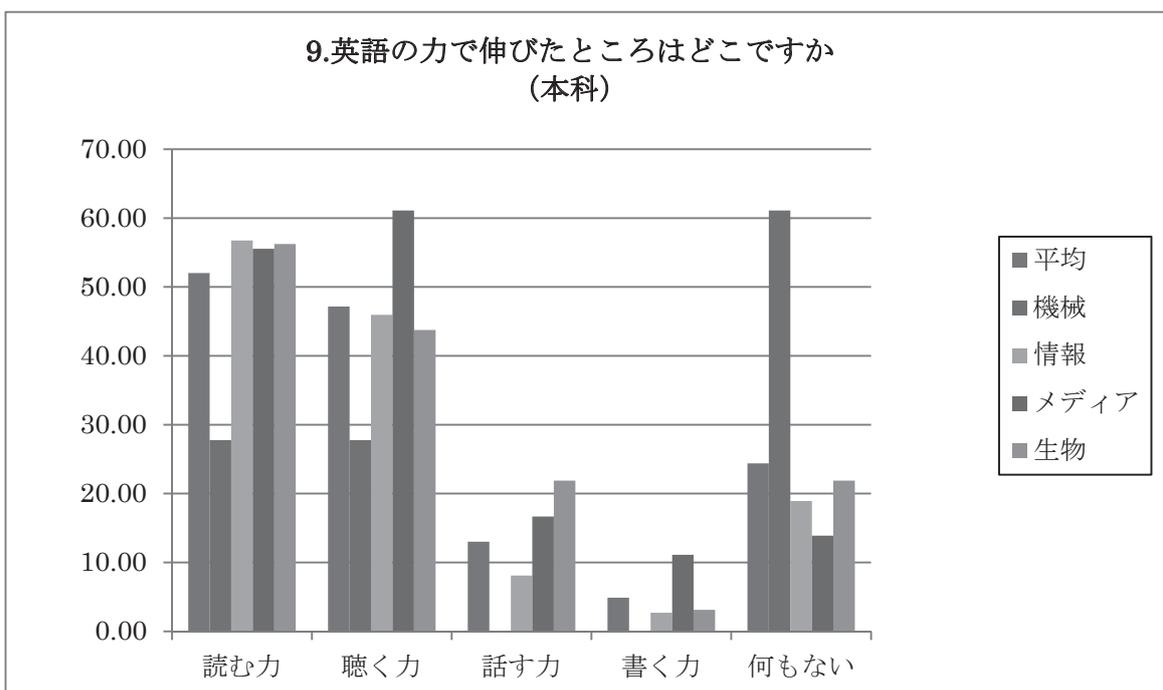
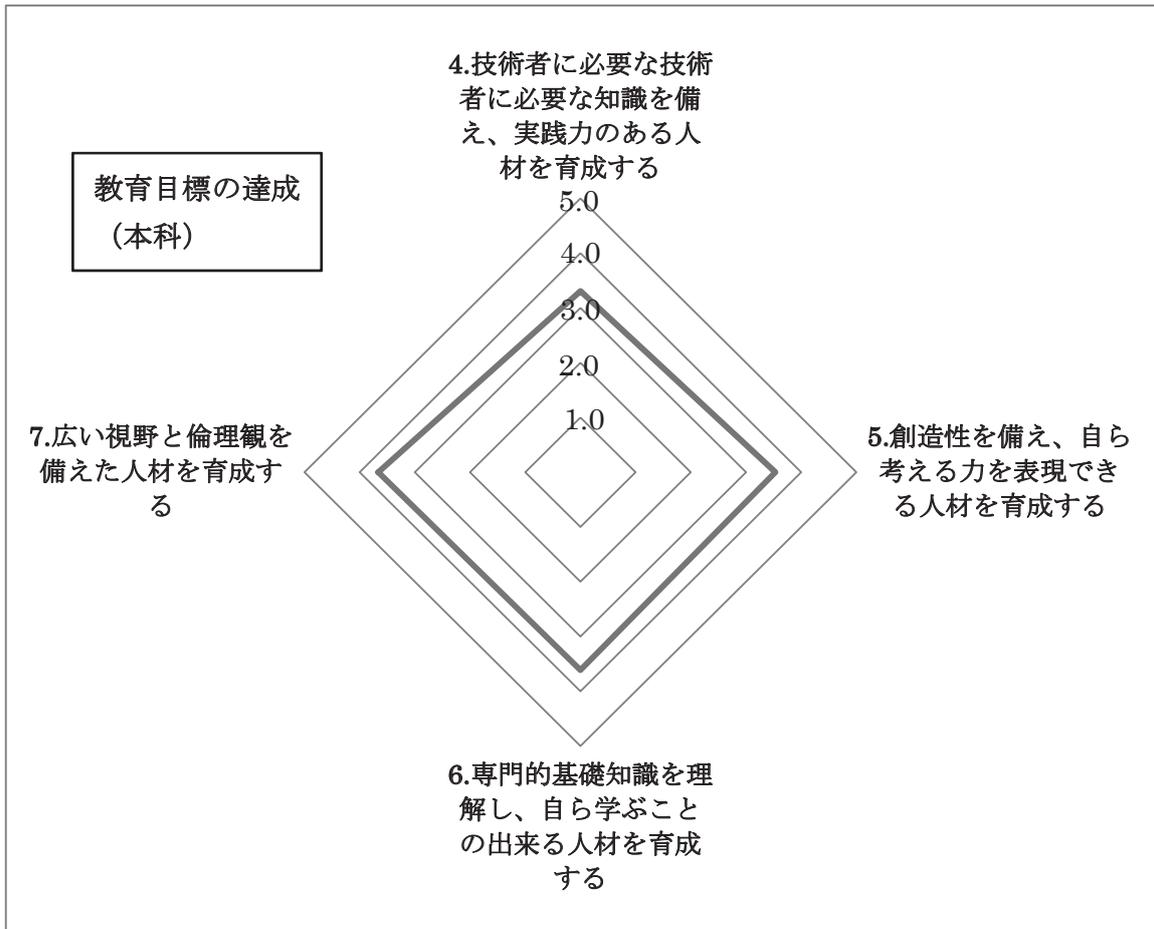
※同一企業に複数名の学生が内定(内々定含む)した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

◇卒業生・修了生アンケートの実施

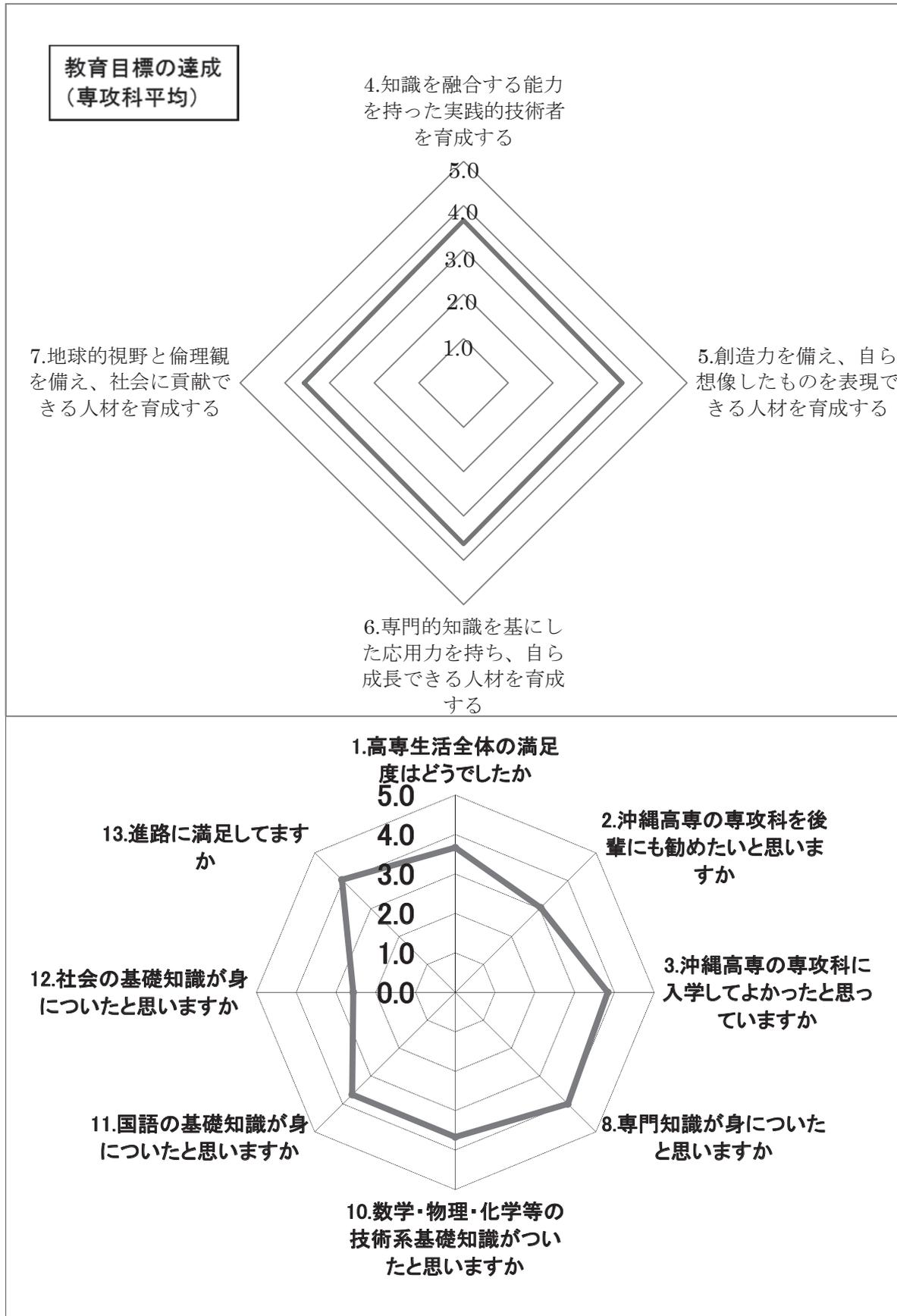
卒業生・修了生へ本科5年間、専攻科2年間で振り返り沖縄高専での生活全般をどのように感じており、どのような点を改善して欲しいのかなどを満足度として調査し、学生一人一人の意見から今後の沖縄高専における教育・研究活動及び管理運営に反映させていくことを目的に実施している。

(1) 本科アンケート結果





(2) 専攻科アンケート結果



3. 自己評価

本科及び専攻科の就職希望者の就職率は、ほぼ100%を保っており、就職先は各学科の専門分野に沿っている。また、進学希望者は関連分野の進学希望校へ進学している。就職や進学の状況から判断して、教育の成果や効果が十分上がっていると判断できる。

卒業生や進路先などの関係者から、卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組みを始めており、アンケート調査結果を元に学生が身につけた学力資質・能力がどう評価されているかを把握し、今後の教育に活かす仕組みを構築する必要がある。

卒業時に行った学生アンケートの結果では、本科、専攻科ともにそれぞれの教育目標達成度は5段階評価の3.5程度あるので、養成すべき人材像、卒業（修了）時に身につけるべき学力及び能力等は概ね達成していると考えられる。

VII 学生支援等

Ⅶ 学生支援等

◇図書等整備状況

1. 現状

本校の図書館は、教育・研究を支援する拠点の一つとして機能している。館内には情報学、工学、自然科学等の専門書を中心として、学術雑誌、文庫本、DVD、CD-ROMなどの視聴覚資料、全国の高等専門学校関連資料などを所蔵し、視聴覚ソフトについては館内のAVブースやメディアホールの大型スクリーンで視聴することができる。開架閲覧室は、740㎡(108席)あり、広いスペースで図書の閲覧や学習ができるようになっている。

また、教育研究支援はもとより、図書館を利用した多読講座、オープンキャンパス、高専祭における図書館開放、地域住民へ図書館利用許可書を発行し、地域開放も行っており、土曜日も開館されているため、学外者にも利便性ある。

蔵書数は、約6万8千冊あり、図書館利用に関する情報は、「学生生活の手引き」に書かれており、貸出冊数は一般図書5冊以内、多読図書5冊以内、貸出期間は1週間となっている。

貸出冊数推移

| | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 本科生 | 34,632 | 29,537 | 34,973 | 33,410 | 27,048 |
| 専攻科生 | 4,114 | 4,319 | 3,321 | 3,336 | 3,324 |
| 教員(非常勤講師含む) | 1,593 | 1,293 | 1,490 | 1,492 | 2,065 |
| 技術職員 | 180 | 132 | 163 | 265 | 236 |
| 事務職員(非常勤職員含む) | 981 | 974 | 564 | 925 | 1,078 |
| 学外者 | 836 | 1,612 | 1,916 | 2,292 | 1,822 |
| 総計 | 42,336 | 37,867 | 42,427 | 41,720 | 35,573 |

入館者数推移

| | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 本科生 | 71,002 | 62,014 | 62,533 | 65,130 | 63,653 |
| 専攻科生 | 4,722 | 5,052 | 4,847 | 4,368 | 4,691 |
| 教員(非常勤講師含む) | 2,496 | 2,208 | 1,999 | 2,051 | 2,142 |
| 技術職員 | 524 | 2,355 | 1,483 | 1,112 | 234 |
| 事務職員(非常勤職員含む) | 11,178 | 10,981 | 10,523 | 10,608 | 10,300 |
| 学外者 | 1,552 | 1,901 | 2,513 | 2,518 | 1,997 |
| 総計 | 91,474 | 84,511 | 83,898 | 85,787 | 83,017 |

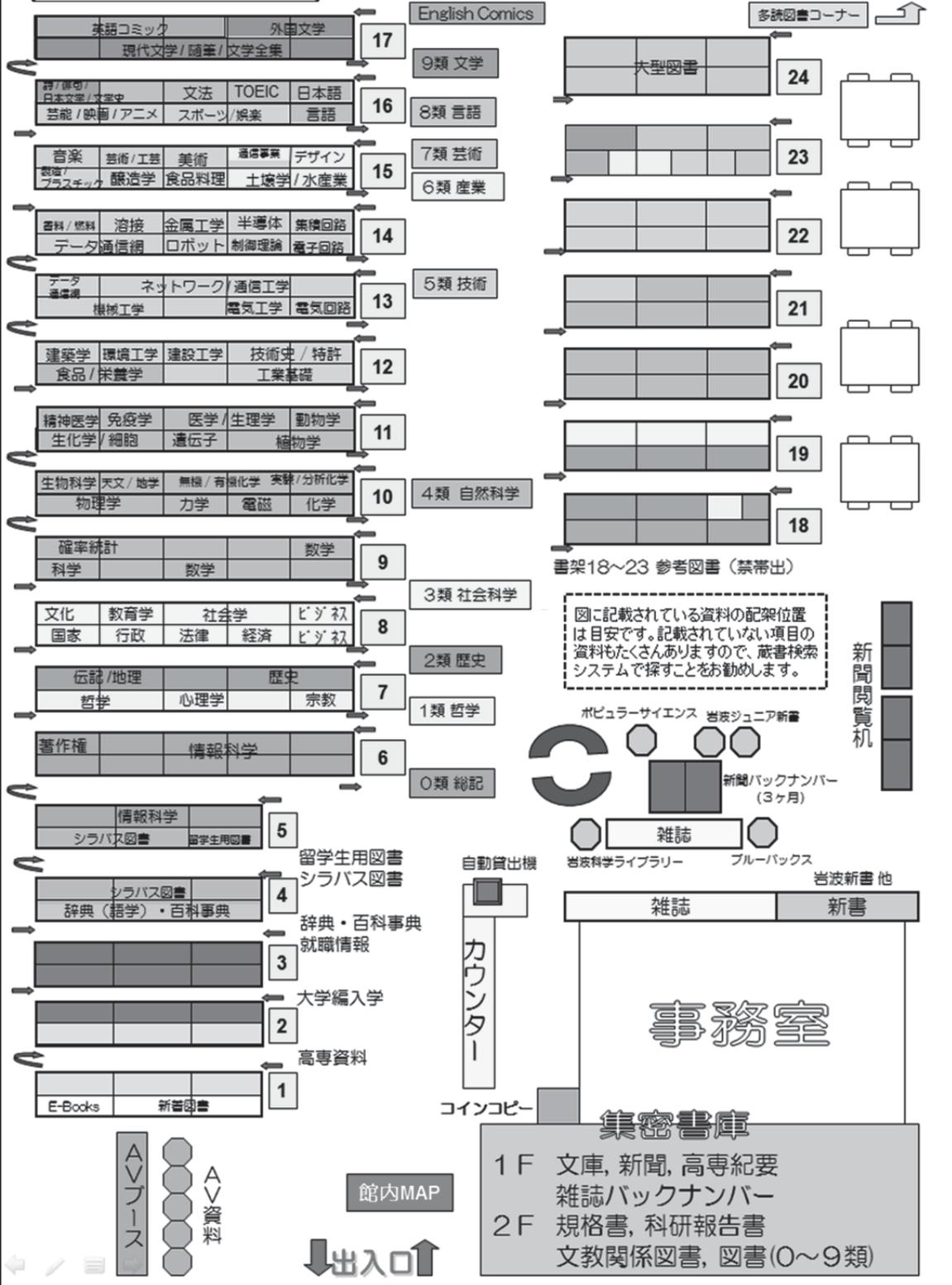
施設概要

延面積：740 m²
座席数：108席

蔵書数（平成27年4月現在）

| | |
|-------|-------------------|
| 図書 | 約6万8千冊（うち外国書約2万冊） |
| 雑誌 | 約620種（継続購入86種） |
| 新聞 | 7紙 |
| 視聴覚資料 | 約1677点 |

館内資料配置図



2. 取組

(1) 図書館開放

オープンキャンパス（6月27日）、高専祭（11月7日、8日）に図書館を一般開放した。特別展示や図書館クイズ、利用者証の発行サービス等を実施し、計666名の来館者があった。



(2) 「洋書から始める英語多聴とシャドーウィング」講座を開催

オープンキャンパス開催日（6月27日）に本校図書館において、「洋書から始める英語多聴とシャドーウィング」講座を総合科学科英語担当の先生方の指導のもと開催した。中学生から60歳代まで幅広い年代の方が参加し好評を得た。



(3) ブックハンティングを実施

学生図書委員20名によるブックハンティング(11月9日)を、ジュンク堂書店(那覇市)にて実施した。クラスで希望があった本の他、書店に並んでいる本から興味のあるものをじっくりと選び、小説から専門書まで幅広いジャンルの本を購入した。



(4) 図書館企画を実施

図書館では、学生の学習や学校生活に役立つよう2ヵ月に1度のペースで様々な図書館企画(本屋大賞、映画化された本の特集等)を行った。

また、学内で「Library News」を配信し、新着図書の案内やお薦め図書、イベントの通知を行った。



3. 自己評価

本校の図書館には、図書・学術雑誌・視聴覚資料などが系統的に整備されており、電子ジャーナルも利用することができる。電子ジャーナルについては、随時図書館で利用方法等を説明し、論文の検索などに役立っている。また、図書館企画、ブックハンティングなど学生希望図書を導入する制度があり、学生の希望を反映した図書の整備が行われている。

オープンキャンパス、高専祭における図書館開放、地域住民へ図書館利用許可書を発行及び土曜日開館等、利便性ある図書館運営となっている。

◇ 学生の課外活動支援体制

1. 現状

クラブ活動等の課外活動に対する支援としては、教員による人的支援、活動場所及び後援会による資金面での支援等、支援体制を整えている。

教員による人的支援としては、クラブ顧問を担当する教員が配置され支援体制が整備されている。資金面における支援としては、後援会による補助の体制が整備されている。

各団体の顧問は、原則として全教員で対応することとなっており、学生主事名で希望調査を行い、各団体の活動実績等を考慮して1名～4名の教員を配置している。顧問の掛け持ちについては、できるだけ避けるようにしているが、教員数に比べて団体数が多いため、数名の教員が兼任を行っている。顧問の主な業務としては、担当する部又は同好会の部員及び活動を把握することや年間を通しての大会や練習試合などのスケジュールの把握、大会及び練習試合の引率や合宿などの活動の指導を行うこと等があり、部活動、サークル活動等の支援に当たっている。また、外部コーチを委嘱して技術指導を行い、競技力の向上に努めるとともに教員の業務負担軽減を行っている。

団体数

| | 体育部会 | | 文化部会 | | 委員会等 |
|----------|------|-----|------|-----|------|
| | 部 | 同好会 | 部 | 同好会 | |
| 平成 25 年度 | 15 | 2 | 4 | 6 | 6 |
| 平成 26 年度 | 13 | 3 | 4 | 4 | 6 |
| 平成 27 年度 | 12 | 3 | 4 | 5 | 6 |

団体名

| 団体名（体育部会） | 顧問数 | 団体名（文化部会等） | 顧問数 |
|-----------|-----|------------|-----|
| ハンドボール部 | 4 | デジタルアート部 | 1 |
| 弓道部 | 2 | 総合美術部 | 1 |
| 水泳部 | 3 | 軽音楽部 | 2 |
| バレー部 | 2 | 楽器部 | 2 |
| テニス部 | 5 | 文芸同好会 | 1 |
| 男子バスケ部 | 2 | 映画研究同好会 | 1 |
| 女子バスケ部 | 2 | LEGO 同好会 | 2 |
| サッカー部 | 3 | ジャグリング同好会 | 1 |
| 硬式野球部 | 4 | 舞台表現同好会 | 1 |
| 卓球部 | 2 | 国際交流委員会 | 1 |
| バドミントン部 | 4 | 生物資源利用研究会 | 1 |
| ダンス部 | 2 | ロボット製作委員会 | 4 |
| 陸上同好会 | 1 | ICT 委員会 | 2 |
| 剣道同好会 | 2 | エイサー委員会 | 1 |
| フットサル同好会 | 1 | イベント運営委員会 | 1 |

外部コーチ委嘱数

| | 委嘱人数(うち専攻科生) | 謝金総額 |
|----------|--------------|-----------------|
| 平成 25 年度 | 20 (6) | 2,140,180 (支払額) |
| 平成 26 年度 | 19 (7) | 1,415,080 (支払額) |
| 平成 27 年度 | 20 (6) | 1,415,000 (予算額) |

| 平成 27 年度課外活動旅費補助【後援会】 | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------|-----------|---------------|
| | | | | 平成27年11月10日現在 |
| 団体名 | 大会・コンテスト | 学生旅費補助 | 教員旅費 | 総額 |
| バドミントン部 | 九州沖縄地区高専体育大会 | 182,292 | 238,420 | 420,712 |
| ハンドボール部 | 九州沖縄地区高専体育大会 | 408,453 | 126,362 | 534,815 |
| 水泳部 | 九州沖縄地区高専体育大会 | 151,136 | 62,566 | 213,702 |
| | 全国高専体育大会 | 18,132 | 69,220 | 87,352 |
| 女子バスケットボール部 | 九州沖縄地区高専体育大会 | 227,644 | 211,438 | 439,082 |
| 硬式野球部 | 九州沖縄地区高専体育大会 | 286,875 | 140,570 | 427,445 |
| テニス部 | 九州沖縄地区高専体育大会 | 195,794 | 124,176 | 319,970 |
| | 全国高専体育大会 | 75,387 | 80,700 | 156,087 |
| 弓道部 | 九州沖縄地区高専体育大会 | 199,584 | 104,300 | 303,884 |
| | 全国高専体育大会 | 35,052 | 68,660 | 103,712 |
| 卓球部 | 九州沖縄地区高専体育大会 | 85,524 | 91,930 | 177,454 |
| I C T委員会 | プログラミングコンテスト | 150,115 | 79,446 | 229,561 |
| ロボット製作委員会 | 高専ロボットコンテスト (地区大会) | 225,155 | 106,924 | 332,079 |
| 計 | | 2,241,143 | 1,504,712 | 3,745,855 |
| | | | | |

| 項目 | 金額 |
|--------------|---------|
| 沖縄高専OB会寄付金 | 21,000 |
| 沖縄高専教職員寄付金 | 72,000 |
| 名護市役所県外派遣補助金 | 112,500 |
| 合計 | 205,500 |

2. 取組

九州沖縄地区高等専門学校体育大会へは毎年8競技前後の団体が出場しており、女子バスケットボール部は平成23年度から4年連続、通算7回の優勝、全国大会においても平成24年度から平成26年度まで第三位となっており、平成27年度は地区大会準優勝の実績を残している。また、テニス部が平成27年度地区大会で男子団体3位、男子ダブルス優勝・準優勝したほか、女子シングルスで準優勝。水泳部女子が個人背泳ぎで2位、団体200mリレーで2位、弓道部女子が団体3位となり、全国大会出場を果たした。

プログラミングコンテストにおいては、平成27年度は競技部門で特別賞を受賞したほか、自由部門等でも優秀な成績をあげた。また、全国高等学校パソコン甲子園においては、

平成26年度にモバイル部門でグランプリ、ベストアイデア賞（準グランプリ）を受賞、平成27年度も同部門でベストアイデア賞（準グランプリ）を受賞したほか、プログラミング部門でも審査委員特別賞を受賞した。その他、「伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」大賞を含む入賞3名、「理工系学生科学技術論文コンクール」優秀賞を含む入賞2名、名護市男女共同参画月間標語」最優秀賞及び「ぶびりお大賞」（琉球大学主催）佳作2名、「第55回沖縄県生徒科学賞作品展」読売科学作品賞受賞、「サイエンスキャッスル2015東北大会」サイエンスキャッスル審査員特別賞受賞、「2015うちな〜ICTビジネスプラン発表会」（沖縄情報通信懇談会会長賞、NICT賞、ICTビジネス研究会キャンパス賞、IIA会長賞）受賞、「第19回やんばる圏高校生英語スピーチコンテスト」金賞受賞、及び「IEEE第7回エッセイコンテスト」（「WIE」と「UNDERGRUDATE」の両部門）優秀賞受賞等、優秀な成績をあげた。

第50回全国高等専門学校体育大会については、「高専のアスリートたちよ、南の大地で熱くなれ！」をスローガンに、沖縄高専が担当校として九州沖縄地区の各高専で開催した。卓球競技については、平成27年8月22日、23日に那覇市民体育館において実施した。



第50回全国高等専門学校体育大会
競技種目・競技日程・開催校・競技会場一覧表

担当校:沖縄工業高等専門学校

| 競技種目 | 競技日程 | 開催校 | 競技会場 |
|------------|--|-----------------------|-------------------------------------|
| 陸上競技 | 平成27年 8月29日(土)～30日(日) 予備日:8月31日(月) | 北九州工業高等専門学校 | 東平尾公園博多の森陸上競技場 |
| バスケットボール | 男子 平成27年 8月14日(金)～16日(日) | 鹿児島工業高等専門学校 | 鹿児島アリーナ |
| | 女子 平成27年 8月14日(金)～16日(日) | 鹿児島工業高等専門学校 | 鹿児島アリーナ |
| バレーボール | 男子 平成27年 8月22日(土)～23日(日) 但し、開会式は8月21(金)に行う。 | 有明工業高等専門学校 | カルチャースポーツセンター山鹿市総合体育館 |
| | 女子 平成27年 8月22日(土)～23日(日) 但し、開会式は8月21(金)に行う。 | 有明工業高等専門学校 | カルチャースポーツセンター山鹿市総合体育館 |
| ソフトテニス | 平成27年 8月26日(水)～27日(木) | 都城工業高等専門学校 | 〈晴天時〉都城運動公園庭球場 〈雨天時〉綾てるはドーム |
| 卓球 | 平成27年 8月22日(土)～23日(日) 但し、開会式は8月21(金)に行う。 | 沖縄工業高等専門学校 | 那覇市民体育館 |
| 柔道 | 平成27年 8月22日(土)～23日(日) | 都城工業高等専門学校 | 宮崎県総合運動公園武道館 (KIRISHIMAツワブキ武道館) |
| 剣道 | 平成27年 8月22日(土)～23日(日) | 熊本高等専門学校 (熊本キャンパス) | 合志市総合センター ヴィーブル総合体育館 |
| 硬式野球 | 平成27年 8月25日(火)～27日(木) | 久留米工業高等専門学校 | A会場:久留米市野球場 B会場:小郡市野球場 |
| サッカー | 平成27年 8月26日(水)～30日(日) 但し、開会式は8月25(火)に行う。 | 大分工業高等専門学校 | 大分スポーツ公園サッカー・ラグビー場他 |
| ラグビーフットボール | 平成28年 1月4、5、7、9日(4日間) | 神戸市立工業高等専門学校 | 神戸総合運動公園ユニバー記念競技場 |
| ハンドボール | 平成27年 8月20日(木)～21日(金) 但し、開会式は8月19(水)に行う。 | 熊本高等専門学校 (八代キャンパス) | A会場:八代市総合体育館 B会場:宇城市松橋総合体育文化センター |
| テニス | 平成27年 8月19日(水)～21日(金) | 熊本高等専門学校 (八代キャンパス) | 熊本県民総合運動公園パークドーム熊本 |
| バドミントン | 平成27年 8月22日(土)～23日(日) | 佐世保工業高等専門学校 | 佐世保市体育文化館 |
| 水泳 | 平成27年 8月30日(日) | 鹿児島工業高等専門学校 | 鹿児島市鴨池公園水泳プール |



水泳部全国高専大会様子



パソコン甲子園ベストアイデア賞受賞



第55回沖縄県生徒科学賞作品展
読売科学作品賞受賞



サイエンスキャッスル2015東北大会
サイエンスキャッスル審査員特別賞受賞



2015 うちな〜ICT ビジネスプラン発表会
沖縄情報通信懇談会会長賞、NICT 賞



2015 うちな〜ICT ビジネスプラン発表会
ICT ビジネス研究会キャンパス賞



2015 うちな～ICT ビジネスプラン発表会
IIA 会長賞



第 19 回やんばる圏高校生英語
スピーチコンテスト金賞受賞



IEEE 第 7 回エッセイコンテスト) (「WIE」と「UNDERGRUDATE」の両部門)
優秀賞受賞

3. 自己評価

学生の部活動、サークル活動等の支援については、実技・競技指導、施設等それぞれの団体の成績が良いことから成果が上がっているものとする。また、高専体育大会や各コンテストに参加することにより、全国高専生との交流が図られた。しかしながら、県外の大会への参加には旅費の負担が多く、後援会等から安定した補助財源の確保を行っていく必要がある。

○ 国際交流支援体制

1. 現状

沖縄高専の教育・研究の国際化と学生・教職員の国際交流を推進する目的でグローバル交流推進センターを設置している。

グローバル交流推進センターでは、外国の大学等からの教職員及び学生等の受入れ、専門知識を深め、研究能力の向上に資する機会を提供する。外国の大学等への教職員及び学生等の国際コミュニケーション能力、異文化理解の促進等に役立てることを目的とする派遣支援を行っている。

沖縄工業高等専門学校グローバル交流推進センター規則(抜粋)

(設置)

第1条 この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号）第11条の3第2項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校グローバル交流推進センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）における学術交流の推進を図るため、外国の大学等からの教職員及び学生等の受入れ、外国の大学等への教職員及び学生等の派遣支援を目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 外国の大学等からの教職員及び学生等の受け入れに関する事。
- (2) 外国の大学等への教職員及び学生等の派遣に関する事。
- (3) 外国の大学等からの訪問に関する事。
- (4) 外国の大学等への訪問に関する事。
- (5) 留学生に関する事
- (6) その他国際交流に関する事。

2. 取組

◇ 9 高専連携事業(沖縄高専含む)とハノイ大学間で MOU の締結

INTERNATIONAL STUDENT EXCHANGE AGREEMENT
between
HANOI UNIVERSITY
and
NINE COLLEGES OF NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY
in KYUSHU-OKINAWA REGION, JAPAN
Kurume College, Ariake College, Kitakyushu College,
Sasebo College, Kumamoto College, Oita College,
Miyakonojo College, Kagoshima College, Okinawa College
 June, 2015

丁子 哲治

Dr. Tetsuji Chohji
President
National Institute of Technology,
Kagoshima College



Dr. Yasunori Ando
President
National Institute of Technology,
Okinawa College

◇ 短期留学・海外交流プログラム受入

平成27年度 短期留学・海外交流プログラム受入状況

| 事業 | 期間 | 派遣校 | 氏名 | 受入学科 | 受入人数 | 指導教員 |
|----------|------------|--|--|---------------|------|-------------|
| 短期留学 | 3/4~6/1 | King Mongkut's University of Technology North Bangkok (KMUTNB) | Todsaporn CHUAYDAMRONG (トッサポーン チュワイダムロン) | メディア情報システム工学科 | 1 | タスリヤホン スリョン |
| | 5/25~8/19 | Pathumwan Institute of Technology | Pornsinee YOUNAK (ポーンシニー ユーナック) | メディア情報システム工学科 | 1 | タスリヤホン スリョン |
| | 10/27~2/20 | 中州科技大 | 張 友謙 | 生物資源工学科 | 1 | 田中 博 |
| さくらサイエンス | 7/8~7/17 | 国立台北科学技術大学(NTUT) | Chih-Chi Huang | 情報通信システム工学科他 | 7 | 金城 伊智子 |

◇短期留学・海外交流プログラム派遣

平成27年度 短期留学・海外交流プログラム派遣状況

| 事業 | プログラム | 期間 | 場 所 | 学 科 | 人数 | 備考 |
|----------------------|---|--------------|---|-------------|----|-----|
| 9高専連携 | 台北科技大サマープログラム | 8/16～8/30 | 台北科技大 | 機械システム工学科 | 2 | |
| | | | | 情報通信システム工学科 | 3 | |
| | | | | メディア情報工学科 | 1 | |
| | | | | 生物資源工学科 | 4 | |
| | タイ・バンコクにおける学生交流Ⅱ | 8/30～9/12 | タイ・キングモンクット工科大学 北バンコク | 機械システム工学科 | 1 | |
| | | | | 情報通信システム工学科 | 2 | |
| | | | | 生物資源工学科 | 1 | |
| | | | | 電子通信コース | 1 | |
| | シンガポールにおけるグローバルエンジニア育成プログラム | 9/20～9/29 | テマセクポリテクニク(シンガポール) Temasek Polytechnic, Singapore | メディア情報工学科 | 1 | |
| | タイ・カセサートインターンシップ | 8/17～9/11 | Kasetsart University カセサート大学 | 生物資源工学コース | 1 | |
| | | | | 機械システム工学科 | 1 | |
| | タイ・ROHMインターンシップ | 8/17～9/11 | ROHM Integrated Systems (Thailand) Co.,Ltd. (タイ国) ※ ローム株式会社(電子部品メーカー)のタイ国内 | 情報通信システム工学科 | 1 | |
| ハノイ大学(ベトナム)英語での研究発表会 | 12/8～12/12 | ハノイ大学(ベトナム) | 電子通信システムコース | 3 | | |
| | | | 生物資源工学コース | 1 | | |
| 台北科技大学におけるスプリングプログラム | 3月予定 | 台北科技大学(台湾) | 募集中 | 約20名 | | |
| ISTS | ISTS2015校長推薦 | 8/2～8/12 | シンガポール | 電子通信システムコース | 1 | |
| トビタテ | トビタテ第2期 | 8/21～10/21 | シンガポール | 生物資源工学コース | 1 | |
| 沖縄県 | 国際性に富む人材育成留学事業 | 未確定 | 申請中(派遣先未確定) | メディア情報工学科 | 1 | 申請中 |
| | グローバルリーダー育成海外短期研修事業「沖縄県高校生海外雄飛プログラム」(ハワイ)(25人枠) | H28.2/20～3/6 | 米国ハワイ州 | 機械システム工学科 | 1 | 申請中 |
| | | | | 生物資源工学科 | 1 | 申請中 |
| | グローバルリーダー育成海外短期研修事業「海外サイエンス体験短期留学」(オーストラリア)(25人枠) | H28.3/5～3/16 | オーストラリア・ビクトリア州メルボルン郊外 | 機械システム工学科 | 1 | 申請中 |
| | | | | 情報通信システム工学科 | 1 | 申請中 |
| | | | | メディア情報工学科 | 2 | 申請中 |
| | | | | 生物資源工学科 | 1 | 申請中 |

3. 自己評価

短期留学生等受入、派遣研修等効果として、英語による日常会話、研究・教育等、語学力の向上。また外国の地を経験することの国際感覚の向上等、グローバル人材育成事業として、適切に機能している。

VIII 施設・整備

VIII 施設・整備

1. 現状

本校の施設・設備は、教育内容を達成するため総面積156.056 m²の敷地に創造・実践棟、メディア棟、体育館、学生寮などの建物に各教室、演習及び実験室、図書館、IT教室、CALL教室、事務部、視聴覚ホール、レストラン、アリーナ、格技場、トレーニング場、伝統芸能場、プール、陸上競技場、多目的グラウンド（野球場）、テニスコートの施設を備えている。また本校の特徴となる教育施設として、夢工場や教育実践棟などがある。

| 土地 Land | | | | | |
|------------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|
| 総面積 Total Land Area | 使用区分 Classification | | | | |
| | 校舎等 Total Land Area | 屋外運動場 Athletic Fields | 学生寮 Dormitory | その他 Others | 計 Total |
| 156.056 m ² | 49.100 m ² | 36.100 m ² | 11.600 m ² | 59.256 m ² | 156.056 m ² |

| 建物 Buildings | | | | |
|-------------------------------|---|-----------------|-----------------------|--|
| 区分 Classification | 名称 Name | 構造 Structure | 延面積 Total Area | |
| 校舎等施設 College Buildings | 創造・実践棟 Invention & production Bldg | R4 | 12.795 m ² | |
| | メディア棟 Media Bldg | R4 | 5.023 m ² | |
| | 夢工場 Dream Factory | S2 | 665 m ² | |
| | 教育・実験棟 Education & Research Center for Subtropical Resources | S1 | 498 m ² | |
| 体育施設 Athletic Facilities | 体育館 Gymnasium | R2 | 2.707 m ² | |
| | アスレチックハウス Athletic House | R2 | 256 m ² | |
| 学生寮施設 Dormitory Facilities | 学生寮 Dormitory | R9 | 10.457 m ² | |
| 合計 Total | | | 32.401 m ² | |

入寮者数 Present Number

平成 27 年 5 月 1 日現在 As of May 1, 2015

| | | 機械システム工学科 Mechanical Systems Engineering | 情報通信システム工学科 Information and Communication Systems Engineering | メディア情報工学科 Media Information Engineering | 生物資源工学科 Bioresources Engineering | 合計 Total | |
|------------------------|----------------------------------|---|---|--|-------------------------------------|--------------|--------------|
| 本科 Department | 1年 1st | 45 (1) | 43 (4) | 41 (11) | 40 (16) | 169 (32) | 548 (138) |
| | 2年 2nd | 42 (0) | 41 (7) | 43 (11) | 43 (25) | 169 (43) | |
| | 3年 3rd | 27 (4) | 30 (5) | 28 (15) | 27 (11) | 112 (35) | |
| | 4年 4th | 14 (0) | 9 (2) | 20 (7) | 15 (10) | 58 (19) | |
| | 5年 5th | 10 (0) | 6 (0) | 14 (5) | 10 (5) | 40 (10) | |
| 専攻科 Advanced Course | 専攻科 1年 Advanced Course 1st | 4 (3) | | | | 5 (3) | |
| | 専攻科 2年 Advanced Course 2nd | 1 (0) | | | | | |
| | | | | | | 553 (141) | |

※ () はうち女子寮生

教育・実験棟



体育施設



2. 取組

◇平成27年度改修事項

- ①体育館（アリーナ・格技場）の吊り天井の撤去、照明器具の撤去・再取付及び新設を行った。
- ②屋内運動場（伝統芸能道場）屋上防水改修工事を行った。
- ③エレベータ（3機）のロープ老朽化のため更新を行った。
- ④講義室収納式床コンセント（12箇所）の取替を行った。

3. 自己評価

自己財源にて一部の施設修繕等を行っているが、執行に当たっては、事務方の裁量に負っている部分が大きいため、組織的に整備計画や整備方針等の施設マネジメントを検討する必要があると考えられる。その整備計画に基づき産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修施設・設備の老朽化状況等に対応した整備を推進する。

IX 教育の質の向上及び 改善のためのシステム

IX 教育の質の向上及び改善のためシステム

1. 現状

◇教員評価

沖縄工業高等専門学校教員評価実施要項に基づき各教員を評価し、教育の質の向上、改善等組織としてシステムを整備している。

教員評価実施要項（抜粋）

1. 教員評価については、以下の評価資料に基づき実施する。
 - (1) I.教員の教育業績等評価（沖縄高専版）
 - (2) II.教員の研究業績評価

2. 前掲の資料に基づいて実施する教員評価は下記の事項に利用する
 - (1) 総合評価
 - (2) 教員顕彰
 - (3) 教育研究経費配分
 - (4) 昇任判定（教授，准教授，講師への昇任）
 - (5) 運営管理貢献度評価
 - (6) 課外活動貢献度評価
 - (7) その他校長が必要に応じて実施する事項

◇授業改善アンケート

本科、専攻科の学生へ受講している授業（座学用、実技用、実験・実習用、専攻科用）改善アンケートを実施し、そのアンケートの結果について各教員が授業実施報告書を作成し学生及び教職員が閲覧できる共有フォルダ(leo.okinawa-ct.ac.jp)に公開することとし、今後の授業の取組検討材料としている。

授業改善アンケート・授業実施報告書実施要領

- ・沖縄高専教育支援システム (<http://10.1.1.32:8921/wagby>) を利用する。
- ・アンケート実施授業科目について半期科目は前期と後期にそれぞれ実施し、通年科目は後期に実施する。ただし、通年科目についても半期ごとにアンケートを実施する。・アンケート実施科目は、学生の負担軽減のため原則1人1科目とする。ただし、共通科目は1科目4クラスで実施し、専攻科の授業は全科目（実験及び特別研究を除く）について追加実施する。
- ・教員の希望によっては、複数科目のアンケート実施も可とする。
- ・委員会委員は、各学科にて前期及び後期のアンケート希望科目の確認を行い、総務係へ報告する。
- ・アンケート実施は、前期は7～8月、後期は12月とする。

- ・各教員は、システムによるアンケート統計結果を用いて、各授業科目の授業実施報告書を作成し、総務係へ提出する。
- ・授業実施報告書は、学生及び教職員が閲覧できる共有フォルダ (leo.okinawa-ct.ac.jp) に公開する。

| 沖繩工業高等専門学校 授業実施報告書 | | | | 提出年月日: 平成 年 月 日 | | | |
|---|--------|------------------------|-----------|------------------------|----------|-------------------|--------|
| 授業実施期間: 平成 年 月～平成 年 月 | | 授業名: | | 教員名: | | | |
| 授業の目標 | | | | | | | |
| 授業実施の経過 | | | | | | | |
| 授業改善アンケートの結果 | | | | 受講学生数 総回答数: 0 人 | | 受講者回答率: #DIV/0! % | |
| 授業の理解度 | | 予習・復習、課題提出はできたか | | 授業は定時か | | | |
| | 回答数(人) | 回答分布率(%) | | 回答数(人) | 回答分布率(%) | | 回答数(人) |
| 90%以上 | | | すべてできた | | | 90%以上 | |
| 90%から80% | | | ほとんどできた | | | 90%から80% | |
| 80%から70% | | | 時々できていない | | | 80%から70% | |
| 70%から60% | | | あまりできていない | | | 70%から60% | |
| 60%未満 | | | 全くできていない | | | 60%未満 | |
| 質問に対応してくれたか | | 説明は理解しやすかったか | | 授業のレベルはどうでしたか | | | |
| | 回答数(人) | 回答分布率(%) | | 回答数(人) | 回答分布率(%) | | 回答数(人) |
| とてもそう思う | | | 理解しやすい | | | 高すぎる | |
| そう思う | | | まあ理解しやすい | | | 少し高い | |
| どちらでもない | | | 普通 | | | ちょうど良い | |
| あまりそう思わない | | | やや理解しにくい | | | 少し低い | |
| 全くそう思わない | | | 理解しにくい | | | 低すぎる | |
| 授業の進み具合はどうでしたか | | 授業内容の豊富さ | | 教育目標をどの程度達成できたか | | | |
| | 回答数(人) | 回答分布率(%) | | 回答数(人) | 回答分布率(%) | | 回答数(人) |
| 早すぎる | | | 多すぎる | | | 90%から100% | |
| 少し速い | | | やや多い | | | 80%から89% | |
| ちょうど良い | | | ちょうど良い | | | 70%から79% | |
| 少し遅い | | | やや少ない | | | 60%から69% | |
| 遅すぎる | | | 少なすぎる | | | 59%以下 | |
| 授業でよかった点 (学生コメント) | | | | | | | |
| 授業で改善してほしい点 (学生コメント) | | | | | | | |
| 成績分布データ 前期得点の最高点は 点、最低点は 点、平均は 点であった。分布は以下の通りである。 S: 人 A: 人 B: 人 C: 人 F: 人 | | | | | | | |
| 分析 | | | | | | | |
| 学生へのフィードバック内容 | | | | | | | |
| 次年度についての展望 | | | | | | | |

2. 取組

◇アクティブラーニングの導入

本校ではアクティブラーニング形式による授業力強化に取り組んでいる。

本年度は、数学の科目でアクティブラーニング特別研究授業を実施した。すでにアクティブラーニング形式の授業を実践されている他高専の教員を講師として、その実際の授業の様子（授業中能動的に学ぶ学生の動きやそうさせる為の指示、授業後の学生フォロー等）を本校の教員が研究するという授業を行った。また、沖縄高専のFD活動推進の一環として、全職員を対象にアクティブラーニングに関するファシリテーション研修を実施した。

◇教員相互評価アンケートの実施

他の教員の授業を参観し7つの項目（①信頼性の確立②言語・非言語の活用③教授法の適切な運用と教材・メディアの活用④学生の参加を促す環境作り⑤質問の活用⑥学習意欲の向上⑦達成度評価）を評価し、その結果は、各教員へフィードバックされ、今後の講義の進め方等（授業力アップ）の改善に繋げている。

平成27年度 教員相互評価用アンケート

| 授業力強化の為に、以下の教員相互評価アンケートを御記入ください。 | | | | | | | | |
|----------------------------------|----------------------|---|-------------------|-----------|------------------------|-------------------|---|---|
| 日時： | | 月 | 日 | 時限目（ | 時 | 分～ | | |
| 科目名： | | 担当教員名： | | | | | | |
| 授業コンピテンスの評価 | | | | | | | | |
| コンピテンスとその評価ポイント | | | 四段階評価 | | | | | |
| | | | 大変よ くあて はまる | あては まる | あまり あては まらな い | 全くあ てはま らない | | |
| 1 | 信頼性の確立 | 教員として望ましい姿（髪型・服装）・表情（笑顔）・言動を保っている。 | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 | 言語・非言語の活用 | 声の大きさ・強弱・スピードの工夫ある、アイコンタクトをとっている。ジェスチャーを効果的に使用している。 | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 | 教授法の適切な運用と教材・メディアの活用 | 黒板・カード・写真・動画・実験など複数のメディアをスムーズにつなげ、効果的に使用している。 | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 | 学生の参加を促す環境作り | 一方向型の授業に終始せず、ディスカッションやグループワーキングなどの参加型アクティビティ（アクティブラーニング）も効果的に活用し、全ての学生を授業に参加させようと努めている。 | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 | 質問の活用 | 質問を活用し、学生の理解度を把握したり、学生の思考を刺激し参加意欲を促している。回答へのアクティブリスニング・励ましを効果的に行っている。 | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 | 学習意欲の向上 | 学生の背景と学習の目的を関連づけながら、授業の達成目標を明確に伝えている。また授業中は、達成目標を常に意識させながら学生の参加を促している。 | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 | 達成度評価 | 学んだ成果を体感するアクティビティ（全体へのクイズなど）の導入と、学生の学習進捗をその場で把握しようと努めている。 | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| コメントの御記入をお願いします。 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

3. 自己評価

沖縄工業高等専門学校教員評価実施要項に基づき各教員を評価し、教育の質の向上、改善等組織としてシステムを整備している。

学生による授業改善アンケートを実施し、それを元に教員が自己点検・評価として授業実施報告書を作成している。それを基に実際に授業内容の改善を行っている。学生の意見の聴取が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価が適切に行われている。また、教員についても、教員相互評価アンケートを実施して、各教員の授業を評価し、授業力アップに役立てている。

以上のことから、評価結果を教育の質の向上、改善に結びつけられるようなシステムがあり、授業方法の改善及びカリキュラムの見直しに継続的な方策が講じられている。

X 外部資金受入状況

X 外部資金（科研費、共同研究、受託研究）受入状況

1. 現状

平成26年度に高専機構は研究推進・産学連携本部を立ち上げ、外部資金獲得活動の加速的推進をミッションとして捉え、獲得に向けた恒久的仕組みの構築を各高専に求めており、本校では、平成25年度に地域連携推進センターを設置し、高専教員、技術職員による企業（月2社）の技術相談に当たる定期技術相談会を開催している。

毎月実施の定期技術相談会、企業懇談会及び不定期の技術相談を起点とし、外部資金の獲得に繋げている。

沖縄工業高等専門学校地域連携推進センター規則（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号）第11条の3第2項の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校地域連携推進センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 センターは、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究の進展に寄与し、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、生涯学習、地域文化交流及び地域課題の解決支援に資することを目的とする。

（業務）

第3条 センターは、校長の命を受け、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 企業等との共同研究及び受託研究に関すること。
- (2) 企業等からの技術相談に関すること。
- (3) 企業等の技術者に対する技術教育及び研修に関すること。
- (4) 校内及び大学・研究機関等との共同研究及び連携に関すること。
- (5) 戦略的研究活動の推進に関すること。
- (6) 研究成果の公表に関すること。
- (7) 知的財産に関する教育活動及び啓発活動に関すること。
- (8) 職務発明等の知的財産の内容評価及び権利化の手続きに関すること。
- (9) 知的財産の管理・運用に関すること。
- (10) 講習会、セミナー、公開講座等の生涯学習講座の開設、社会人への教育開放事業の実施に関すること。
- (11) 小学校、中学校及び高等学校への出前授業、教材開発等の協力に関すること。
- (12) その他地域社会との連携・交流の推進に関すること。

2. 取組

◇外部資金受入状況（平成27年11月1日現在）

- ・共同研究、受託研究

本年度は特徴ある事業として、佐賀大学医学部及び民間企業と連携し、県の先端医療産業開発拠点形成事業を受託した。沖縄高専は、脂肪幹細胞の大量培養技術の開発、ヒトにも活用できる幹細胞を培養できる臨床培養士の育成を担う。

平成27年11月6日 沖縄タイムス 紙面

再生医療 産業化へ

沖縄高専 佐賀大や民間と連携



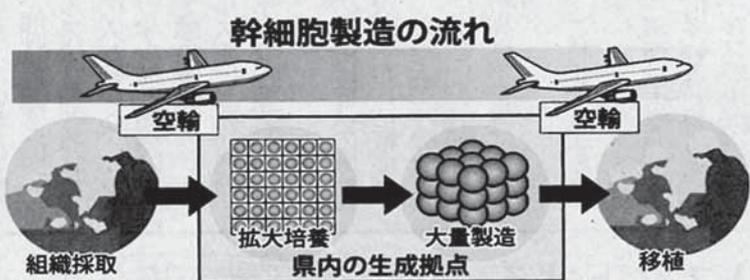
沖縄高専は佐賀大医学部や機械メーカーの**澁谷工業**（石川県）、幹細胞製造技術開発に取り組むベンチャー企業**のサイフユーズ**（東京）と連携し、幹細胞を使った臓器生成から県外への空輸システムまで一貫した再生医療の体制づくりに取り組んでいる。脂肪由来の幹細胞の製造技術をはじめ、臓器の生成装置開発や生成臓器の搬送技術などそれぞれの得意分野を生かし、沖縄を拠点とした再生医療の産業化を目指す。

沖縄高専は脂肪幹細胞の大量培養技術の開発、ヒトにも活用できる幹細胞を培養できる臨床培養士の育成を担う。

澁谷工業は幹細胞を使った臓器を生成する3Dプリンターを製造している。うるま市にある同社の沖縄先端加工センターで生成スピードの向上やヒトにも活用できる技術の研究・開発を手掛ける。沖縄高専卒業生の受け入れも検討する。佐賀大とサイフユーズは再生臓器の輸送技術開発などに取り組む。

沖縄を拠点にした再生医療の産業化を目指す（右から）澁谷工業の中俊明専務、沖縄高専の池松真也副校長、千葉俊明特命教授ら5日、県庁

臓器生成から搬送まで一貫



県の先端医療産業開発拠点形成事業を受託し、8月から本格的に実施している。2017年度までに新たな臓器生成装置の製品化と製造した脊

髓を大型動物に移植する実証実験の実現を目指す。本年度予算は3億円。

次年度以降は、4者の技術を組み合わせた一貫した再生医療の体制構築に取り組む。産業化には数年以上かかると思われるっており、4者は県の事業終了後も研究・開発を続ける考え。

ANA国際物流貨物ハブを活用することで、日本と東南アジアの将来的な需要を取り込めると見通し、緊急時対応や温度管理などの空輸システムの確立にも取り組む。

5日、県庁で会見した沖縄高専の千葉俊明特命教授（生物資源工学）は「大都市で注目されるiPS細胞ではなく、臨床実績の多い脂肪幹細胞を使うことで、地理性に加えた他都市との差別化にもつながる」と話した。

池松真也副校長は「4者が持つ技術を融合し、互いに評価・検証しながら技術を発展させていきたい」と意気込んだ。

| | 平成25年度 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | |
|--------|--------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 共同研究 | 17 | 9,305,000 | 24 | 18,997,000 | 23 | 26,225,000 |
| 受託研究 | 15 | 77,272,850 | 15 | 117,842,739 | 16 | 243,980,262 |
| 寄附金 | 13 | 5,401,850 | 17 | 5,129,000 | 12 | 5,875,000 |
| 預かり助成金 | 2 | 550,000 | 4 | 1,237,000 | 4 | 706,680 |
| 受託事業 | 2 | 12,492,823 | 2 | 2,030,600 | 2 | 2,603,565 |
| 受託試験 | 0 | 0 | 1 | 42,800 | 0 | 0 |
| 補助金 | 2 | 2,059,000 | 3 | 5,016,000 | 2 | 4,024,000 |
| 合計 | 51 | 107,081,523 | 66 | 150,295,139 | 59 | 283,414,507 |

・科学研究費補助金

| 区分 | | 平成25年度 | | 平成26年度 | | 平成27年度 | |
|---------|------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|
| | | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 基盤研究(S) | 研究代表 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 研究分担 | 0 | 0 | 1 | 845,000 | 1 | 1,287,000 |
| 基盤研究(B) | 研究代表 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 研究分担 | 1 | 1,040,000 | 0 | 0 | 2 | 2,600,000 |
| 基盤研究(C) | 研究代表 | 7 | 8,047,000 | 7 | 6,747,000 | 5 | 6,240,000 |
| | 研究分担 | 4 | 754,000 | 4 | 685,100 | 5 | 858,000 |
| 挑戦的萌芽 | 研究代表 | 1 | 650,000 | 0 | 0 | 1 | 1,170,000 |
| | 研究分担 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 260,000 |
| 若手研究(B) | | 4 | 9,360,000 | 5 | 7,540,000 | 6 | 4,030,000 |
| 奨励研究 | | 5 | 3,000,000 | 2 | 1,200,000 | 2 | 1,200,000 |
| 計 | | 22 | 22,851,000 | 19 | 17,017,100 | 23 | 17,645,000 |

◇地域連携コーディネーターの配置

本校産学連携協力会を中心とした連携構築から、会員以外企業との連携の幅の広がりを見せており、新たな事業展開へ図る。

◇沖縄高専フォーラムの開催

本校の教育研究内容の紹介を行うとともに、産学官金連携の推進を図るため沖縄高専フォーラムを開催している。フォーラムには県内企業、金融機関及び公的機関の関係者等が多数参加し、本校教職員との新たな連携の発掘に繋がっている。

◇ 科学研究費助成事業説明会

教員等の研究に対する意識向上や外部資金獲得の必要性の認識を強化し、科研費申請促進を目的とした科学研究費助成事業説明会を開催している。

3. 自己評価

共同研究、受託研究、寄付金及び受託事業等外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加が図られた。今後は、さらに県、企業等との連携を図ることにより、外部資金の獲得、事業の展開、及び地域貢献の発展へ繋げる。

また、科学研究費補助金については、教員間による申請書の査読を推進し、科研費採択率の向上を図る。

XI 管理運営

XI 管理運営

1. 現状

◇本校では目的を達成するため校長のリーダーシップの下に、副校長（研究担当）副校長（産学連携担当）、総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事を置き、その責務を遂行すべく、その役割について明確に規定されている。

沖縄工業高等専門学校学則（抜粋）

（副校長）

第8条 本校に、副校長を置く。

2 副校長は、校長の命を受け、校長を補佐するとともに、必要に応じて校長の代理を務める。

（主事）

第9条 本校に、総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

2 総務主事は、校長の命を受け、学校の管理運営の企画立案その他校務に関すること（教務主事、学生主事及び寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

3 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

4 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

5 寮務主事は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

◇校長の下に専攻科長，各学科長，図書館長，情報処理センター、地域連携推進センター、キャリア教育センター及びグローバル交流推進センターにそれぞれ情報処理センター長、地域連携推進センター長、キャリア教育センター長、グローバル交流推進センター長、技術室長及び教育福祉推進室長を置き、それぞれの組織における管理・運営に携わっている

2. 取組

本校の管理運営に関する諸問題、各種委員会等で審議・検討された事項は、運営企画会議で審議・協議を行い、校務の円滑なる運営を図っている。

沖縄工業高等専門学校運営企画会議規則（抜粋）

（設置）

第1条 沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、運営企画会議を置く。

（目的）

第2条 運営企画会議は、本校の管理運営に関する諸問題について検討し、校務の円滑なる運営を図ることを目的とする。

（構成員）

第3条 運営企画会議の構成員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事
- (4) 各学科長
- (5) 専攻科長
- (6) 技術室長
- (7) 事務部長
- (8) 総務課長及び学生課長

2 校長が必要と認めたときは、前項各号に掲げた者以外の者が出席できるものとする。

（会議）

第4条 運営企画会議は、校長が招集し、主宰する。

2 運営企画会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

（事務）

第5条 運営企画会議に関する事務は、総務課において処理する。

3. 自己評価

学校の目的を達成するために、校長のリーダーシップの下、管理運営が行われており、それを補佐する副校長、総務主事、教務主事、学生主事及び寮務主事は校長の命を受けて定められた業務を行っている。専攻科長、各学科長、図書館長、各センター長等は、それぞれの組織における管理・運営に携わっている。

校長は、管理運営に関する諸問題、校務の円滑な運営を図るために運営企画会議各種委員会等に諮問し、最終的に効果的な意志決定が行える態勢になっている。

今後の本校の管理運営については、時代に適応した校務の運営を図るには、会議、委員会等を統廃合して組織を縮小し、審議事項の整理・集約、構成員を見直すことによる審議の迅速化、教員の業務軽減等を図る必要があると考える。